

② 第2回アンケートの結果

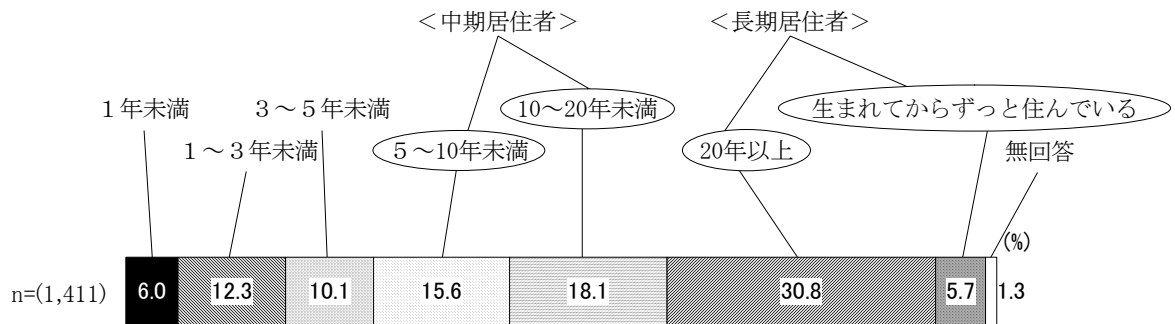
1 定住状況について

1-1 居住年数

◎ 20年以上の<長期居住者>が36.5%

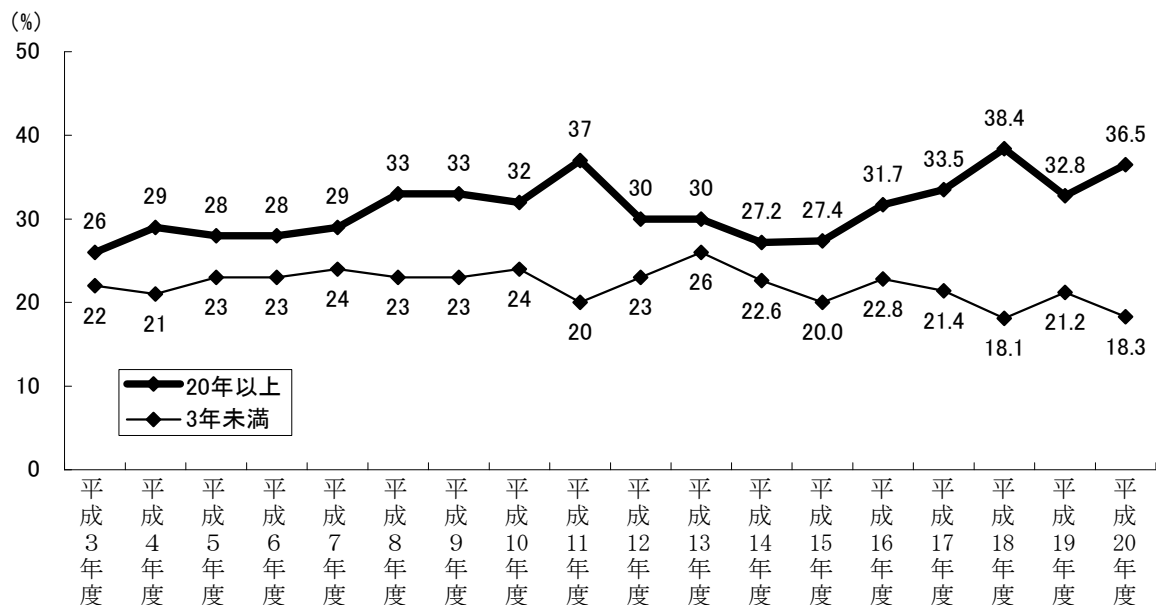
問1 今のところにお住まいになって、何年になりますか。(〇は1つ)

図表1-1 居住年数



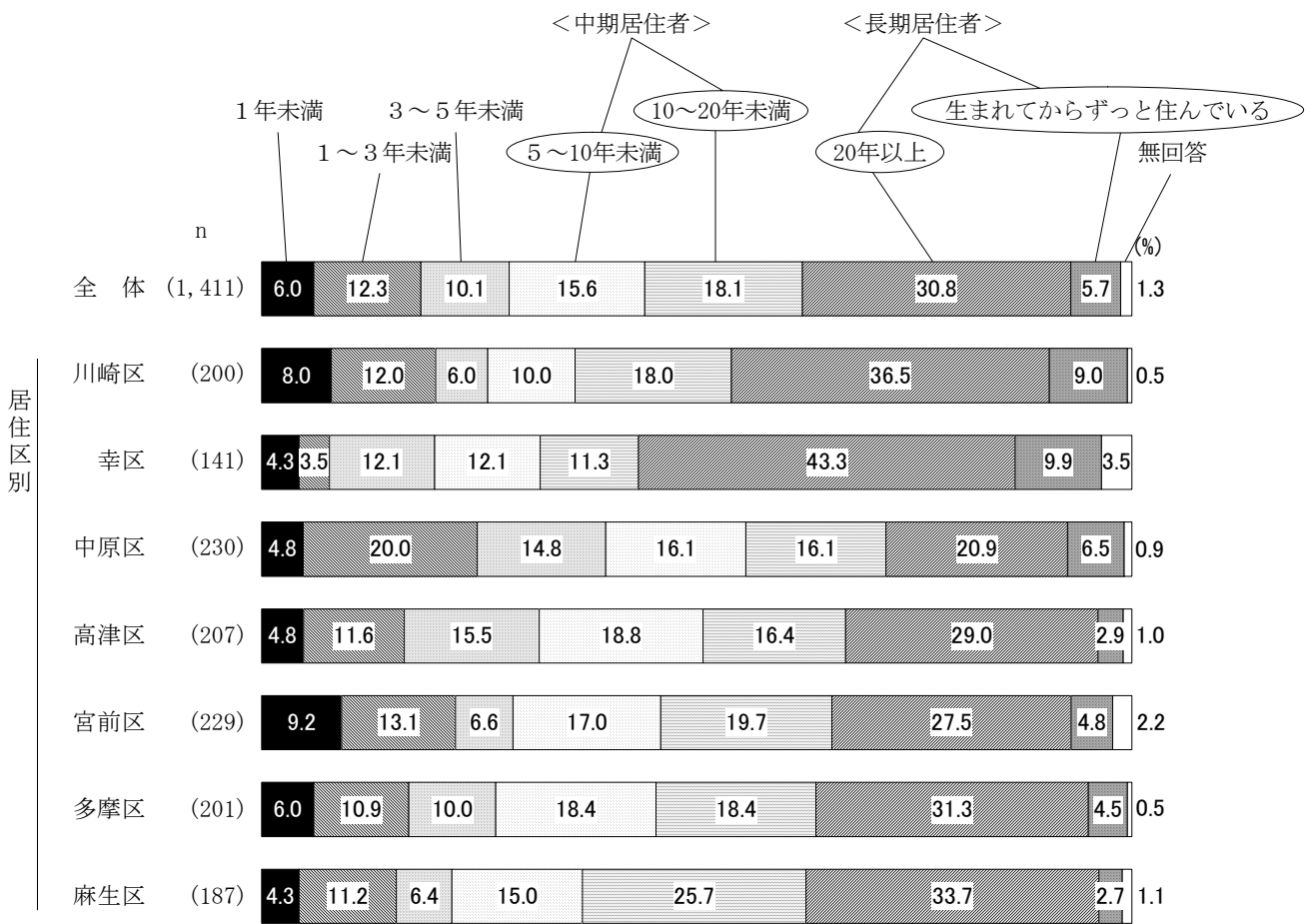
居住年数は、「20年以上」(30.8%)が最も多く、これに「生まれてからずっと住んでいる」(5.7%)をあわせた<長期居住者>は36.5%、「5~10年未満」(15.6%)と「10~20年未満」(18.1%)をあわせた<中期居住者>は33.7%となっている。(図表1-1)

図表1-2 居住年数(経年比較)



過去の推移では、平成19年度と比べると<長期居住者>の割合は32.8%から36.5%へ3.7ポイント増加している。「3年未満」は21.2%から18.3%へ2.9ポイント減少し、「20年以上」と「3年未満」の割合の差が18.2ポイントで多くなっている。(図表1-2)

図表1-3 居住年数(居住区別)



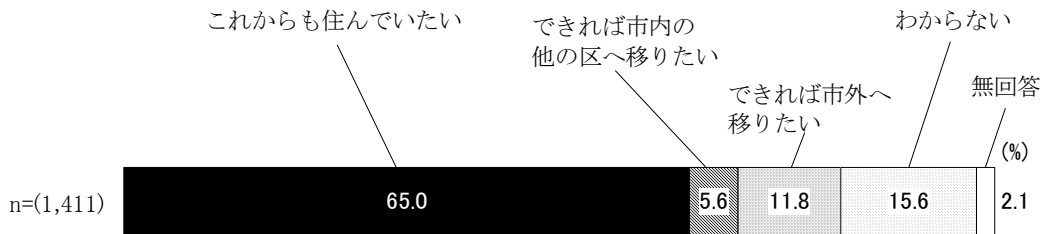
居住区別では、<長期居住者>の割合は、幸区が53.2%で最も多く、次いで川崎区が45.5%となっている。「3年未満」は、中原区が24.8%で最も多く、川崎区、宮前区が2割台となっている。(図表1-3)

1-2 定住意向

◎ 「これからも住んでいたい」が65.0%

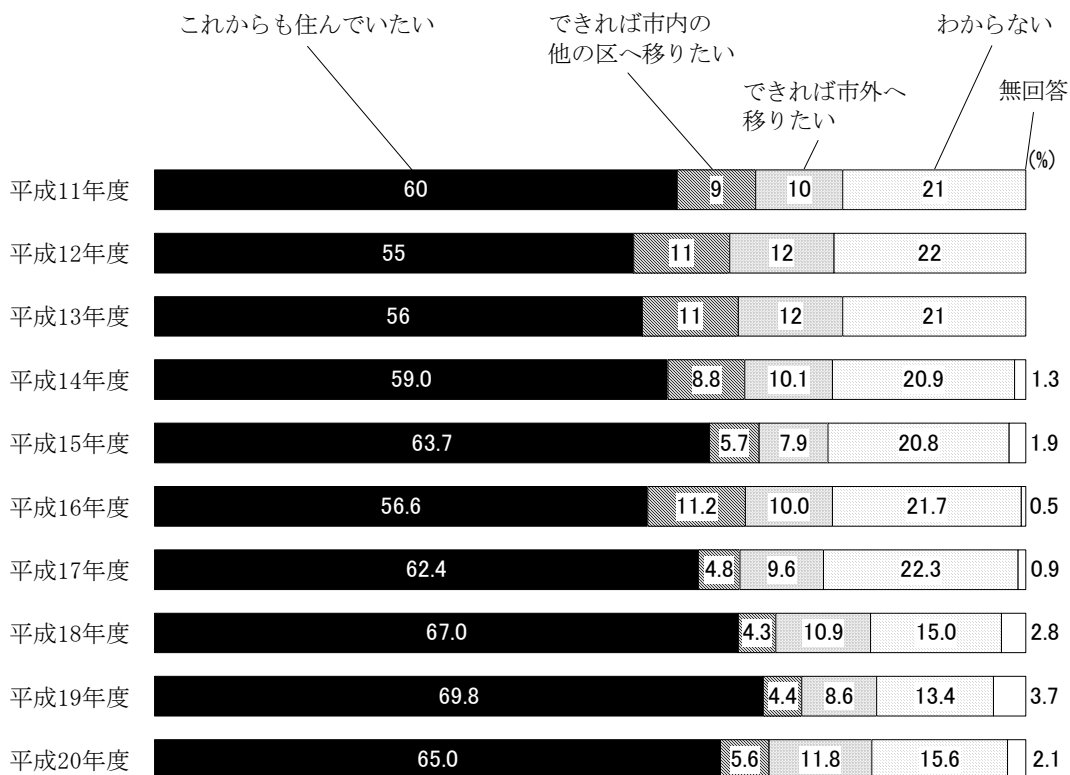
問2 これからも今のところにお住まいになりたいですか。(〇は1つ)

図表1-4 定住意向



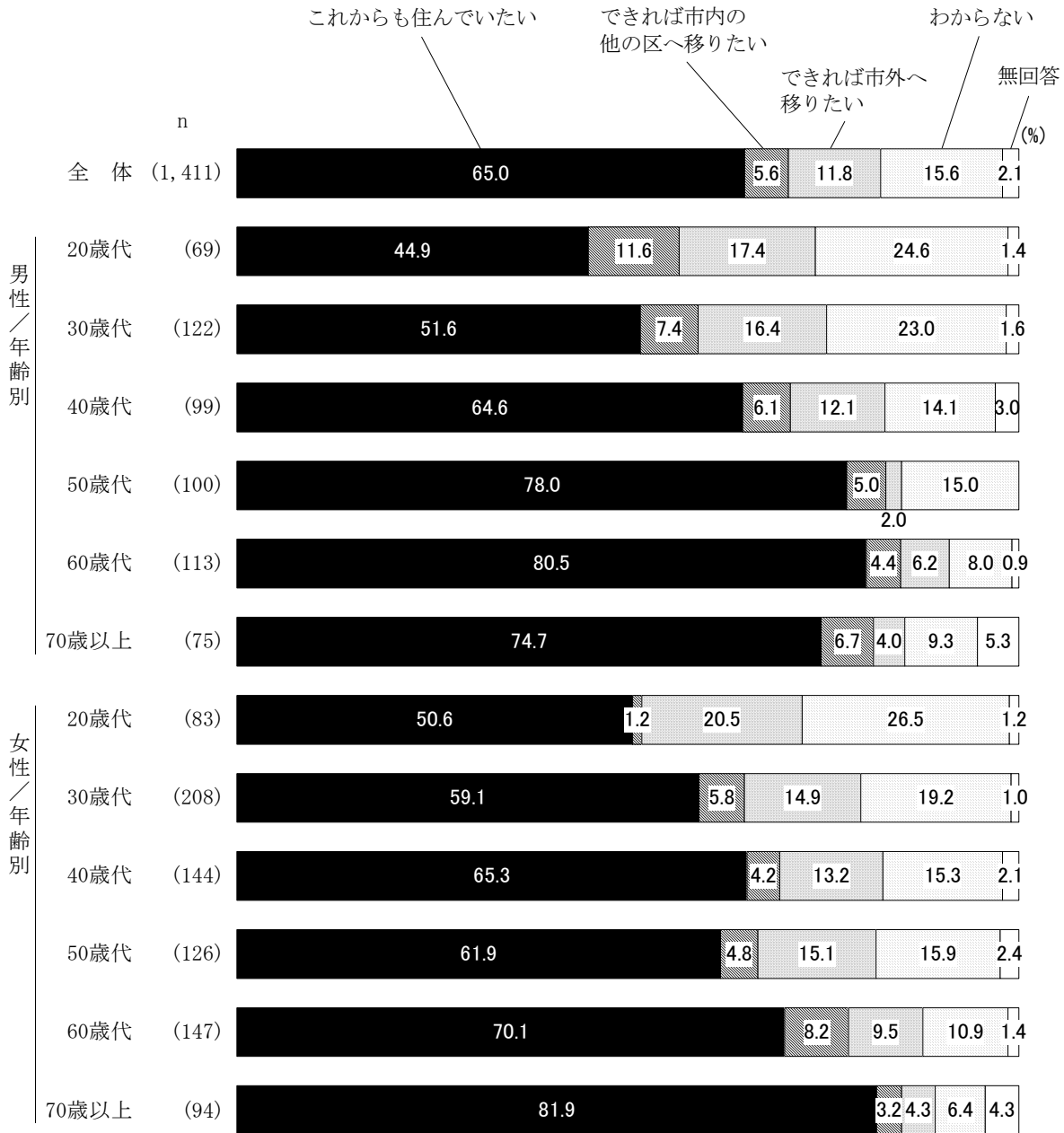
定住意向は、「これからも住んでいたい」は65.0%、「できれば市外へ移りたい」が11.8%となっている。(図表1-4)

図表1-5 定住意向(経年比較)



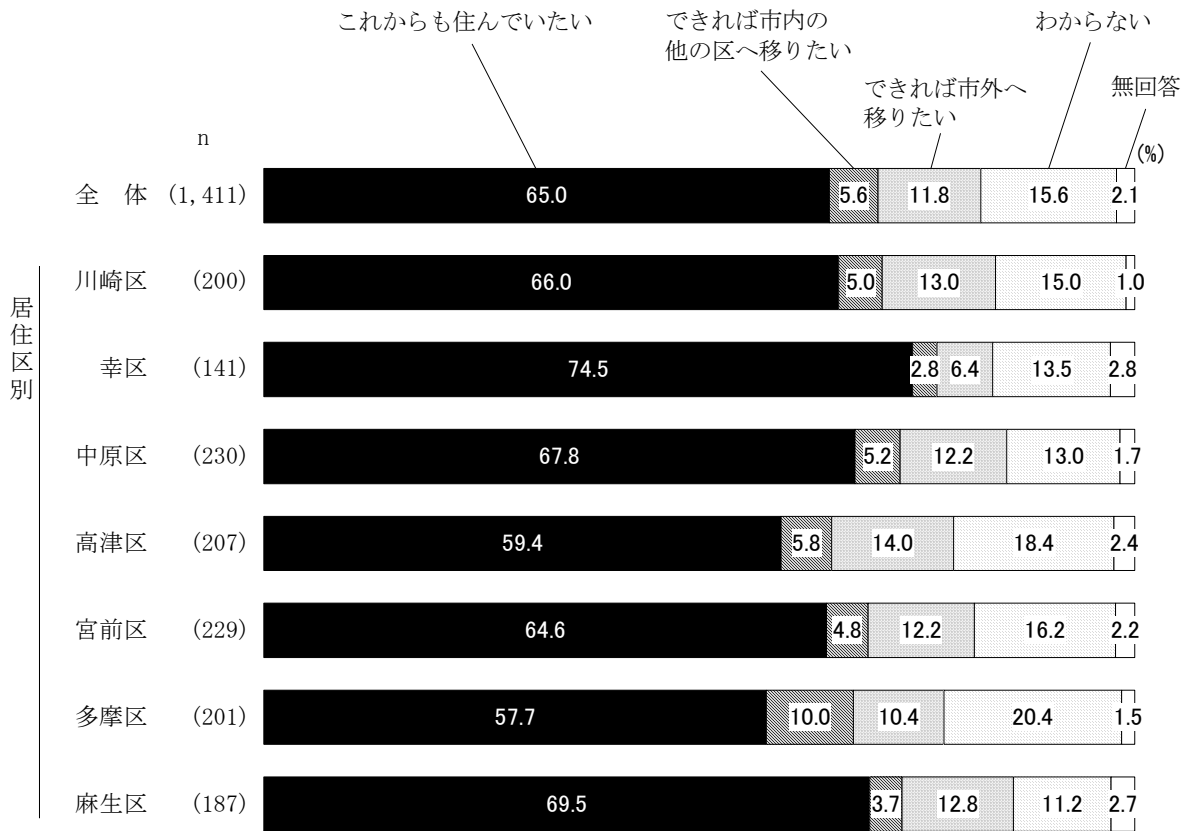
「これからも住んでいたい」は平成17年度以降は6割台で推移しており、「できれば市内の他の区へ移りたい」とあわせた市内在住意向は約7割となっている。(図表1-5)

図表1-6 定住意向(性/年齢別)



性/年齢別では、「これからも住んでいたい」は、男女ともに年齢が高くなるにつれ、割合が多くなる傾向となっており、男性の60歳代と女性の70歳以上が8割台となっている。(図表1-6)

図表1-7 定住意向(居住区別)



居住区別では、「これからも住んでいたい」は、幸区が7割台半ば、麻生区が約7割で多くなっている。(図表1-7)

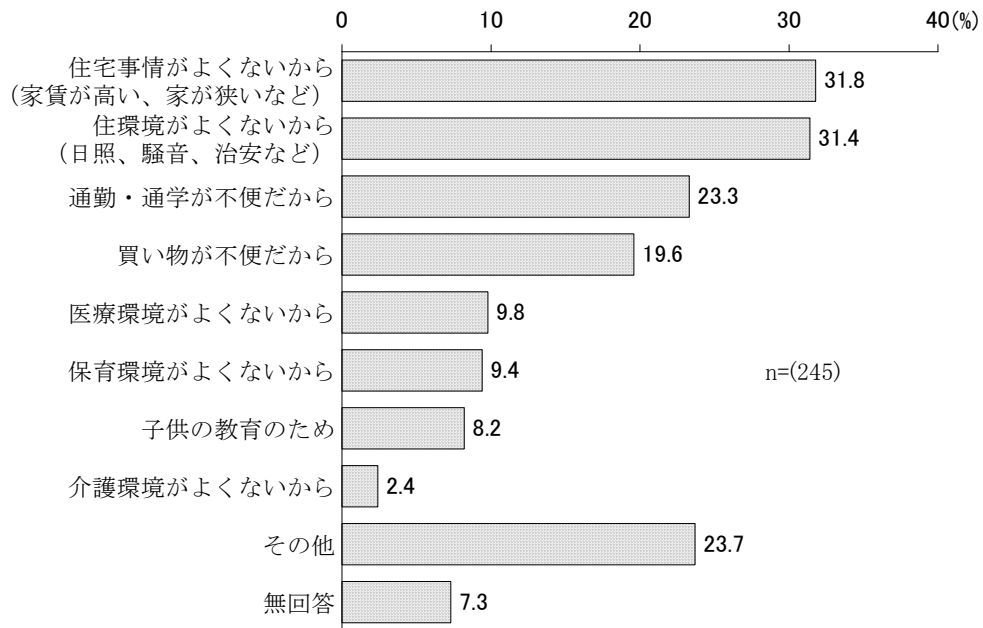
1-3 転居意向の理由

◎ 「住宅事情がよくないから（家賃が高い、家が狭いなど）」が31.8%、「住環境がよくないから（日照、騒音、治安など）」が31.4%

(問2で「2. できれば市内の他の区へ移りたい」または「3. できれば市外へ移りたい」と答えた方にうかがいます。)

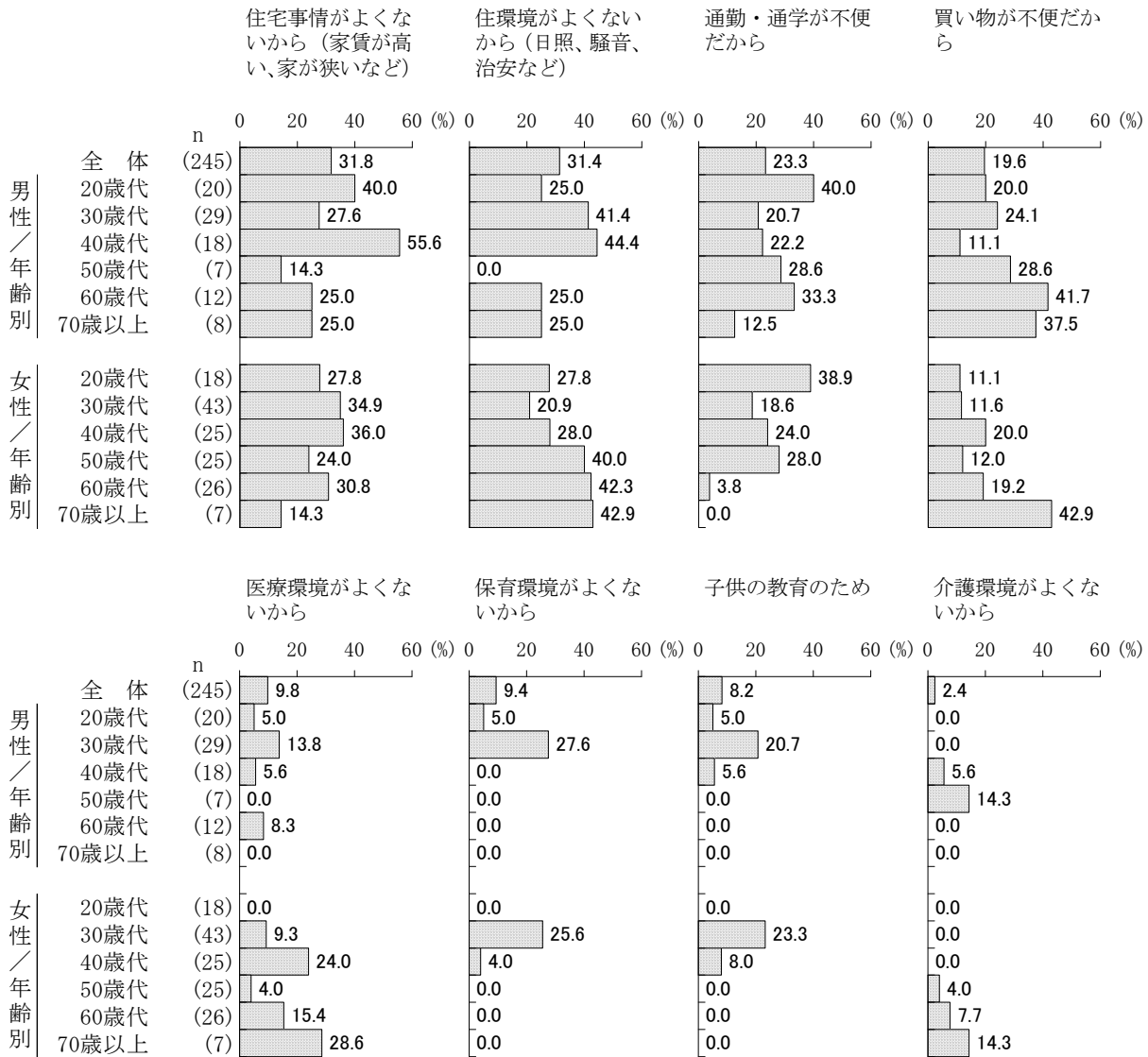
問2-(1) 今のところから移りたい、または移る理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表1-8 転居意向の理由



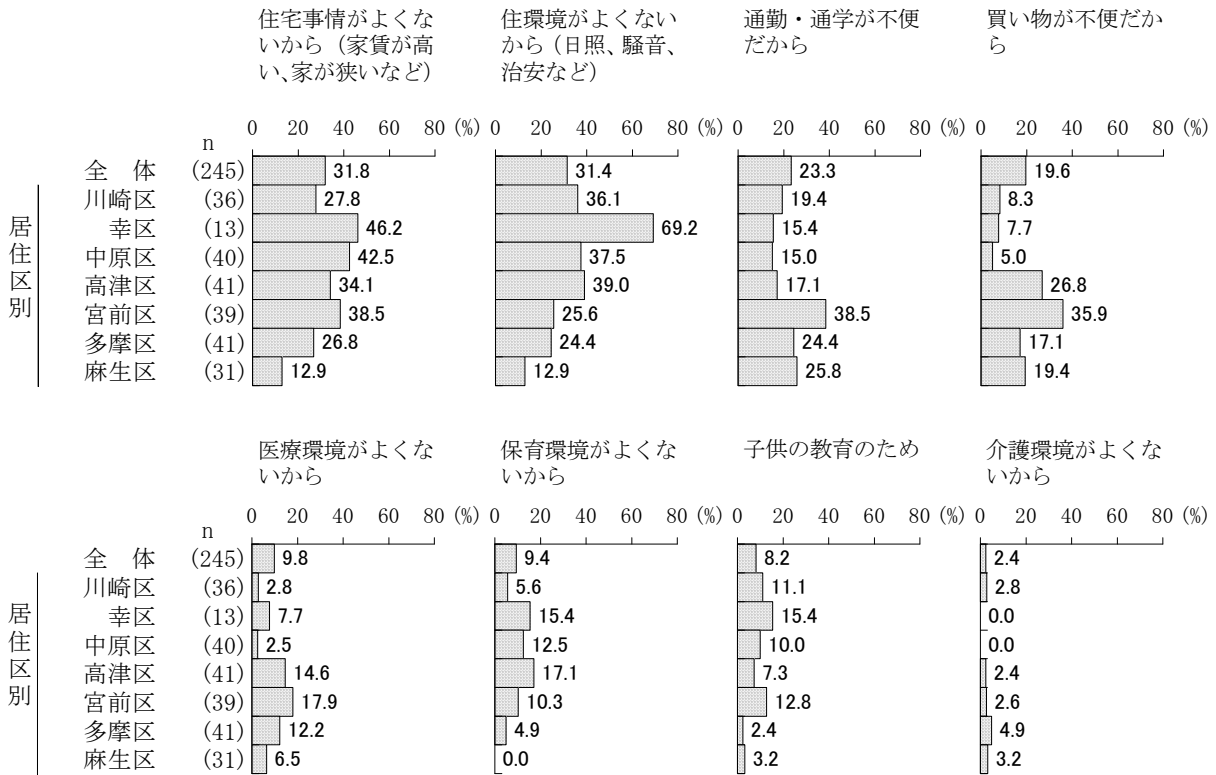
転居意向の理由は、「住宅事情がよくないから（家賃が高い、家が狭いなど）」(31.8%)、「住環境がよくないから（日照、騒音、治安など）」(31.4%)が多くなっている。以下「通勤・通学が不便だから」(23.3%)、「買い物が不便だから」(19.6%)と続いている。(図表1-8)

図表1-9 転居意向の理由(性/年齢別、上位8項目)



※性/年齢別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表1-9)

図表1-10 転居意向の理由（居住区別、上位8項目）



※居住区別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表1-10)

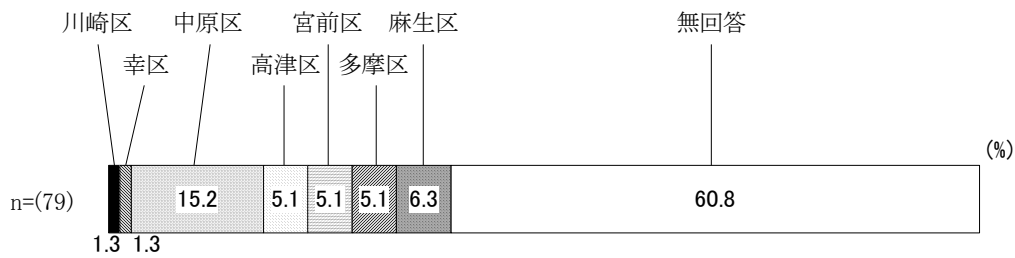
1-4 転居先の希望

◎ 市内では「中原区」(15.2%)、市外では「東京23区」(44.6%)が多い

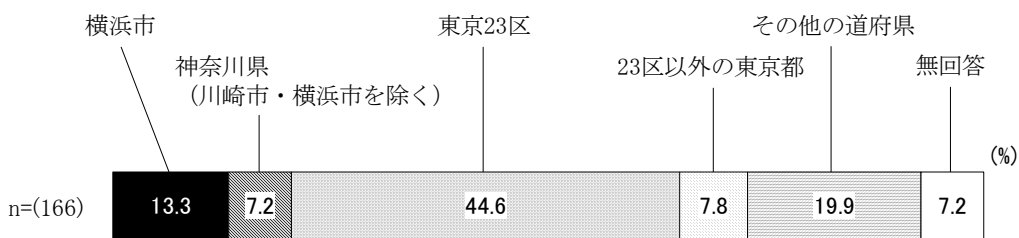
(問2で「2. できれば市内の他の区へ移りたい」または「3. できれば市外へ移りたい」と答えた方にうかがいます。)

問2-(2) どこに住みたいと思いますか。(〇は1つ)

図表1-11 転居先の希望(市内)



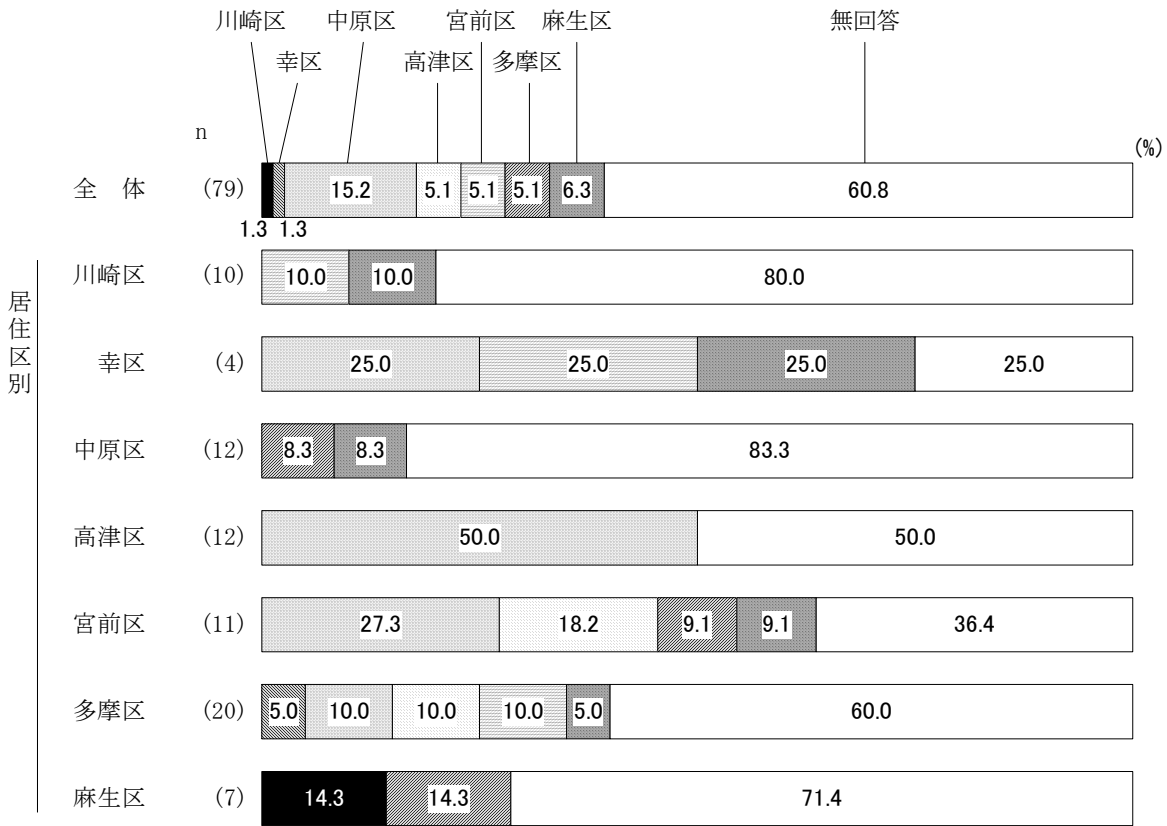
図表1-12 転居先の希望(市外)



転居先の希望(市内)は、「中原区」(15.2%)が最も多くなっている。(図表1-11)

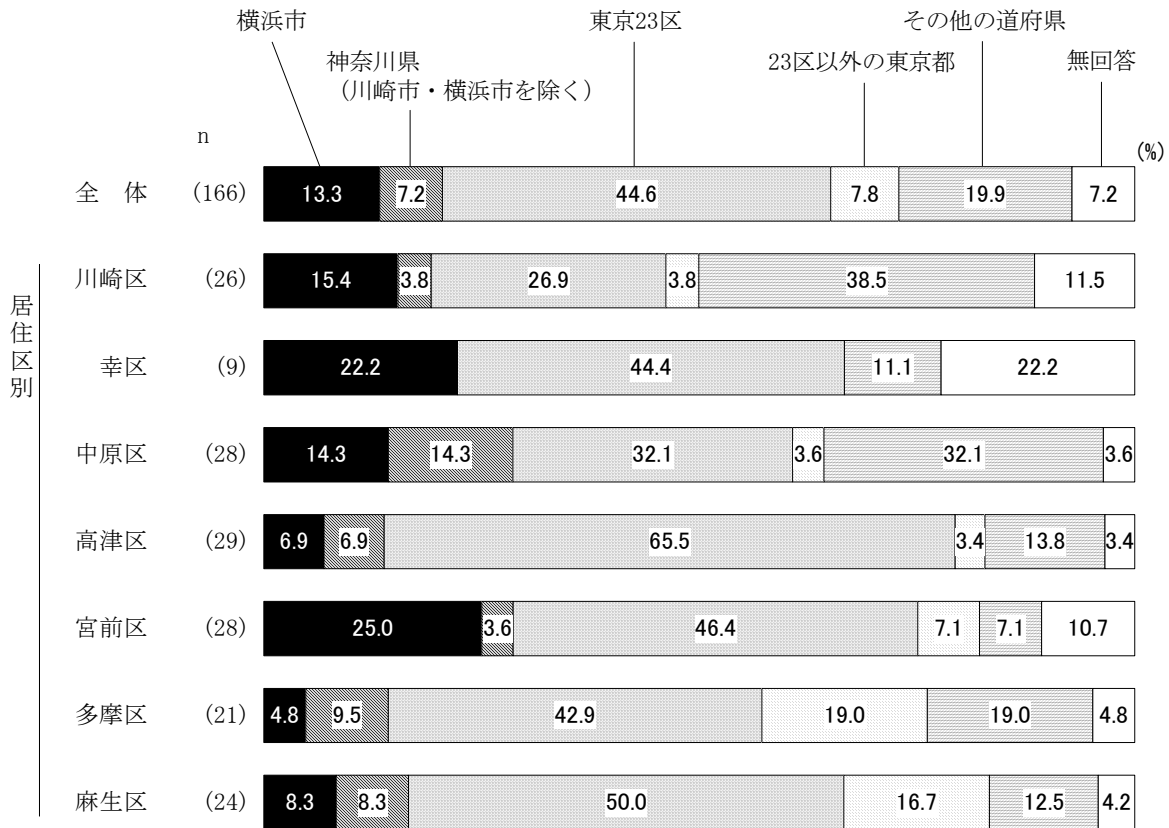
転居先の希望(市外)は、「東京23区」(44.6%)が最も多く、「その他の道府県」(19.9%)、「横浜市」(13.3%)と続いている。(図表1-12)

図表1-13 転居先の希望(市内、居住区別)



※居住区別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表1-13)

図表1-14 転居先の希望（市外、居住区別）



居住区別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表1-14)

2 生活環境の評価について

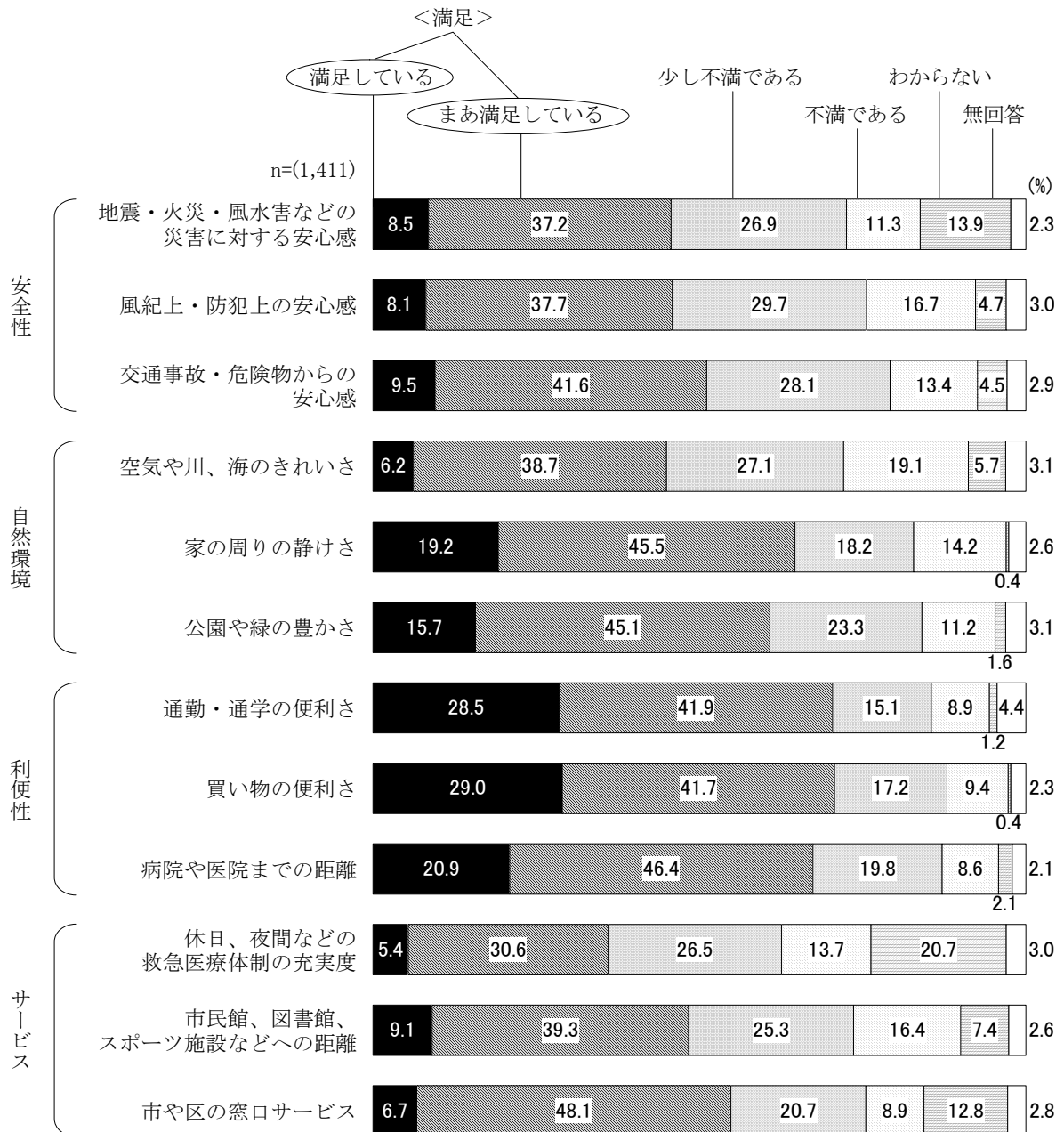
2-1 生活環境の満足度

◎ <満足>が多いのは、「買い物の便利さ」で70.7%、「通勤・通学の便利さ」で70.4%

問3 お住まいの周りの生活環境についてうかがいます。

次にあげる項目についてどの程度満足していますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

図表2-1 生活環境の満足度



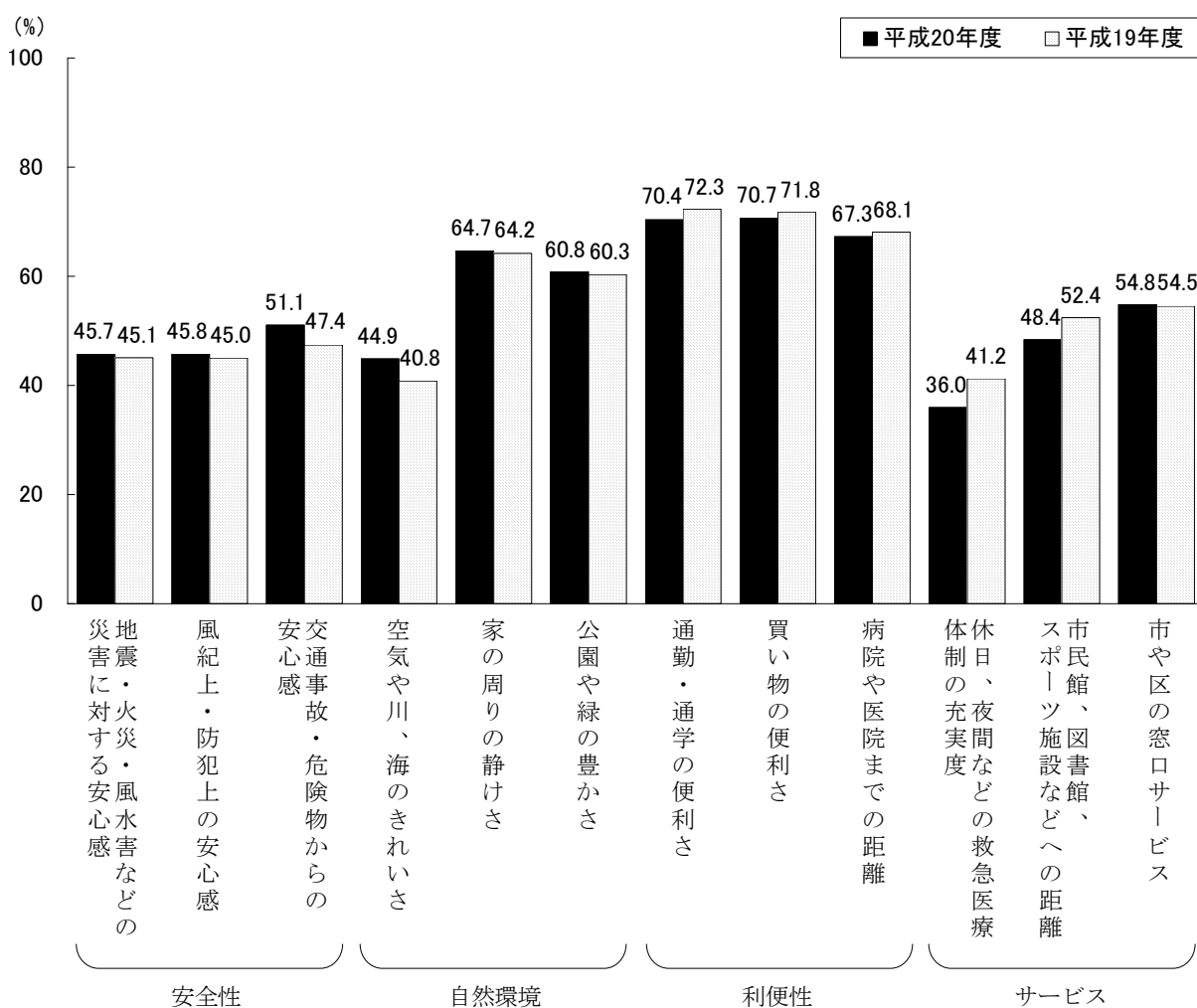
生活環境について、「満足している」と「まあ満足している」をあわせた<満足>が多いのは、「買い物の便利さ」(70.7%)、「通勤・通学の便利さ」(70.4%)、「病院や医院までの距離」(67.3%)などの『利便性』となっている。一方、<満足>が最も少ないのは「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」(36.0%)となっている。(図表2-1)

図表2-2 生活環境の満足度（＜満足＞、前年比較）

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示

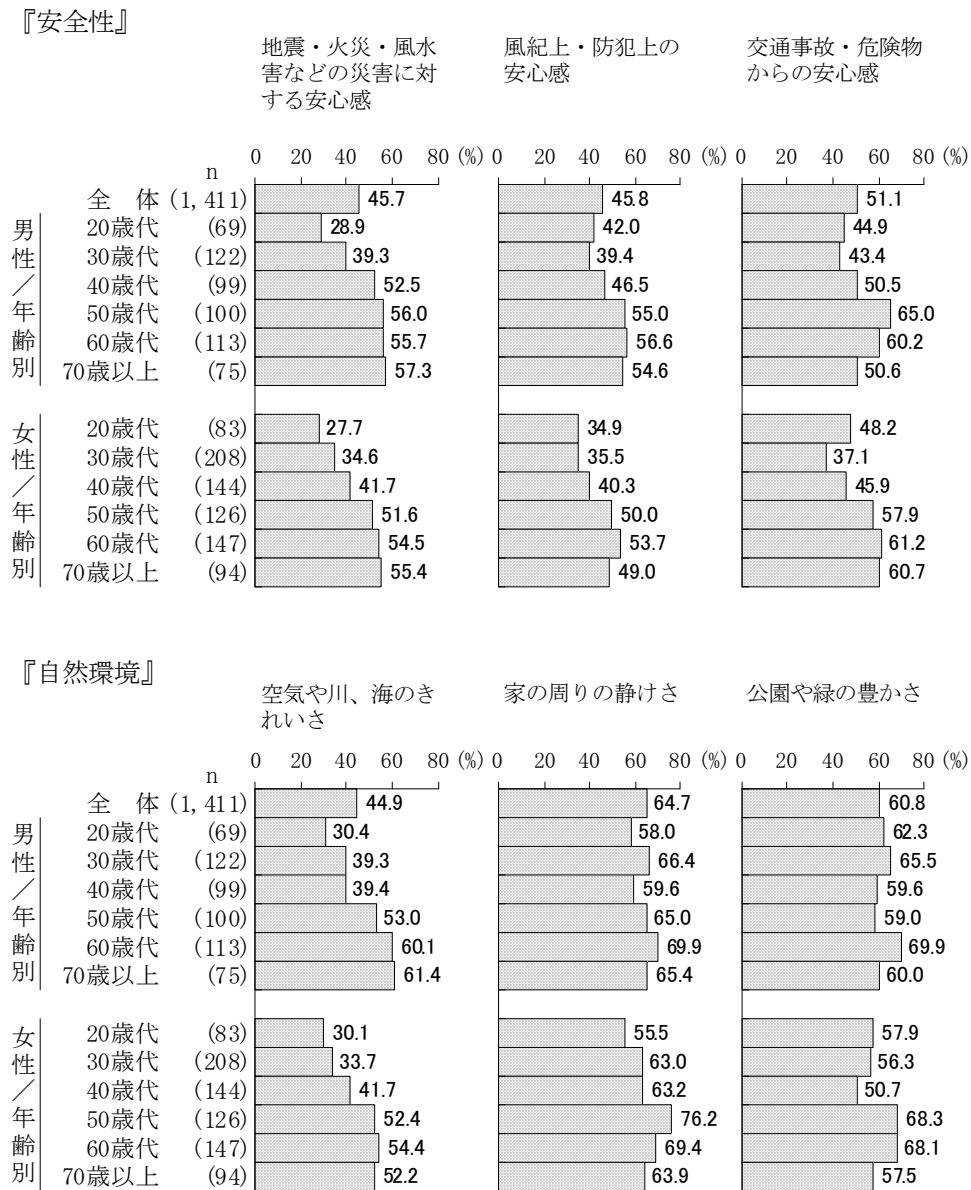
(%)

| | 地震・火災・風水害などの災害に対する安心感 | 風紀上・防犯上の安心感 | 交通事故・危険物からの安心感 | 空気や川、海のきれいさ | 家の周りの静けさ | 公園や緑の豊かさ | 通勤・通学の便利さ | 買い物の便利さ | 病院や医院までの距離 | 休日、夜間などの救急医療体制の充実度 | 市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離 | 市や区の窓口サービス |
|--------|-----------------------|-------------|----------------|-------------|----------|----------|-----------|---------|------------|--------------------|----------------------|------------|
| 平成20年度 | 45.7 | 45.8 | 51.1 | 44.9 | 64.7 | 60.8 | 70.4 | 70.7 | 67.3 | 36.0 | 48.4 | 54.8 |
| 平成19年度 | 45.1 | 45.0 | 47.4 | 40.8 | 64.2 | 60.3 | 72.3 | 71.8 | 68.1 | 41.2 | 52.4 | 54.5 |



平成19年度と比較すると、満足度は、「空気や川、海のきれいさ」（44.9%）は4.1ポイント、「交通事故・危険物からの安心感」は3.7ポイントなど、7項目で増加している。一方、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」（36.0%）は5.2ポイント、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は4.0ポイントの減少となっている。（図表2-2）

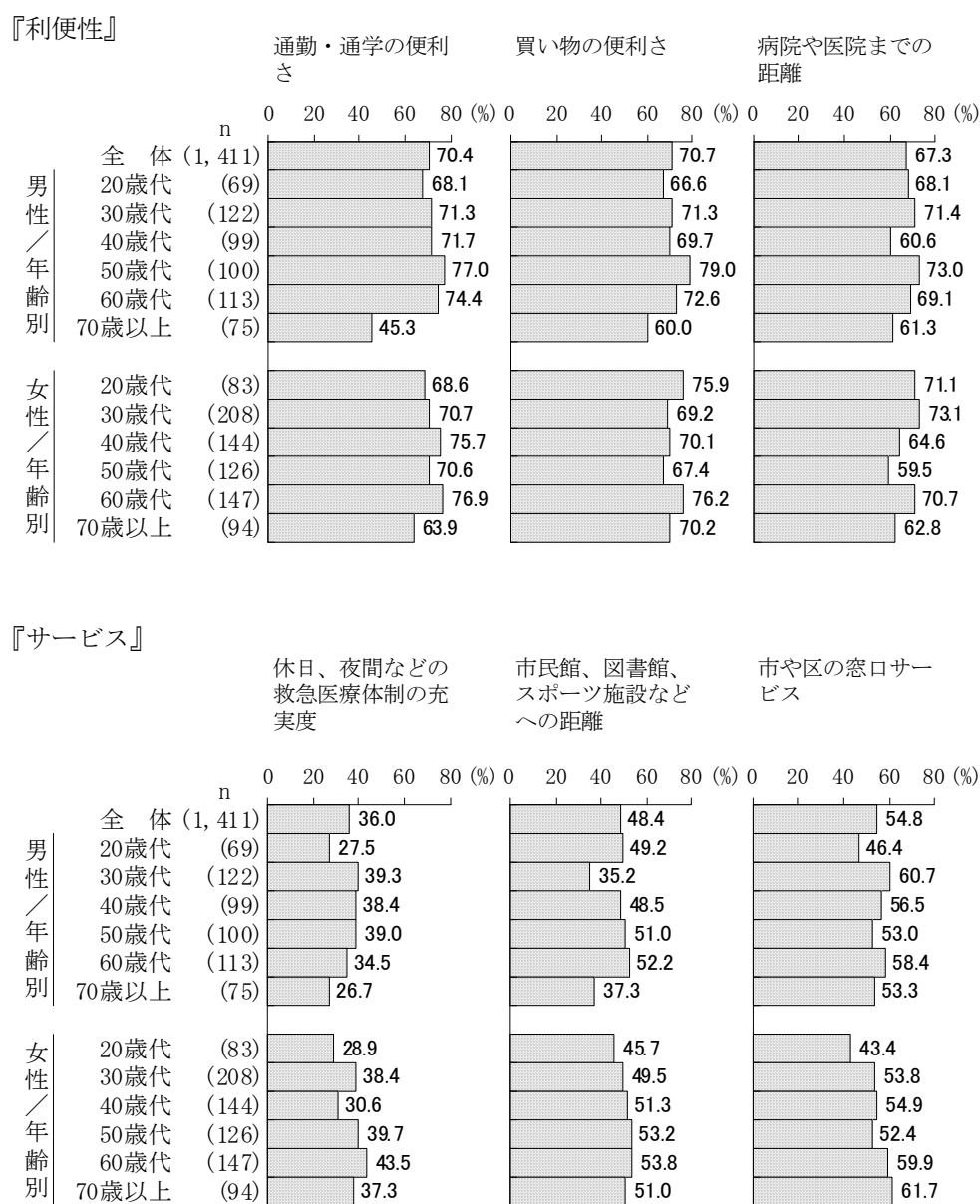
図表2-3 生活環境の満足度 (<満足>、性/年齢別)



性/年齢別で満足度をみると、『安全性』では、男女ともに50歳代から70歳以上で多くなっており、特に「交通事故・危険物からの安心感」は男性の50歳代が6割台半ばとなっている。一方、「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」は、男女ともに20歳代が2割台で少なくなっている。

『自然環境』では、「空気や川、海のきれいさ」は、男女ともに50歳代から70歳以上が5割台から6割台で多く、「家の周りの静けさ」と「公園や緑の豊かさ」は、全ての年代で5割台から7割台となっている。(図表2-3)

図表2-4 生活環境の満足度 (<満足>、性/年齢別)



『利便性』では、「通勤・通学の便利さ」は、男性の50歳代と女性の60歳代が7割台後半で多く、男性の70歳以上が4割台半ばで少なくなっている。「買い物の便利さ」は、男性の50歳代が約8割となっている。「病院や医院までの距離」は、男女ともに全ての年代で約6割から7割台となっている。

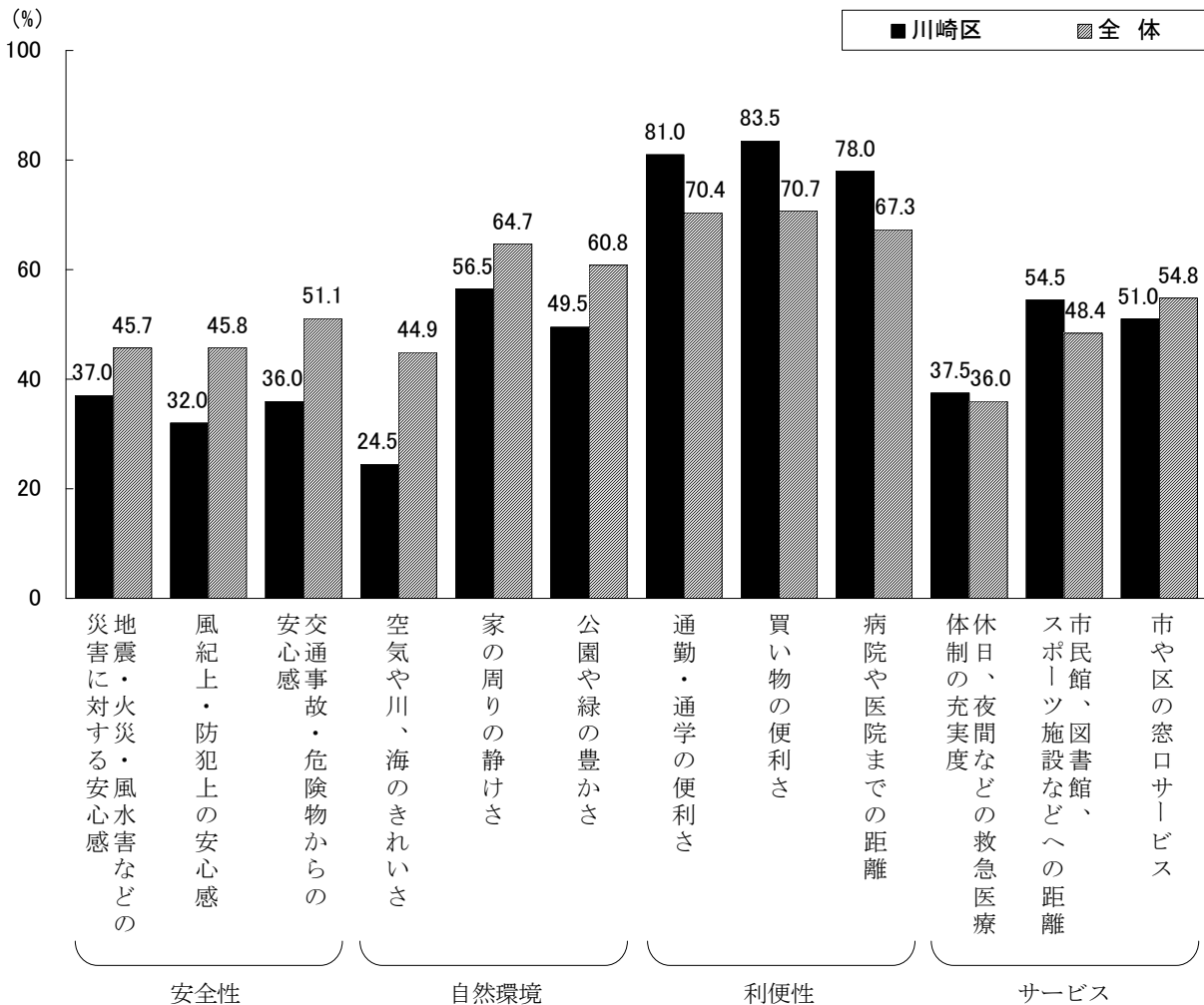
『サービス』では、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」は、女性の60歳代が4割台前半で最も多くなっている。「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は、男性の30歳代と70歳以上が3割台で少なく、男女ともに他の年代では4割台から5割台となっている。「市や区の窓口サービス」は、女性の70歳以上が6割台前半で最も多く、男女ともに20歳代が4割台で少なくなっている。(図表2-4)

図表2-5 生活環境の満足度 (<満足>、川崎市)

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示

(%)

| | 地震・火災・風水害などの災害に対する安心感 | 風紀上・防犯上の安心感 | 交通事故・危険物からの安心感 | 空気や川、海のきれいさ | 家の周りの静けさ | 公園や緑の豊かさ | 通勤・通学の便利さ | 買い物の便利さ | 病院や医院までの距離 | 休日、夜間などの救急医療体制の充実度 | 市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離 | 市や区の窓口サービス |
|-----|-----------------------|-------------|----------------|-------------|----------|----------|-----------|---------|------------|--------------------|----------------------|------------|
| 川崎市 | 37.0 | 32.0 | 36.0 | 24.5 | 56.5 | 49.5 | 81.0 | 83.5 | 78.0 | 37.5 | 54.5 | 51.0 |
| 全体 | 45.7 | 45.8 | 51.1 | 44.9 | 64.7 | 60.8 | 70.4 | 70.7 | 67.3 | 36.0 | 48.4 | 54.8 |



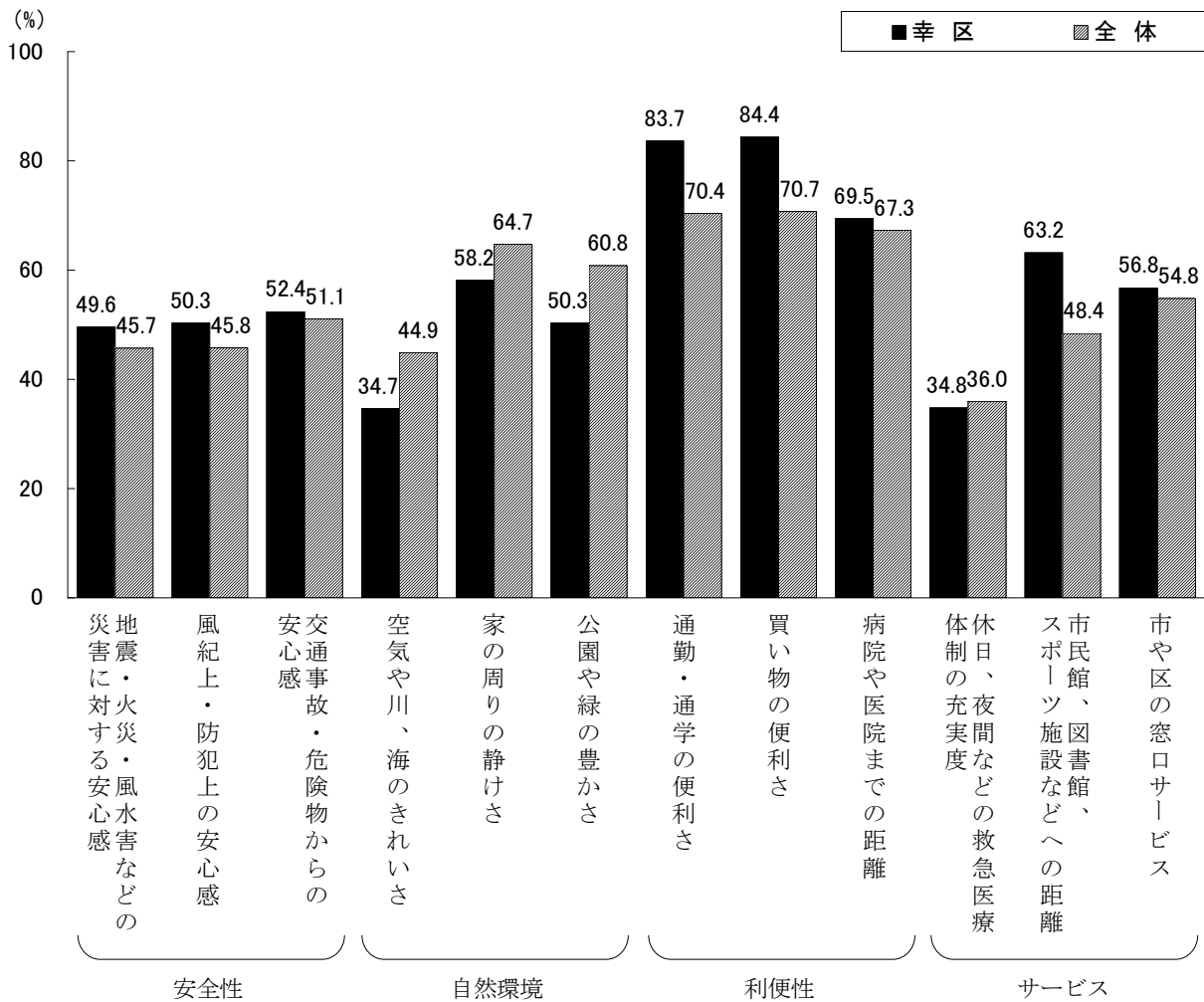
川崎市の生活環境満足度は、『利便性』では、市全体の満足度を上回り、「通勤・通学の便利さ」(81.0%)、「買い物の便利さ」(83.5%)、「病院や医院までの距離」(78.0%)が10ポイント以上上回っている。一方、『安全性』、『自然環境』では、市全体の満足度を下回り、「空気や川、海のきれいさ」(24.5%)では、20ポイント以上下回っている。また、「風紀上・防犯上の安心感」(32.0%)、「交通事故・危険物からの安心感」(36.0%)、「公園や緑の豊かさ」(49.5%)でも、10ポイント以上下回っている。(図表2-5)

図表2-6 生活環境の満足度（＜満足＞、幸区）

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示

(%)

| | 災害に対する安心感 地震・火災・風水害などの | 風紀上・防犯上の安心感 | 交通事故・危険物からの 安心感 | 空気や川、海のきれいさ | 家の周りの静けさ | 公園や緑の豊かさ | 通勤・通学の 便利さ | 買い物の 便利さ | 病院や医院までの 距離 | 休日、夜間などの救急医療 体制の充実度 | 市民館、図書館、 スポーツ施設などへの 距離 | 市や区の窓口サービス |
|----|---------------------------|-------------|--------------------|-------------|----------|----------|---------------|-------------|----------------|------------------------|------------------------------|------------|
| 幸区 | 49.6 | 50.3 | 52.4 | 34.7 | 58.2 | 50.3 | 83.7 | 84.4 | 69.5 | 34.8 | 63.2 | 56.8 |
| 全体 | 45.7 | 45.8 | 51.1 | 44.9 | 64.7 | 60.8 | 70.4 | 70.7 | 67.3 | 36.0 | 48.4 | 54.8 |



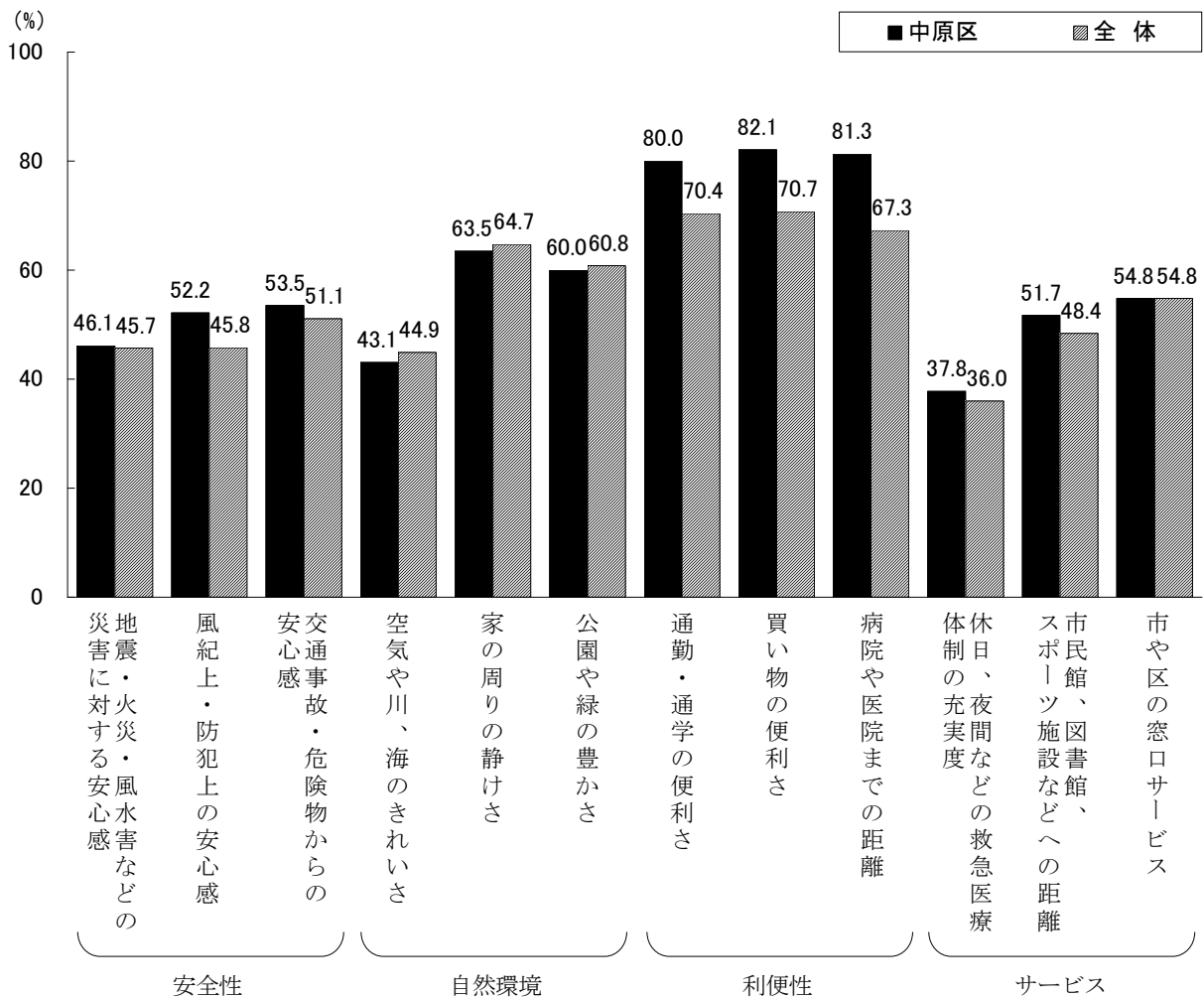
幸区の生活環境満足度は、『安全性』、『利便性』では、市全体の満足度を上回り、「通勤・通学の便利さ」(83.7%)、「買い物の便利さ」(84.4%)が10ポイント以上上回っている。一方、『自然環境』では市全体の満足度を下回り、「空気や川、海のきれいさ」(34.7%)、「公園や緑の豊かさ」(50.3%)では、10ポイント以上下回っている。(図表2-6)

図表2-7 生活環境の満足度 (<満足>、中原区)

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示

(%)

| | 災害に対する安心感 地震・火災・風水害などの | 風紀上・防犯上の安心感 | 交通事故・危険物からの安心感 | 空気や川、海のきれいさ | 家の周りの静けさ | 公園や緑の豊かさ | 通勤・通学の便利さ | 買い物の便利さ | 病院や医院までの距離 | 休日、夜間などの救急医療体制の充実度 | 市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離 | 市や区の窓口サービス |
|-----|---------------------------|-------------|----------------|-------------|----------|----------|-----------|---------|------------|--------------------|----------------------|------------|
| 中原区 | 46.1 | 52.2 | 53.5 | 43.1 | 63.5 | 60.0 | 80.0 | 82.1 | 81.3 | 37.8 | 51.7 | 54.8 |
| 全体 | 45.7 | 45.8 | 51.1 | 44.9 | 64.7 | 60.8 | 70.4 | 70.7 | 67.3 | 36.0 | 48.4 | 54.8 |



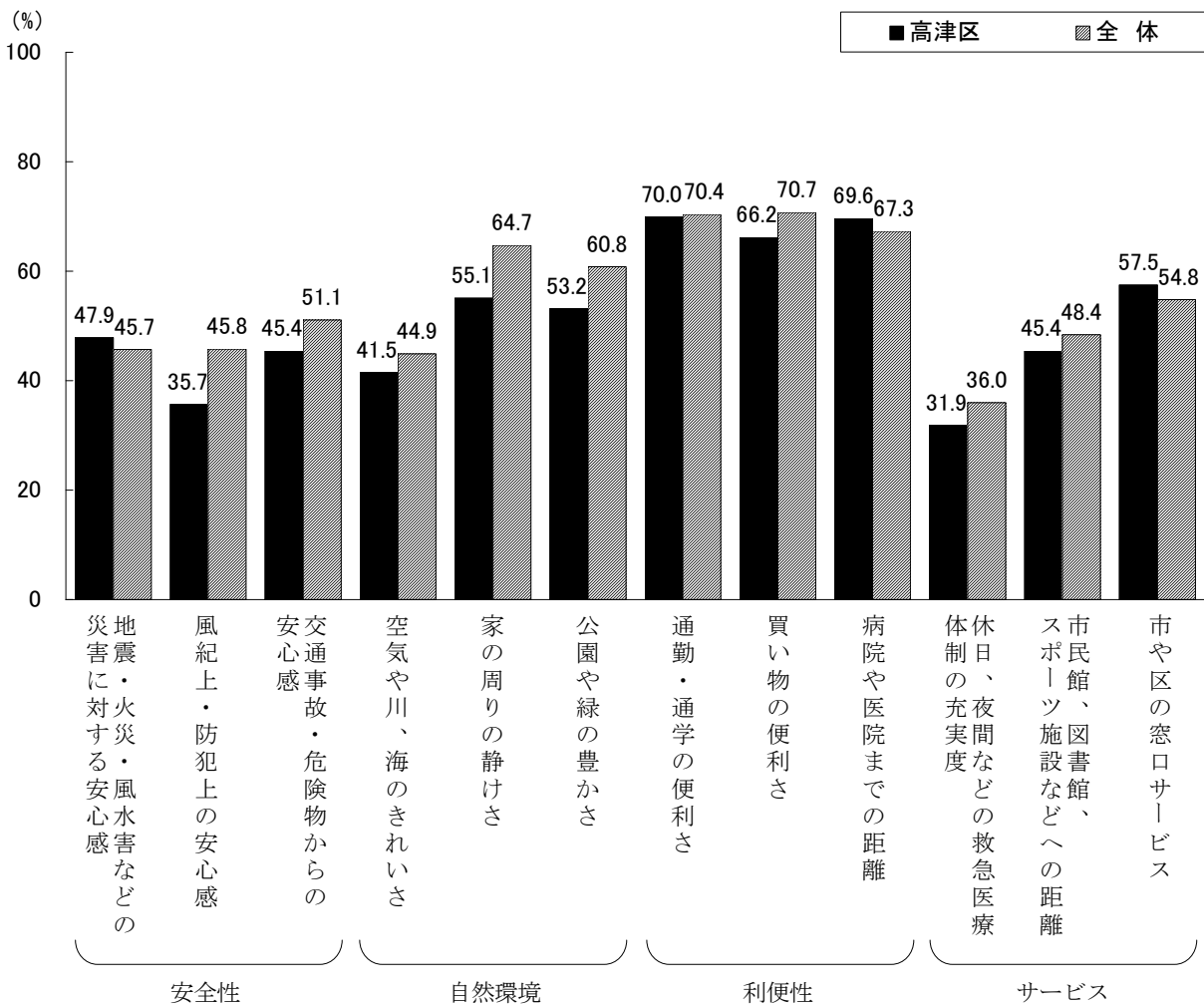
中原区の生活環境満足度は、『安全性』、『利便性』では、市全体の満足度を上回り、「買い物の便利さ」(82.1%)、「病院や医院までの距離」(81.3%)が10ポイント以上上回っている。一方、『自然環境』では、市全体の満足度を下回っている。(図表2-7)

図表2-8 生活環境の満足度 (<満足>、高津区)

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示

(%)

| | 地震・火災・風水害などの災害に対する安心感 | 風紀上・防犯上の安心感 | 交通事故・危険物からの安心感 | 空気や川、海のきれいさ | 家の周りの静けさ | 公園や緑の豊かさ | 通勤・通学の便利さ | 買い物の便利さ | 病院や医院までの距離 | 休日、夜間などの救急医療体制の充実度 | 市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離 | 市や区の窓口サービス |
|-----|-----------------------|-------------|----------------|-------------|----------|----------|-----------|---------|------------|--------------------|----------------------|------------|
| 高津区 | 47.9 | 35.7 | 45.4 | 41.5 | 55.1 | 53.2 | 70.0 | 66.2 | 69.6 | 31.9 | 45.4 | 57.5 |
| 全体 | 45.7 | 45.8 | 51.1 | 44.9 | 64.7 | 60.8 | 70.4 | 70.7 | 67.3 | 36.0 | 48.4 | 54.8 |



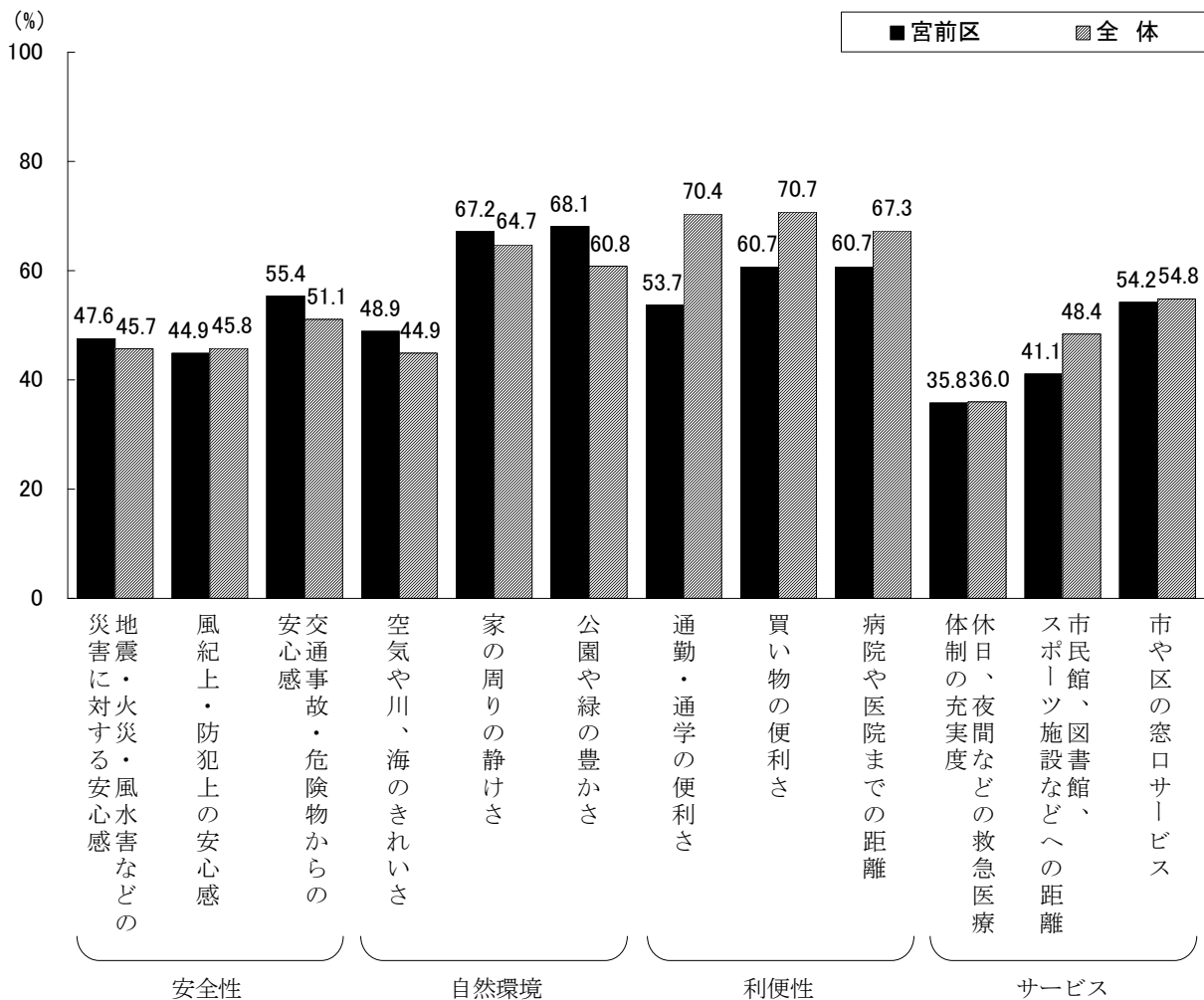
高津区の生活環境満足度は、市全体の満足度と比べて下回る項目が多く、『自然環境』では、全ての項目で市全体の満足度を下回っており、「家の周りの静けさ」(55.1%)は10ポイント程度下回っている。(図表2-8)

図表2-9 生活環境の満足度 (<満足>、宮前区)

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示

(%)

| | 災害・地震・火災・風水害などの 被害に対する安心感 | 風紀上・防犯上の安心感 | 交通事故・危険物からの 安心感 | 空気や川、海のきれいさ | 家の周りの静けさ | 公園や緑の豊かさ | 通勤・通学の便利さ | 買い物の便利さ | 病院や医院までの距離 | 休日、夜間などの救急医療 体制の充実度 | 市民館、図書館、 スポーツ施設などへの距離 | 市や区の窓口サービス |
|-----|------------------------------|-------------|--------------------|-------------|----------|----------|-----------|---------|------------|------------------------|--------------------------|------------|
| 宮前区 | 47.6 | 44.9 | 55.4 | 48.9 | 67.2 | 68.1 | 53.7 | 60.7 | 60.7 | 35.8 | 41.1 | 54.2 |
| 全体 | 45.7 | 45.8 | 51.1 | 44.9 | 64.7 | 60.8 | 70.4 | 70.7 | 67.3 | 36.0 | 48.4 | 54.8 |



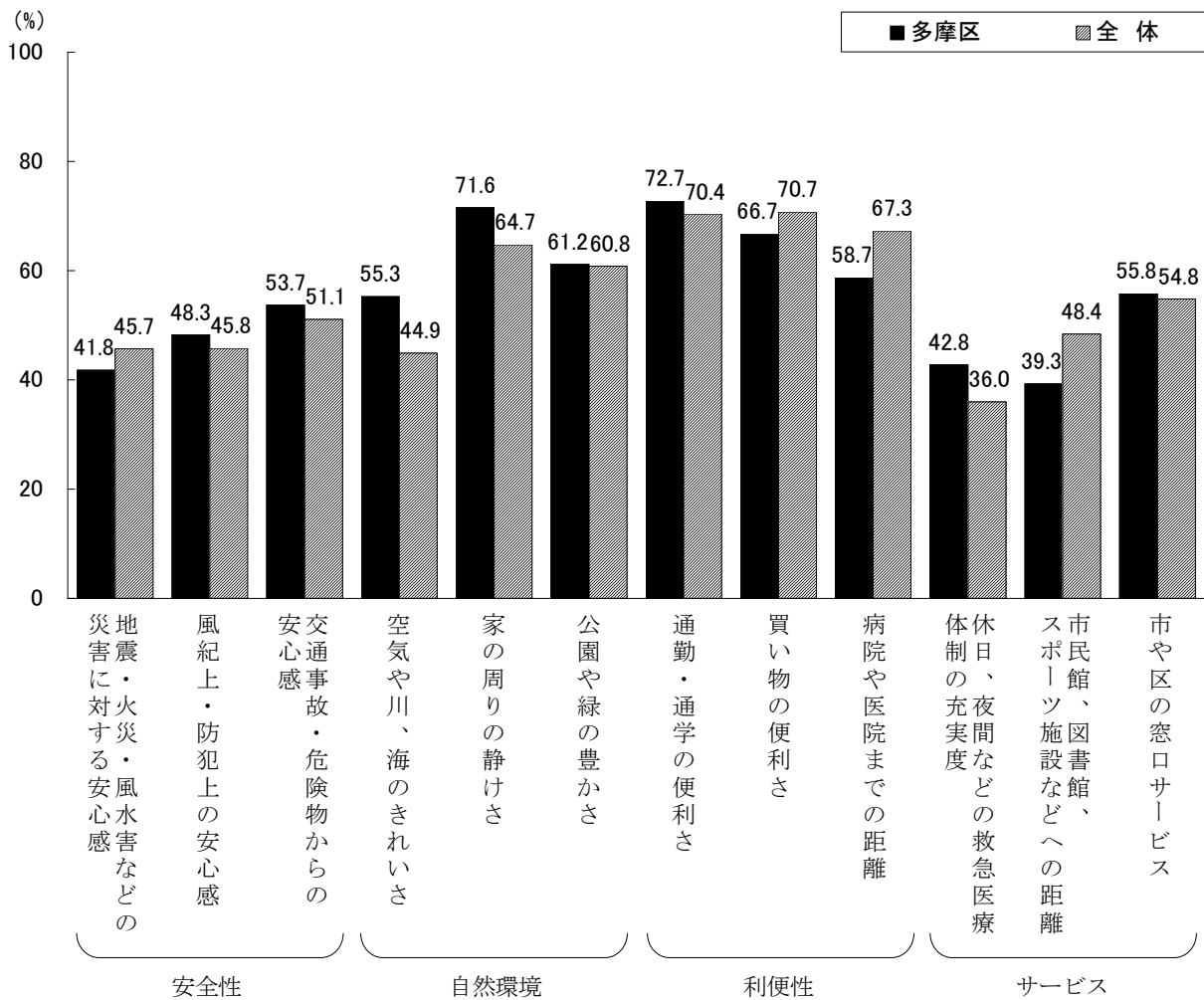
宮前区の生活環境満足度は、『自然環境』では、市全体の満足度を上回っている。一方、『利便性』では、市全体の満足度を下回り、「通勤・通学の便利さ」(53.7%)、「買い物の便利さ」(60.7%)が10ポイント以上下回っている。(図表2-9)

図表2-10 生活環境の満足度（＜満足＞、多摩区）

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示

（%）

| | 地震・火災・風水害などの災害に対する安心感 | 風紀上・防犯上の安心感 | 交通事故・危険物からの安心感 | 空気や川、海のきれいさ | 家の周りの静けさ | 公園や緑の豊かさ | 通勤・通学の便利さ | 買い物の便利さ | 病院や医院までの距離 | 休日、夜間などの救急医療体制の充実度 | 市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離 | 市や区の窓口サービス |
|-----|-----------------------|-------------|----------------|-------------|----------|----------|-----------|---------|------------|--------------------|----------------------|------------|
| 多摩区 | 41.8 | 48.3 | 53.7 | 55.3 | 71.6 | 61.2 | 72.7 | 66.7 | 58.7 | 42.8 | 39.3 | 55.8 |
| 全体 | 45.7 | 45.8 | 51.1 | 44.9 | 64.7 | 60.8 | 70.4 | 70.7 | 67.3 | 36.0 | 48.4 | 54.8 |



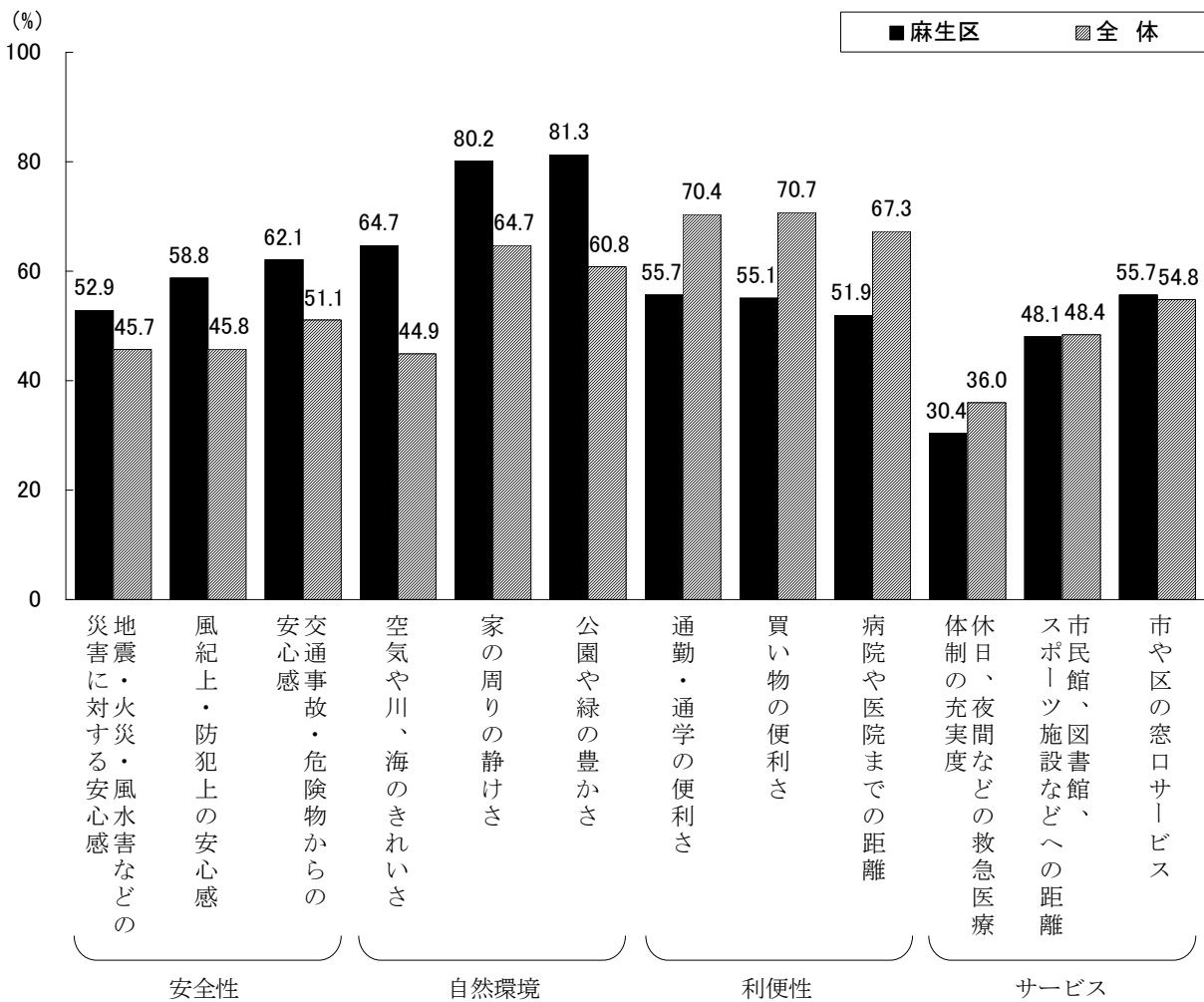
多摩区の生活環境満足度は、『自然環境』では、市全体の満足度を上回り、「空気や川、海のきれいさ」(55.3%)が10.4ポイント上回っている。一方、『利便性』では、「病院や医院までの距離」(58.7%)で8.6ポイント下回っている。(図表2-10)

図表2-11 生活環境の満足度 (<満足>、麻生区)

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示

(%)

| | 災害・地震・火災・風水害などの 被害に対する安心感 | 風紀上・防犯上の安心感 | 交通事故・危険物からの 安心感 | 空気や川、海のきれいさ | 家の周りの静けさ | 公園や緑の豊かさ | 通勤・通学の便利さ | 買い物の便利さ | 病院や医院までの距離 | 休日、夜間などの救急医療 体制の充実度 | 市民館、図書館、 スポーツ施設などへの距離 | 市や区の窓口サービス |
|-----|------------------------------|-------------|--------------------|-------------|----------|----------|-----------|---------|------------|------------------------|--------------------------|------------|
| 麻生区 | 52.9 | 58.8 | 62.1 | 64.7 | 80.2 | 81.3 | 55.7 | 55.1 | 51.9 | 30.4 | 48.1 | 55.7 |
| 全体 | 45.7 | 45.8 | 51.1 | 44.9 | 64.7 | 60.8 | 70.4 | 70.7 | 67.3 | 36.0 | 48.4 | 54.8 |



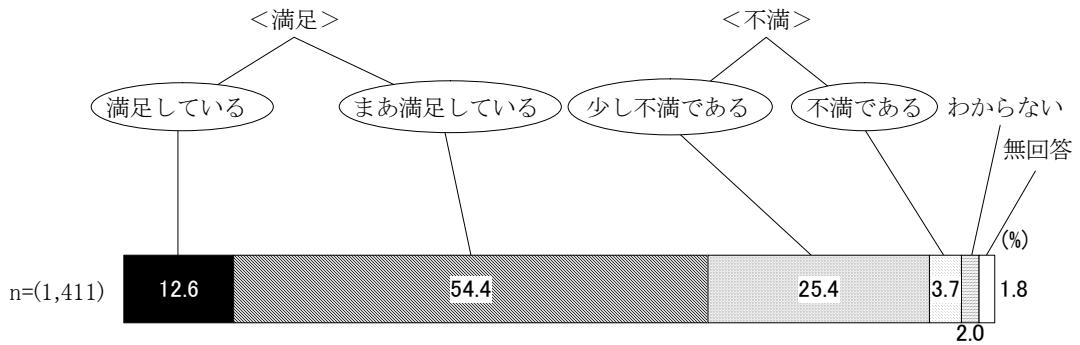
麻生区の生活環境満足度は、『安全性』、『自然環境』では、市全体の満足度を上回り、「空気や川、海のきれいさ」(64.7%)、「家の周りの静けさ」(80.2%)、「公園や緑の豊かさ」(81.3%)が15ポイント以上上回っている。一方、『利便性』では、市全体の満足度を下回り、「通勤・通学の便利さ」(55.7%)、「買い物の便利さ」(55.1%)、「病院や医院までの距離」(51.9%)が15ポイント程度下回っている。(図表2-11)

2-2 総合的な生活環境の満足度

◎ <満足>が67.0%

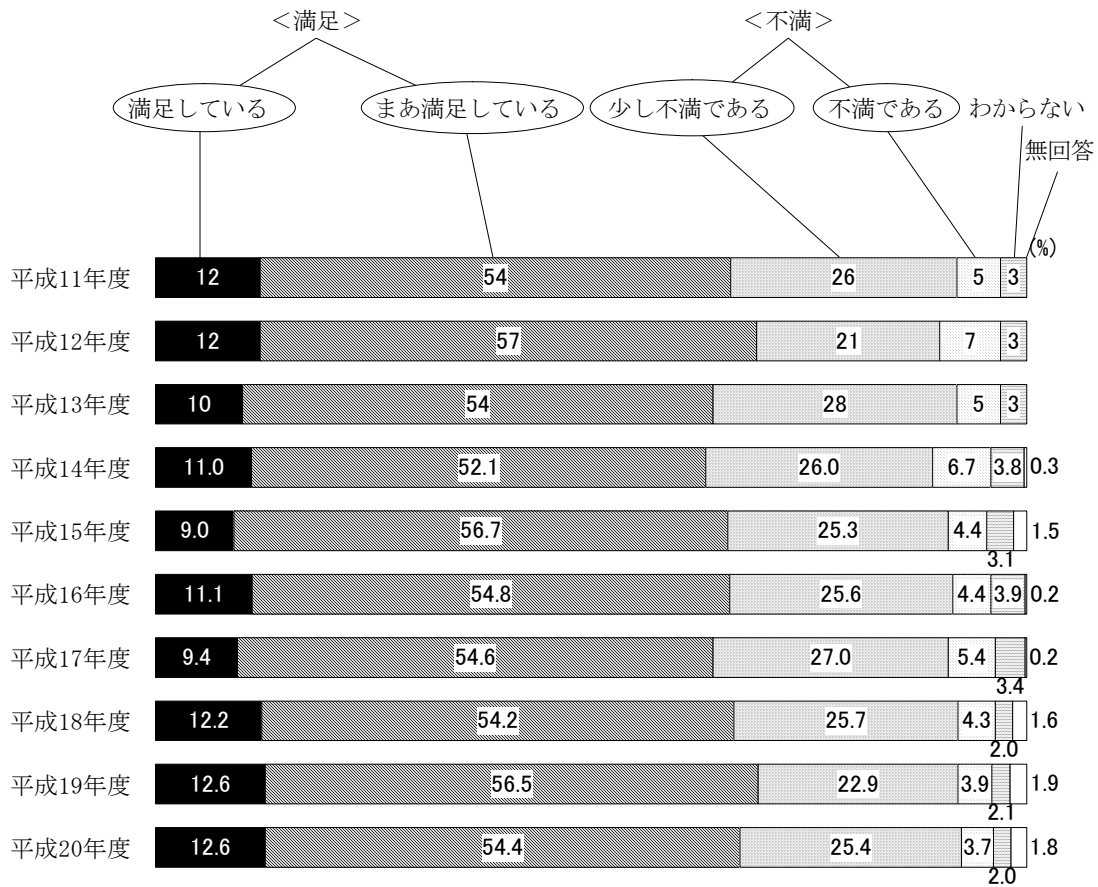
問4 地域の生活環境を総合的に見た場合、今住んでいる地域に、どの程度満足していますか。
(○は1つ)

図表2-12 総合的な生活環境の満足度



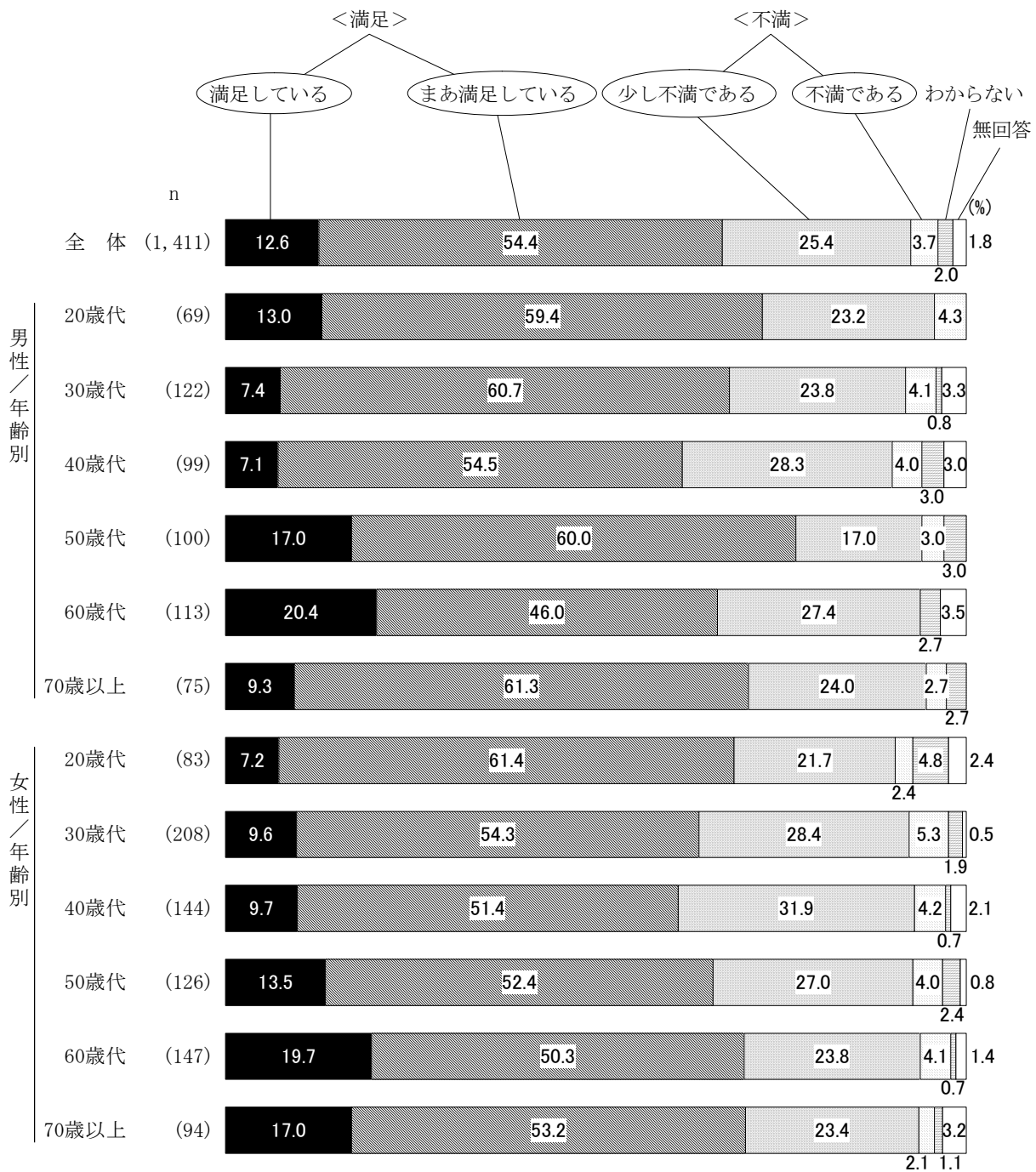
総合的な生活環境は、「満足している」(12.6%)、「まあ満足している」(54.4%)をあわせた<満足>は67.0%、一方、「少し不満である」(25.4%)と「不満である」(3.7%)をあわせた<不満>は29.1%となっている。(図表2-12)

図表2-13 総合的な生活環境の満足度(経年比較)



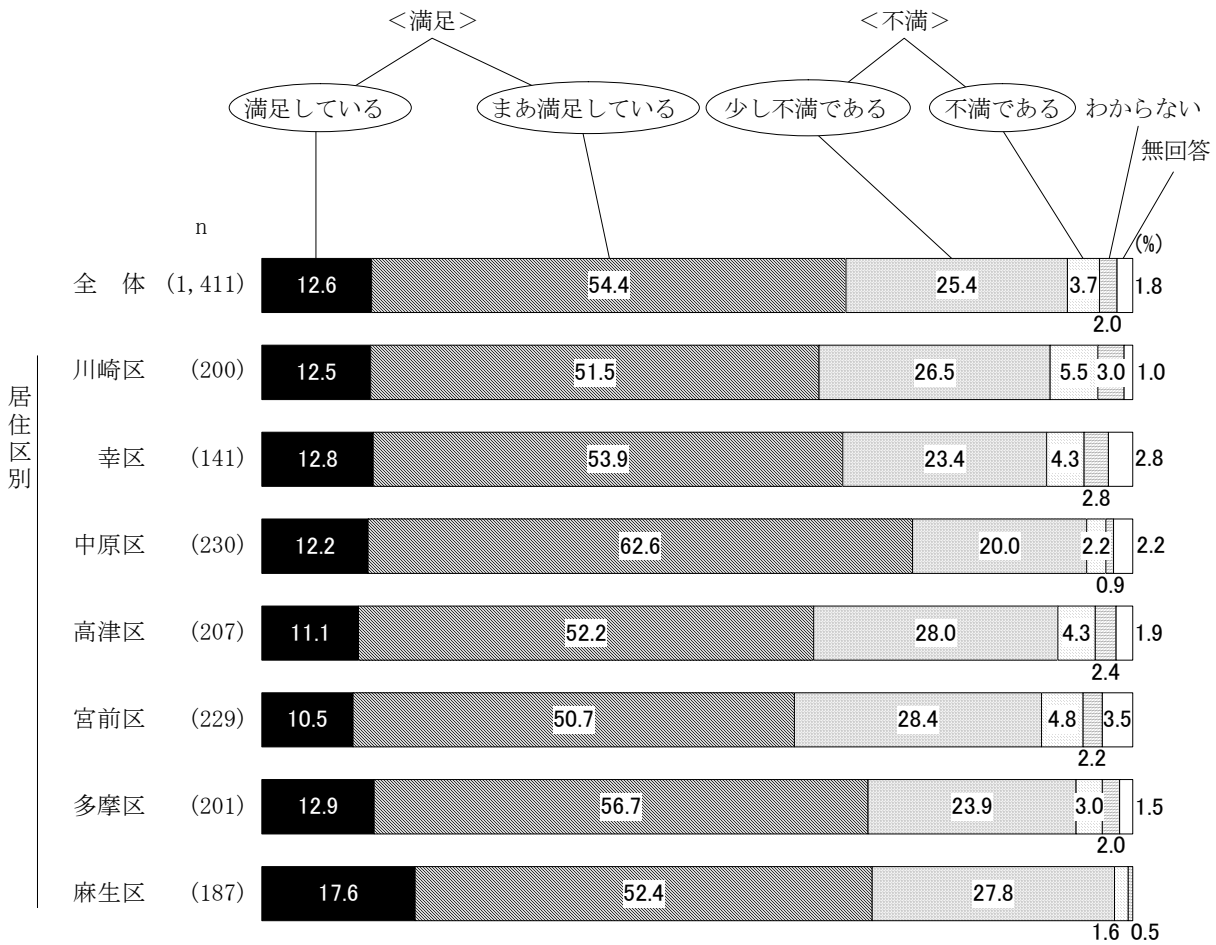
「満足している」と「まあ満足している」をあわせた<満足>は6割台で過去10年間推移している。
(図表2-13)

図表2-14 総合的な生活環境の満足度（性／年齢別）



性／年齢別では、<満足>は、男性の50歳代が7割台後半で最も多く、男性の20歳代が7割台前半となっている。一方、<不満>は、女性の40歳代が3割台後半で最も多くなっている。(図表2-14)

図表2-15 総合的な生活環境の満足度(居住区別)



居住区別では、「満足している」と「まあ満足している」をあわせた<満足>は、中原区が7割台半ばで最も多く、多摩区と麻生区で約7割となっている。一方、「少し不満である」と「不満である」をあわせた<不満>は、川崎区、高津区、宮前区が3割台前半となっている。(図表2-15)

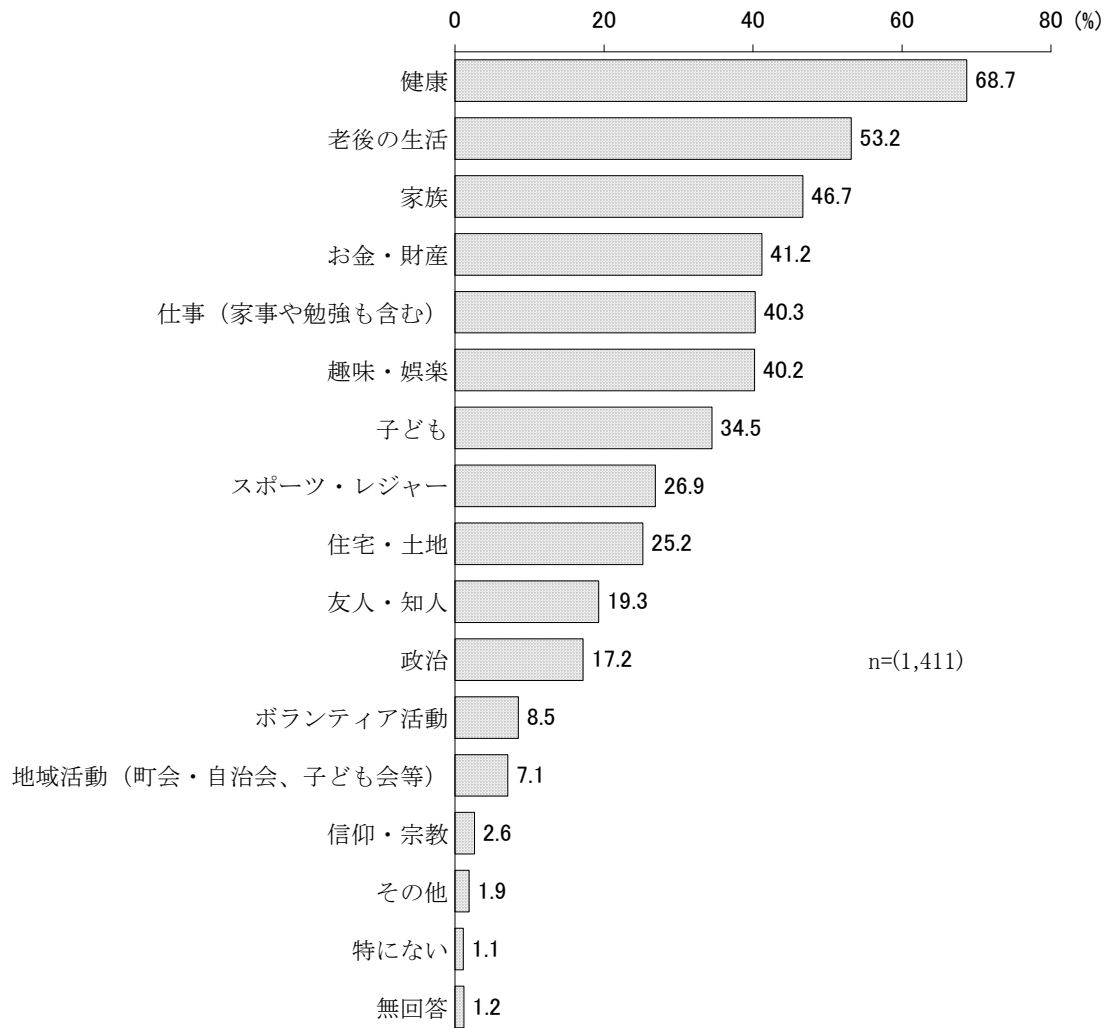
3 関心ごとと行動範囲について

3-1 関心を持っていること

◎「健康」が68.7%

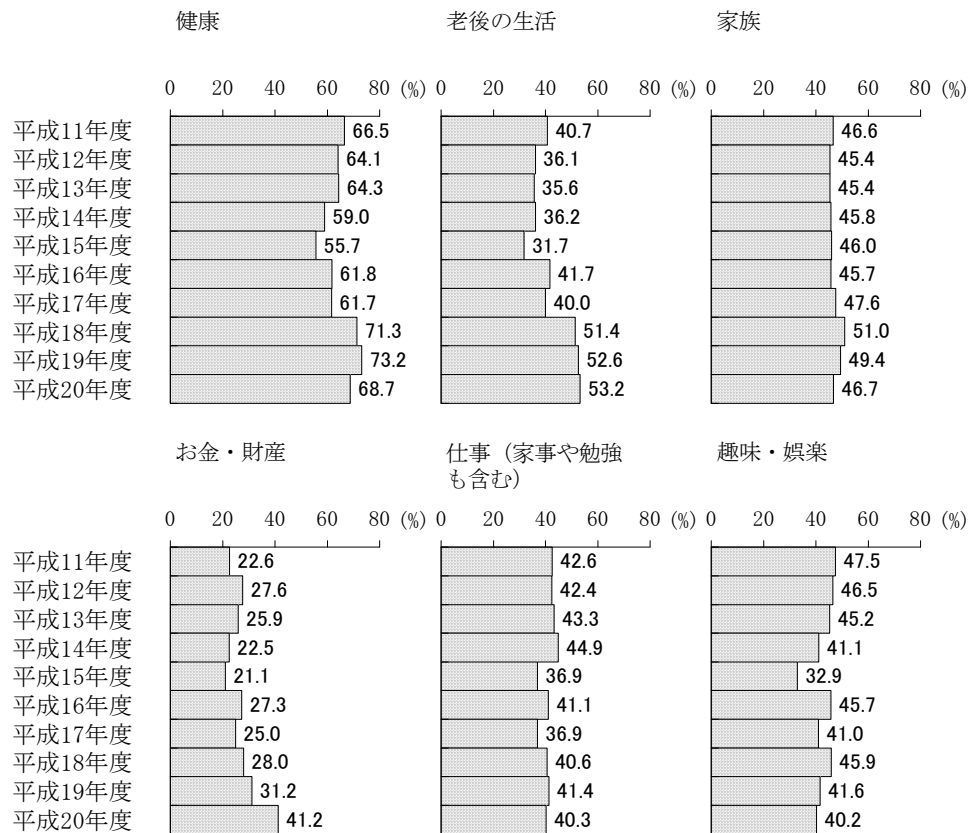
問5 現在特に関心をお持ちのことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表3-1 関心を持っていること



関心を持っていることは、「健康」(68.7%)が最も多くなっている。以下「老後の生活」(53.2%)、「家族」(46.7%)、「お金・財産」(41.2%)、「仕事(家事や勉強も含む)」(40.3%)と続いている。(図表3-1)

図表3-2 関心を持っていること（経年比較、上位6項目）



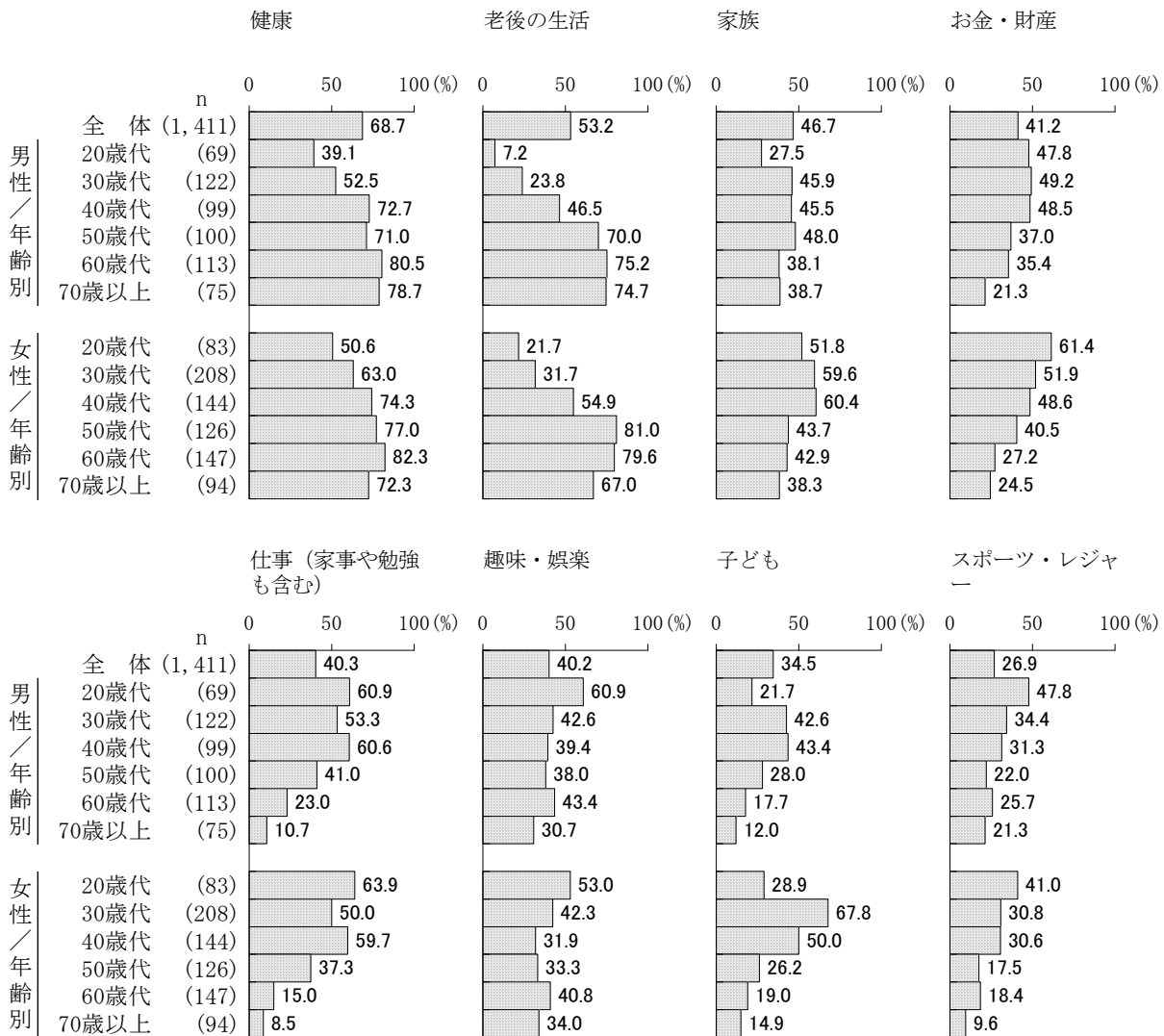
(%)

| | 第1位 | 第2位 | 第3位 | 第4位 | 第5位 | 第6位 |
|--------|---------|---------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 平成11年度 | 健康 66.5 | 趣味・娯楽 47.5 | 家族 46.6 | 仕事（家事や勉強も含む） 42.6 | 老後の生活 40.7 | 子ども 31.8 |
| 平成12年度 | 健康 64.1 | 趣味・娯楽 46.5 | 家族 45.4 | 仕事（家事や勉強も含む） 42.4 | 子ども 37.2 | 老後の生活 36.1 |
| 平成13年度 | 健康 64.3 | 家族 45.4 | 趣味・娯楽 45.2 | 仕事（家事や勉強も含む） 43.3 | 老後の生活 35.6 | 子ども 32.9 |
| 平成14年度 | 健康 59.0 | 家族 45.8 | 仕事（家事や勉強も含む） 44.9 | 趣味・娯楽 41.1 | 老後の生活 36.2 | 子ども 34.4 |
| 平成15年度 | 健康 55.7 | 家族 46.0 | 仕事（家事や勉強も含む） 36.9 | 子ども 34.1 | 趣味・娯楽 32.9 | 老後の生活 31.7 |
| 平成16年度 | 健康 61.8 | 家族／趣味・娯楽 45.7 | 老後の生活 41.7 | 仕事（家事や勉強も含む） 41.1 | 子ども 34.5 | |
| 平成17年度 | 健康 61.7 | 家族 47.6 | 趣味・娯楽 41.0 | 老後の生活 40.0 | 子ども 37.7 | 仕事（家事や勉強も含む） 36.9 |
| 平成18年度 | 健康 71.3 | 老後の生活 51.4 | 家族 51.0 | 趣味・娯楽 45.9 | 仕事（家事や勉強も含む） 40.6 | 子ども 35.5 |
| 平成19年度 | 健康 73.2 | 老後の生活 52.6 | 家族 49.4 | 趣味・娯楽 41.6 | 仕事（家事や勉強も含む） 41.4 | 子ども 34.0 |
| 平成20年度 | 健康 68.7 | 老後の生活 53.2 | 家族 46.7 | お金・財産 41.2 | 仕事（家事や勉強も含む） 40.3 | 趣味・娯楽 40.2 |

注 「お金・財産」は平成19年度調査までは「金・財産」であった。

上位の6項目について、平成11年度以降を比較した。「お金・財産」は、平成19年度と比べて、31.2%から41.2%へ10ポイントの増加となり、7位から4位となっている。また、「健康」は、毎年1位となっているが、平成19年度と比べて、73.2%から68.7%へ4.5ポイントの減少となっている。（図表3-2）

図表3-3 関心を持っていること(性/年齢別、上位8項目)



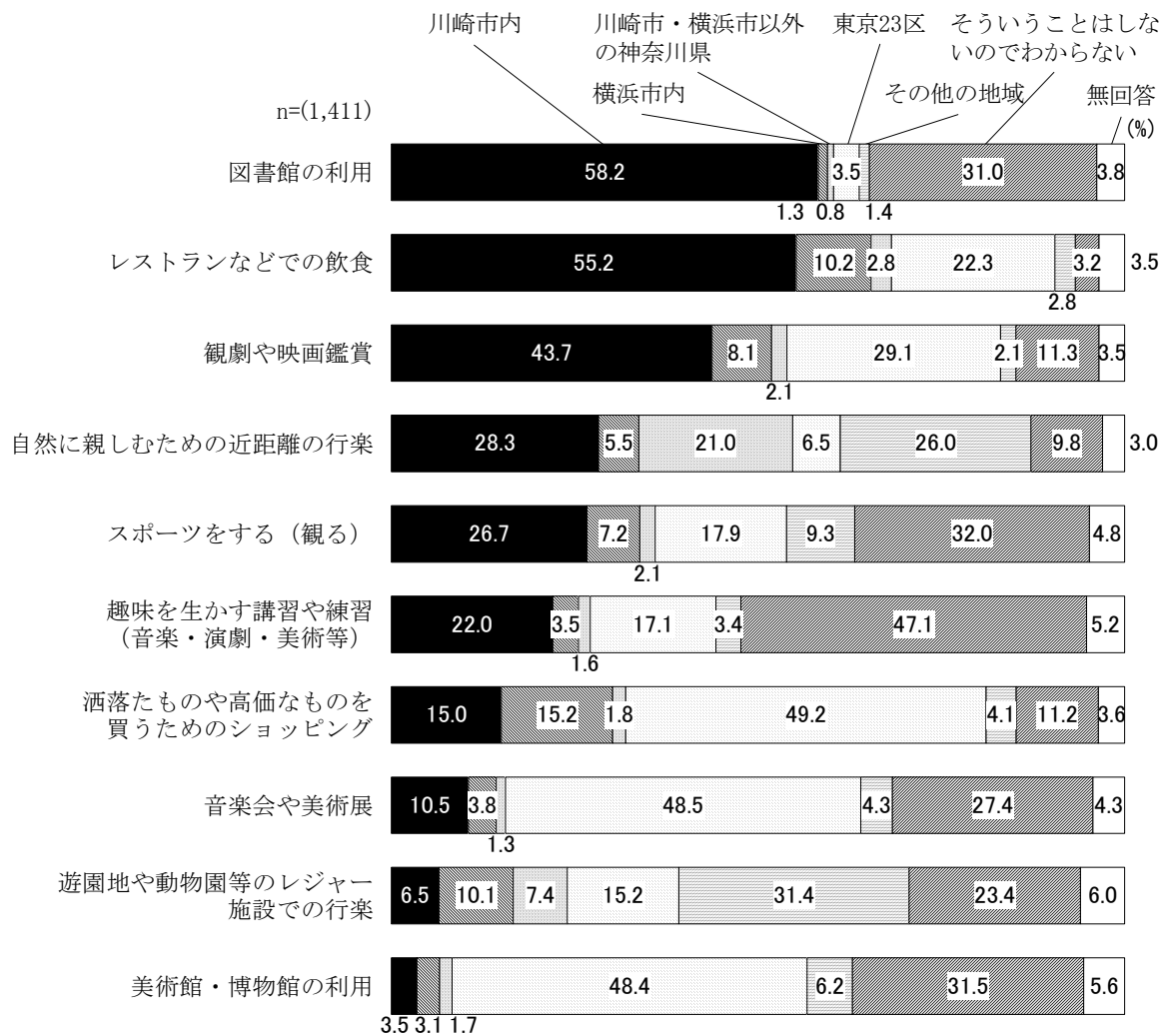
性/年齢別では、「健康」は、男女ともに年齢が高くなるにつれ、割合が多くなる傾向となっており、特に女性の60歳代が8割前半、男性の60歳代が約8割となっている。「老後の生活」は、女性の50歳代と60歳代が約8割で多くなっている。「家族」は、女性の30歳代と40歳代が約6割で多くなっている。「お金・財産」は、女性の20歳代が6割前半、女性の30歳代が5割前半で多くなっている。「仕事(家事や勉強も含む)」は、男女ともに20歳代と40歳代が約6割台で最も多くなっている。「趣味・娯楽」、「スポーツ・レジャー」は、男女ともに20歳代が最も多くなっている。「子ども」は、男女ともに30歳代と40歳代が多く、特に女性の30歳代が6割後半となっている。(図表3-3)

3-2 行動範囲

◎ 『川崎市内』 で多いのは、「図書館の利用」(58.2%)、「レストランなどでの飲食」(55.2%)

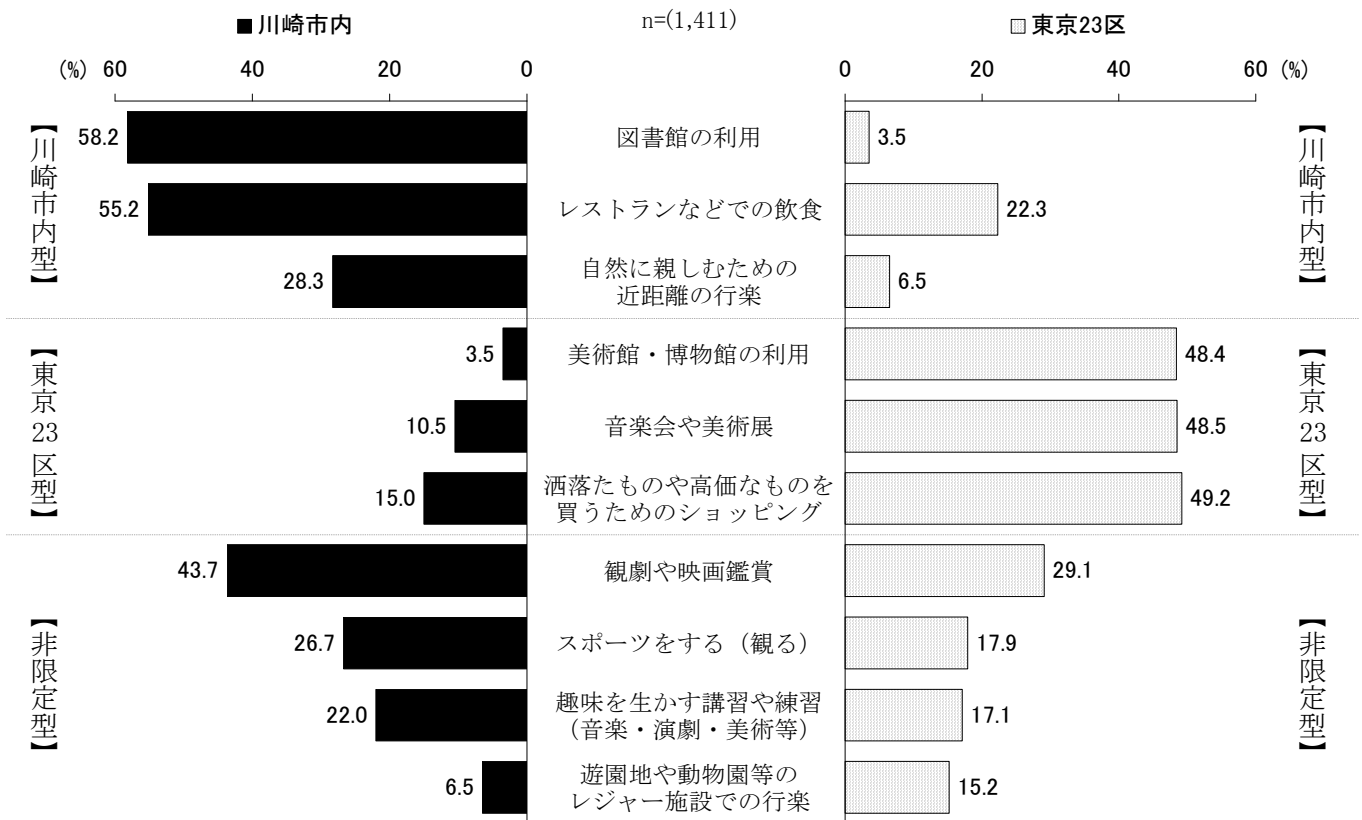
問6 行楽や文化施設の利用・ショッピングなどをされる場合、主にどこに行かれますか。
(○はそれぞれ1つずつ)

図表3-4 行動範囲



川崎市民の行動範囲で、『川崎市内』が最も多かったのは、「図書館の利用」(58.2%)となっている。以下「レストランなどでの飲食」(55.2%)、「観劇や映画鑑賞」(43.7%)と続いている。一方、『東京23区』では、「洒落たものや高価なものを買うためのショッピング」(49.2%)、「音楽会や美術展」(48.5%)、「美術館・博物館の利用」(48.4%)が多くなっている。(図表3-4)

図表3-5 行動範囲（『川崎市内』と『東京23区』との比較）



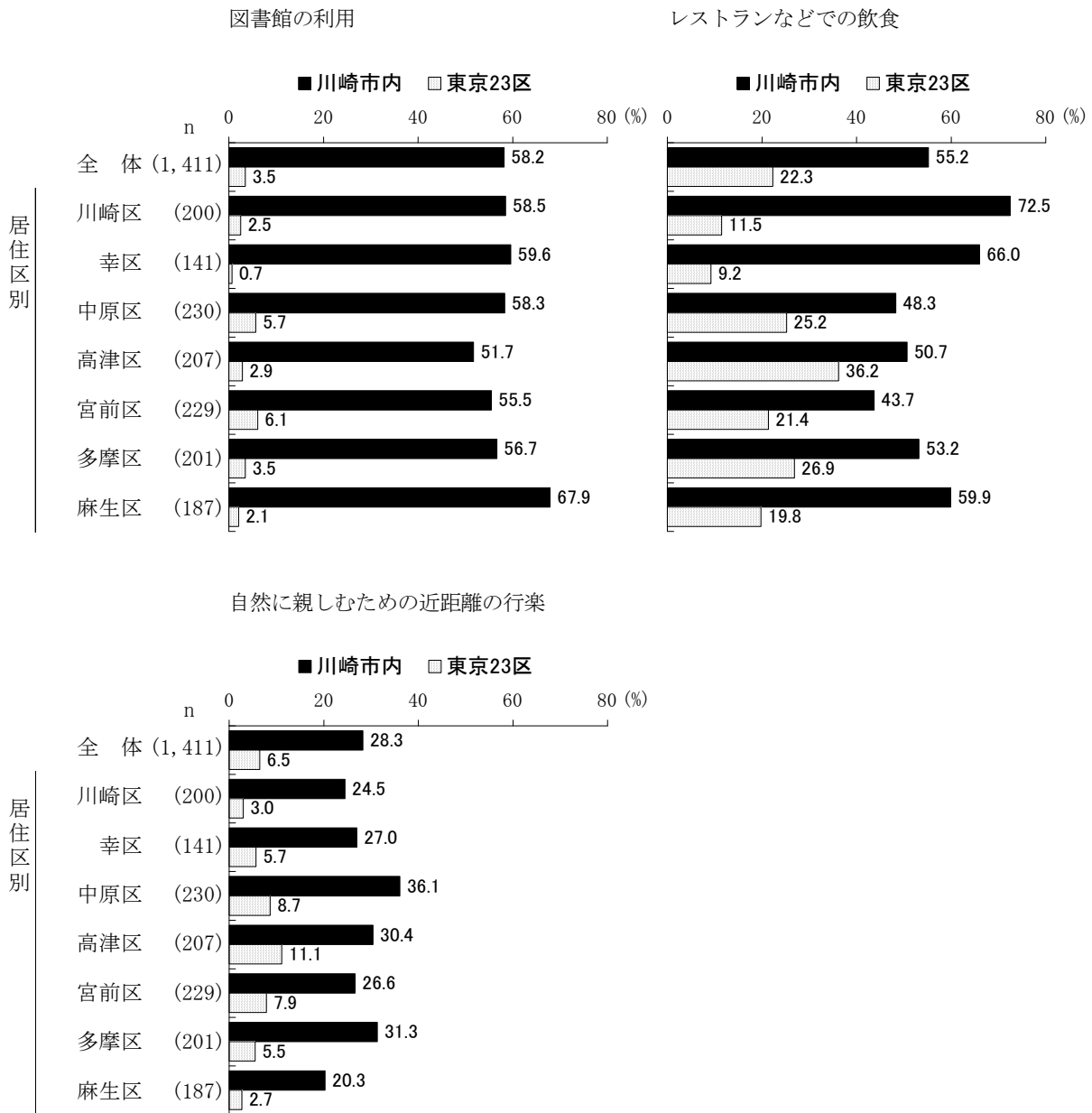
各項目について、行動範囲別に【川崎市内型】、【東京23区内型】、【非限定型】に分類すると以下のようになる。（図表3-5）

【川崎市内型】 …… 図書館の利用
レストランなどでの飲食
自然に親しむための近距離の行楽

【東京23区内型】 …… 美術館・博物館の利用
音楽会や美術展
洒落たものや高価なものを買うためのショッピング

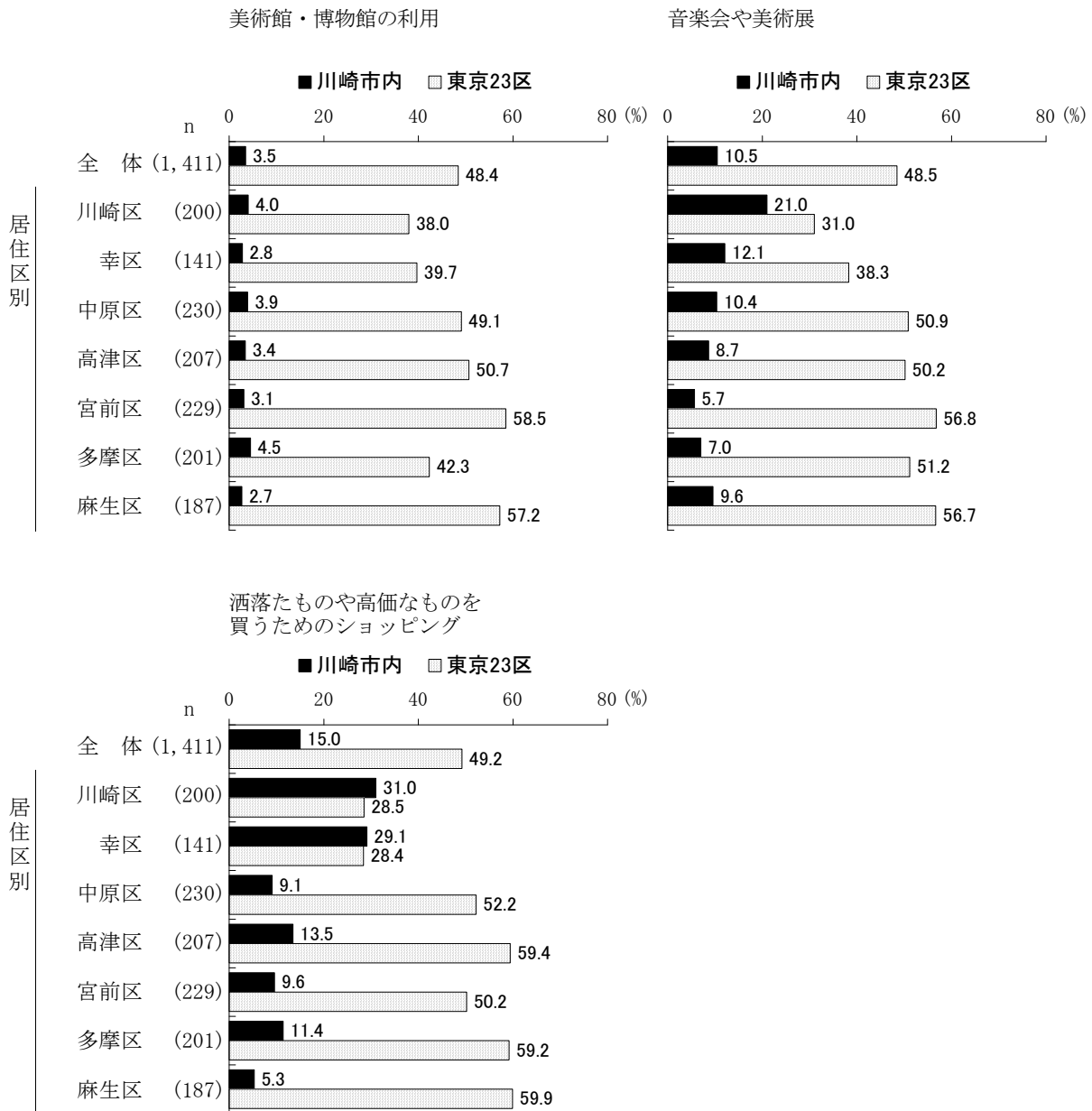
【非限定型】 …… 観劇や映画鑑賞
スポーツをする（観る）
趣味を生かす講習や練習（音楽・演劇・美術等）
遊園地や動物園等のレジャー施設での行楽

図表3-6 行動範囲(『川崎市内』と『東京23区』)との比較、居住区別【川崎市内型】



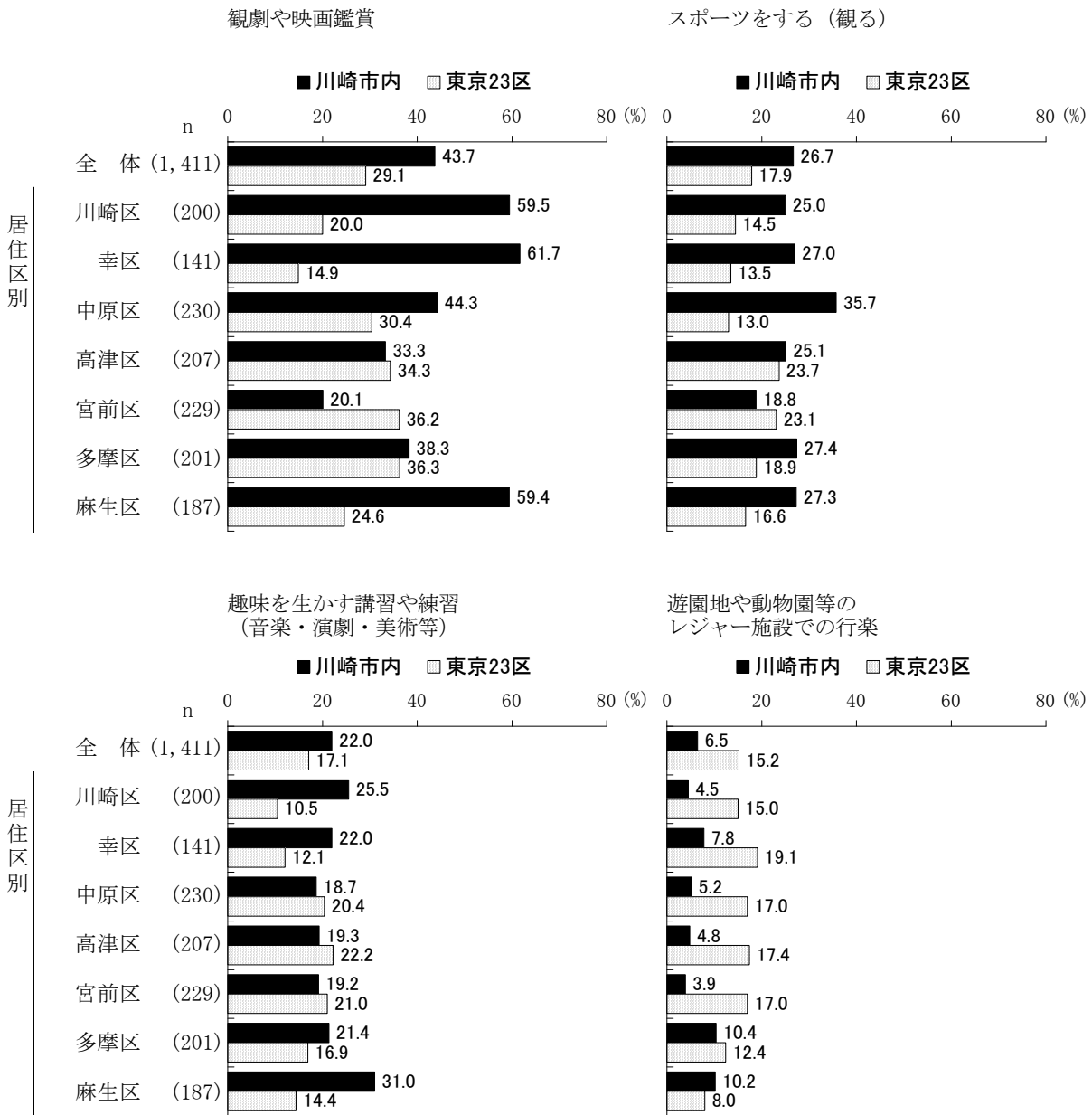
【川崎市内型】に分類した『川崎市内』での利用率が高い3項目を、居住区別に比較すると、「図書館の利用」は、麻生区が6割台後半で多く、他の居住区では5割台で、いずれの居住区においても『東京23区』での利用率は、1割未満と非常に少なくなっている。「レストランなどでの飲食」は、川崎区が7割台前半で最も多く、一方、高津区では『川崎市内』の50.7%に対し、『東京23区』は36.2%となっている。「自然に親しむための近距離の行楽」は、中原区、高津区、多摩区が3割台となっている。(図表3-6)

図表3-7 行動範囲(『川崎市内』と『東京23区』との比較、居住区別)【東京23区型】



【東京23区内型】に分類した『東京23区』での利用率が高い3項目を、居住区別に比較すると、「美術館・博物館の利用」、「音楽会や美術展」、「洒落たものや高価なものを買うためのショッピング」のいずれの項目でも中原区、高津区、宮前区、麻生区が『東京23区』での利用率が約5割から約6割で多くなっている。一方、川崎区では、「音楽会や美術展」は『川崎市内』での利用率が2割台前半で多くなっている。また、川崎区と幸区では、「洒落たものや高価なものを買うためのショッピング」は、『川崎市内』での利用率が他の区に比べて多く、『東京23区』と同程度となっている。(図表3-7)

図表3-8 行動範囲(『川崎市内』と『東京23区』)との比較、居住区別【非限定型】



【非限定型】に分類した『川崎市内』や『東京23区』と限定せずに平均的な利用があると思われる4項目を、居住区別に比較した。「観劇や映画鑑賞」は、川崎区、幸区、麻生区が、『川崎市内』での利用率が約6割で多く、『東京23区』と比べて30ポイント以上上回っている。「スポーツをする(観る)」は、中原区では、『川崎市内』の利用率は『東京23区』を約20ポイント上回っている。「趣味を生かす講習や練習(音楽・演劇・美術等)」は、麻生区が3割台前半、川崎区が2割台半ばで多く、『東京23区』と比べて15ポイント以上上回っている。(図表3-8)

4 市政に対する評価と要望について

4-1 市政の仕事でよくやっていると思うこと

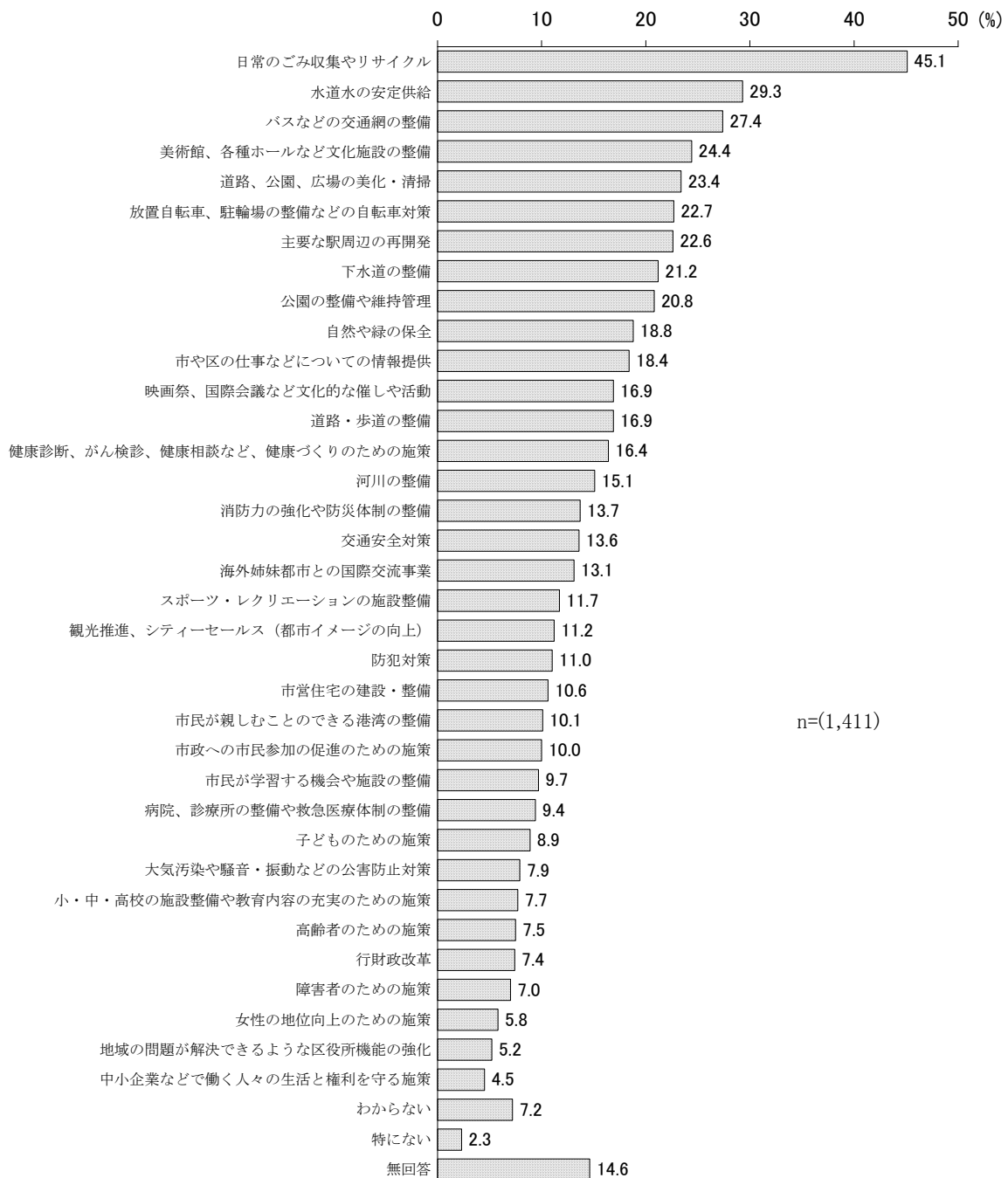
◎ 「日常のごみ収集やリサイクル」が45.1%

問7 市政について総合的にうかがいます。

次にあげる仕事の中で、よくやっていると思われるものは、どれですか。

(あてはまるものすべてに○)

図表4-1 市政の仕事でよくやっていると思うこと



n=(1,411)

市政の仕事でよくやっていると思うことは、「日常のごみ収集やリサイクル」(45.1%)が最も多くなっている。以下「水道水の安定供給」(29.3%)、「バスなどの交通網の整備」(27.4%)、「美術館、各種ホールなど文化施設の整備」(24.4%)、「道路、公園、広場の美化・清掃」(23.4%)と続いている。(図表4-1)

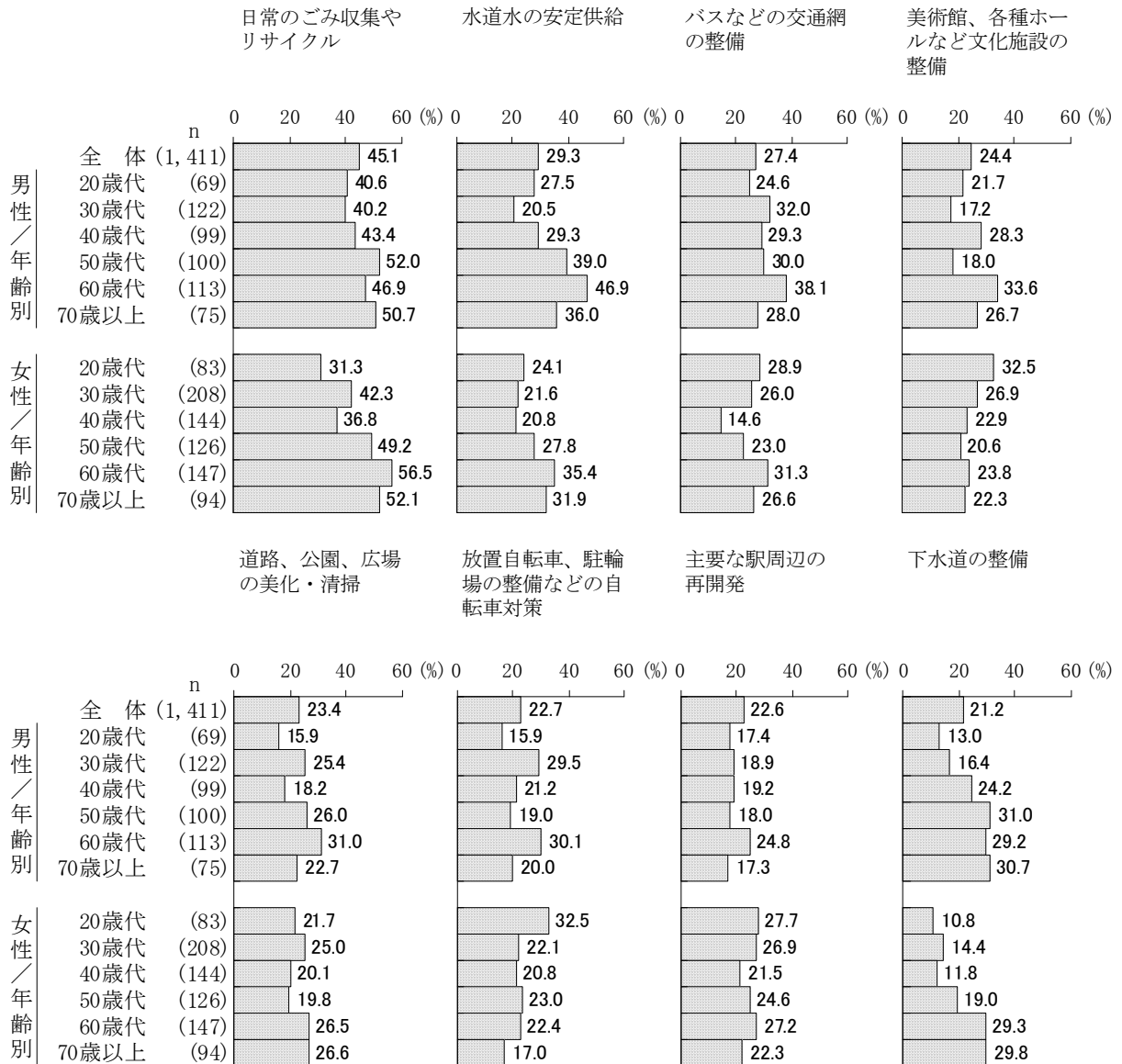
図表4-2 市政の仕事でよくやっていると思うこと(前年比較)

(%)

| 項目 | 20年度 | 19年度 |
|------------------------------|------|------|
| 日常のごみ収集やリサイクル | 45.1 | 44.9 |
| 水道水の安定供給 | 29.3 | 26.3 |
| バスなどの交通網の整備 | 27.4 | 27.0 |
| 美術館、各種ホールなど文化施設の整備 | 24.4 | 28.5 |
| 道路、公園、広場の美化・清掃 | 23.4 | 25.1 |
| 放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策 | 22.7 | 22.1 |
| 主要な駅周辺の再開発 | 22.6 | 27.3 |
| 下水道の整備 | 21.2 | 24.7 |
| 公園の整備や維持管理 | 20.8 | 21.6 |
| 自然や緑の保全 | 18.8 | 18.4 |
| 市や区の仕事などについての情報提供 | 18.4 | 19.4 |
| 映画祭、国際会議など文化的な催しや活動 | 16.9 | 17.6 |
| 道路・歩道の整備 | 16.9 | 17.8 |
| 健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策 | 16.4 | 20.6 |
| 河川の整備 | 15.1 | 16.1 |
| 消防力の強化や防災体制の整備 | 13.7 | 16.2 |
| 交通安全対策 | 13.6 | 14.2 |
| 海外姉妹都市との国際交流事業 | 13.1 | 16.0 |
| スポーツ・レクリエーションの施設整備 | 11.7 | 14.0 |
| 観光推進、シティーセールス(都市イメージの向上) | 11.2 | 9.2 |
| 防犯対策 | 11.0 | 10.5 |
| 市営住宅の建設・整備 | 10.6 | 12.4 |
| 市民が親しむことのできる港湾の整備 | 10.1 | 9.4 |
| 市政への市民参加の促進のための施策 | 10.0 | 12.5 |
| 市民が学習する機会や施設の整備 | 9.7 | 12.3 |
| 病院、診療所の整備や救急医療体制の整備 | 9.4 | 12.8 |
| 子どものための施策 | 8.9 | 10.3 |
| 大気汚染や騒音・振動などの公害防止対策 | 7.9 | 8.9 |
| 小・中・高校の施設整備や教育内容の充実のための施策 | 7.7 | 9.4 |
| 高齢者のための施策 | 7.5 | 8.9 |
| 行財政改革 | 7.4 | 9.1 |
| 障害者のための施策 | 7.0 | 7.6 |
| 女性の地位向上のための施策 | 5.8 | 6.1 |
| 地域の問題が解決できるような区役所機能の強化 | 5.2 | 7.0 |
| 中小企業などで働く人々の生活と権利を守る施策 | 4.5 | 5.4 |
| わからない | 7.2 | 5.4 |
| 特になし | 2.3 | 2.9 |
| 無回答 | 14.6 | 13.9 |

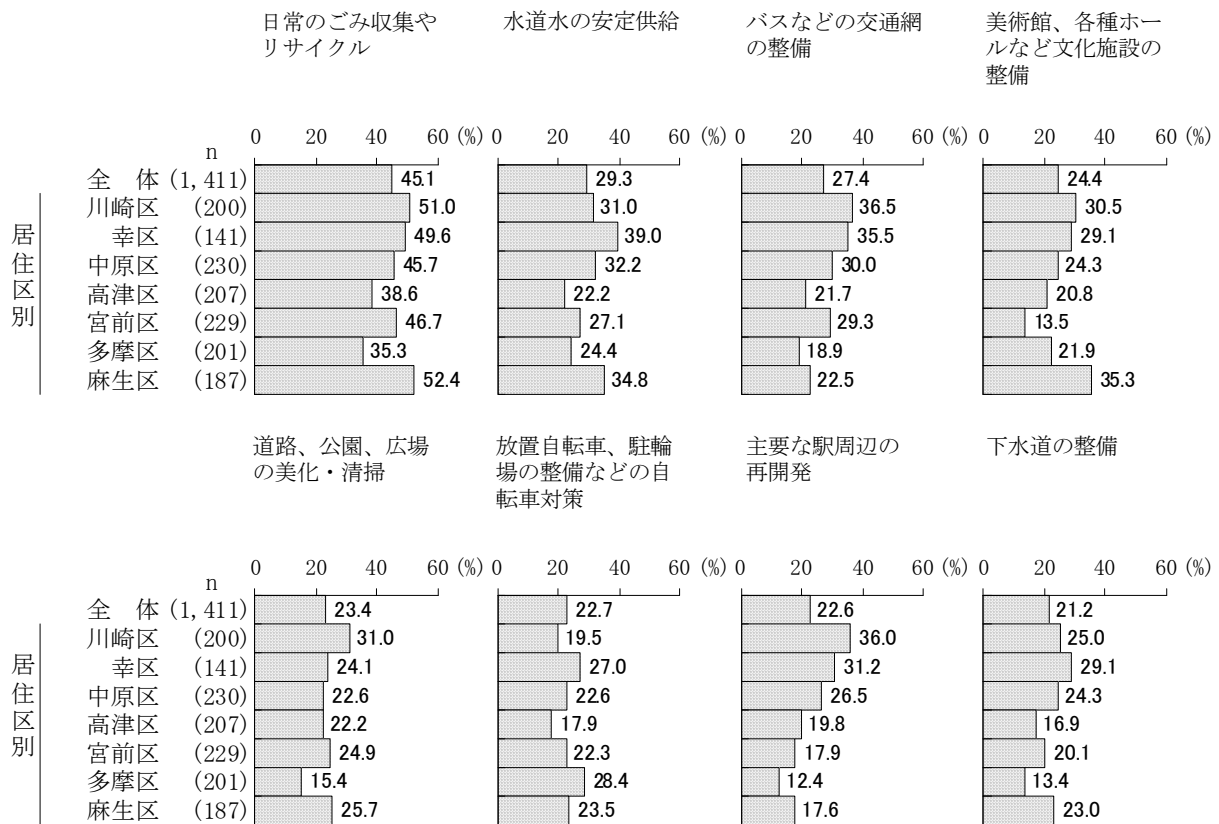
平成19年度と比較すると、「水道水の安定供給」(29.3%)、「観光推進、シティーセールス(都市イメージの向上)」(11.2%)で2ポイント以上上回っている。一方、「美術館、各種ホールなど文化施設の整備」(24.4%)、「主要な駅周辺の再開発」(22.6%)、「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策」(16.4%)では、4ポイント以上下回っている。(図表4-2)

図表4-3 市政の仕事でよくやっていると思うこと（性／年齢別、上位8項目）



性／年齢別では、「日常のごみ収集やリサイクル」と「水道水の安定供給」は、男女ともに50歳代から70歳以上が多くなっている。「バスなどの交通網の整備」は、男性の60歳代が3割台後半、男性の30歳代と女性の60歳代が3割台前半となっている。「美術館、各種ホールなど文化施設の整備」は、男性の60歳代、女性の20歳代が3割台前半となっている。「道路、公園、広場の美化・清掃」は、男性の60歳代が3割台前半で最も多くなっている。「放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策」は、女性の20歳代で3割台前半、男性の30歳代と60歳代が約3割で多くなっている。(図表4-3)

図表4-4 市政の仕事でよくやっていると思うこと（居住区別、上位8項目）



居住区別では、「日常のごみ収集やリサイクル」は、川崎区と麻生区が5割前半で多く、高津区と多摩区が3割台で少なくなっている。「水道水の安定供給」は、幸区が約4割で最も多くなっている。「バスなどの交通網の整備」は、川崎区と幸区が3割台半ばで多くなっている。「美術館、各種ホールなど文化施設の整備」は、麻生区が3割台半ばで最も多くなっている。「主要な駅周辺の再開発」は、川崎区と幸区が3割台となっている。(図表4-4)

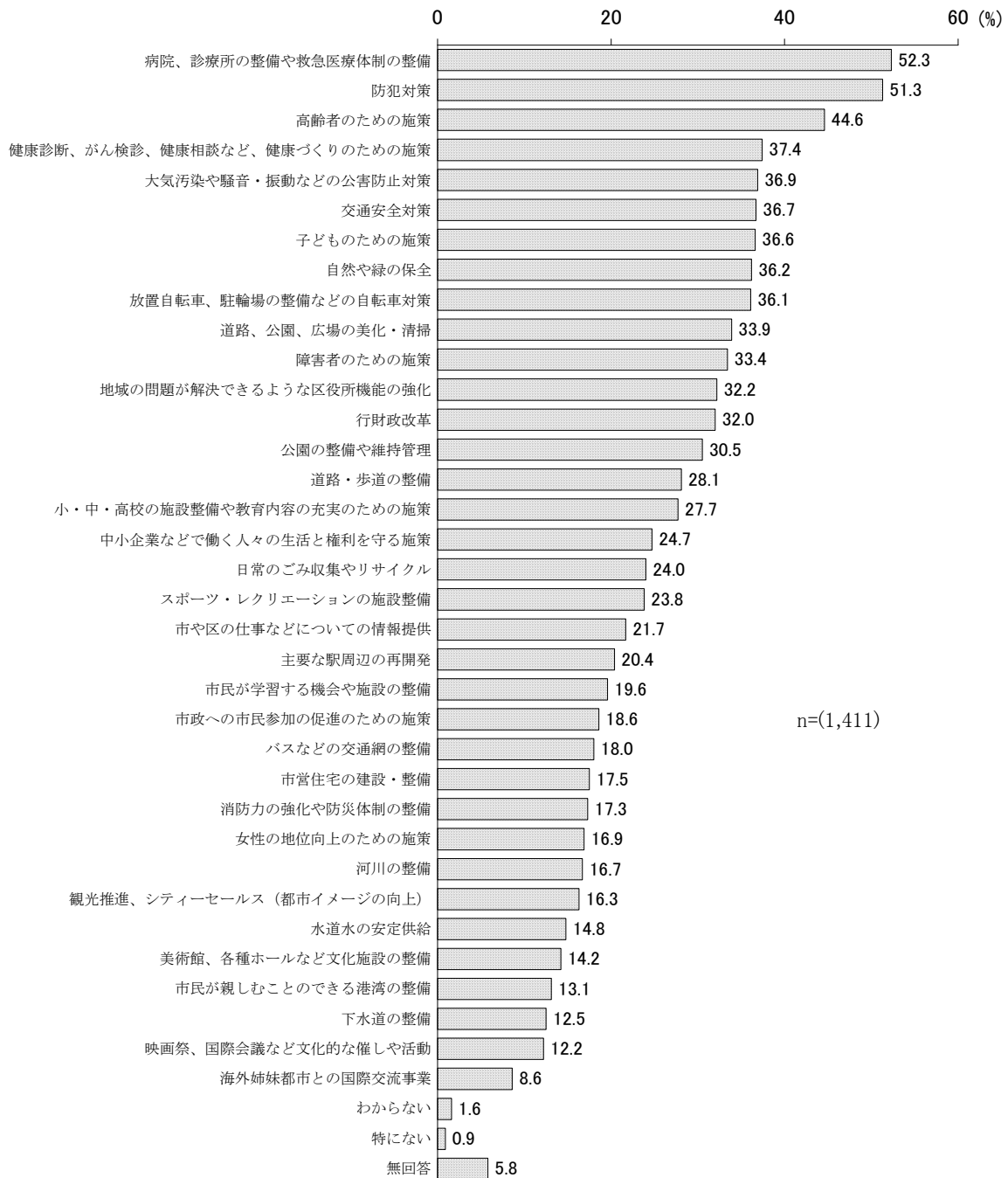
4-2 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと

◎ 「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」が52.3%、「防犯対策」が51.3%

問8 また、今後特に力を入れてほしいとお考えのものは、どれですか。

(あてはまるものすべてに○)

図表4-5 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと



市政の仕事で今後特に力を入れてほしいことは、「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」(52.3%)が昨年より2.6ポイント増加し、1位となった。以下「防犯対策」(51.3%)、「高齢者のための施策」(44.6%)、「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策」(37.4%)、「大気汚染や騒音・振動などの公害防止対策」(36.9%)と続いている。(図表4-5)

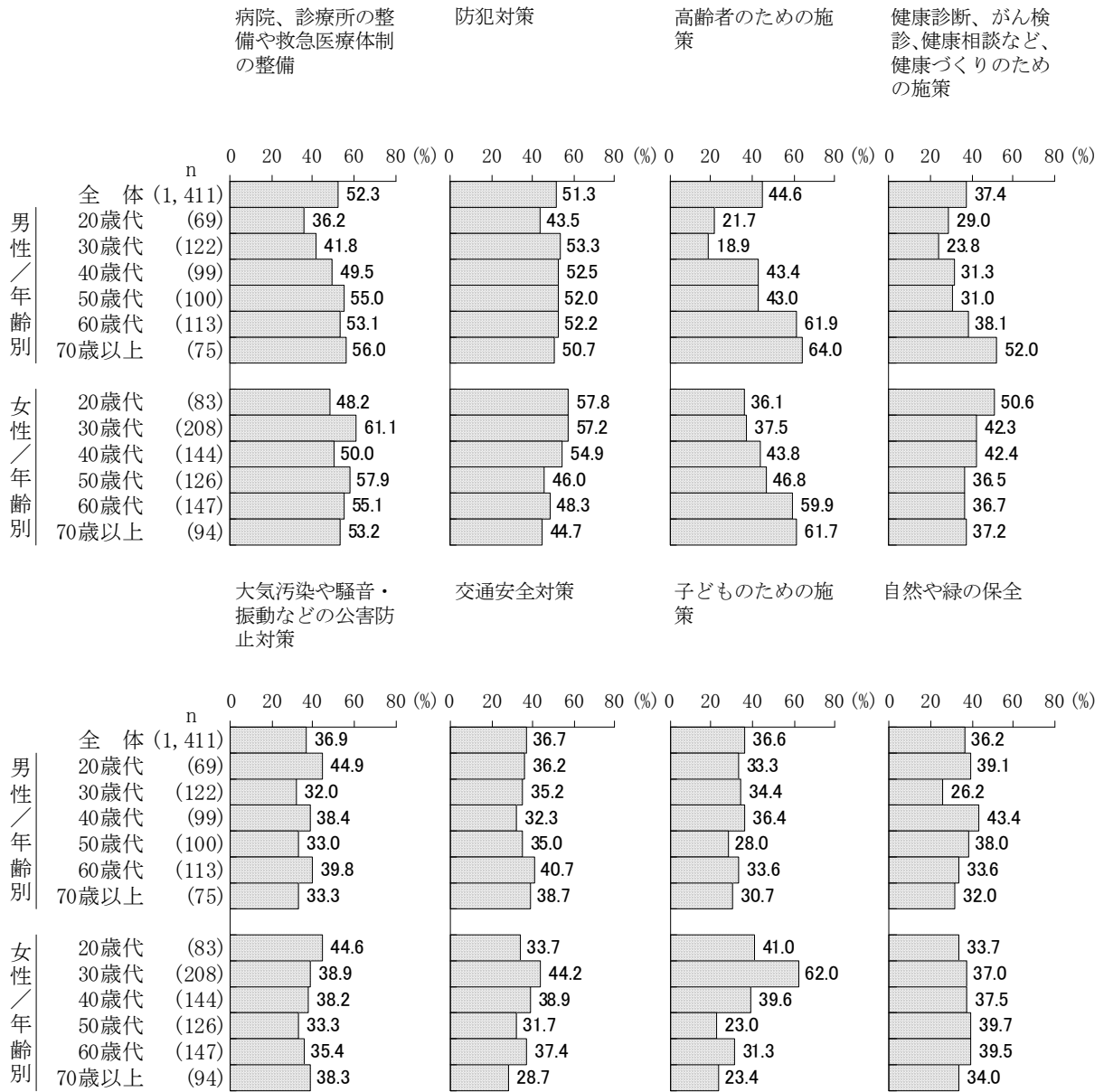
図表4-6 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと（前年比較）

（％）

| 項目 | 20年度 | 19年度 |
|------------------------------|------|------|
| 病院、診療所の整備や救急医療体制の整備 | 52.3 | 49.7 |
| 防犯対策 | 51.3 | 53.5 |
| 高齢者のための施策 | 44.6 | 44.5 |
| 健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策 | 37.4 | 36.9 |
| 大気汚染や騒音・振動などの公害防止対策 | 36.9 | 43.6 |
| 交通安全対策 | 36.7 | 39.6 |
| 子どものための施策 | 36.6 | 36.4 |
| 自然や緑の保全 | 36.2 | 40.1 |
| 放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策 | 36.1 | 41.8 |
| 道路、公園、広場の美化・清掃 | 33.9 | 40.9 |
| 障害者のための施策 | 33.4 | 33.2 |
| 地域の問題が解決できるような区役所機能の強化 | 32.2 | 36.1 |
| 行財政改革 | 32.0 | 32.0 |
| 公園の整備や維持管理 | 30.5 | 34.0 |
| 道路・歩道の整備 | 28.1 | 33.9 |
| 小・中・高校の施設整備や教育内容の充実のための施策 | 27.7 | 30.4 |
| 中小企業などで働く人々の生活と権利を守る施策 | 24.7 | 27.6 |
| 日常のごみ収集やリサイクル | 24.0 | 29.3 |
| スポーツ・レクリエーションの施設整備 | 23.8 | 26.2 |
| 市や区の仕事などについての情報提供 | 21.7 | 24.8 |
| 主要な駅周辺の再開発 | 20.4 | 23.5 |
| 市民が学習する機会や施設の整備 | 19.6 | 20.1 |
| 市政への市民参加の促進のための施策 | 18.6 | 19.9 |
| バスなどの交通網の整備 | 18.0 | 21.8 |
| 市営住宅の建設・整備 | 17.5 | 19.8 |
| 消防力の強化や防災体制の整備 | 17.3 | 18.4 |
| 女性の地位向上のための施策 | 16.9 | 23.2 |
| 河川の整備 | 16.7 | 19.6 |
| 観光推進、シティーセールス（都市イメージの向上） | 16.3 | 16.4 |
| 水道水の安定供給 | 14.8 | 19.6 |
| 美術館、各種ホールなど文化施設の整備 | 14.2 | 16.2 |
| 市民が親しむことのできる港湾の整備 | 13.1 | 18.6 |
| 下水道の整備 | 12.5 | 13.0 |
| 映画祭、国際会議など文化的な催しや活動 | 12.2 | 15.1 |
| 海外姉妹都市との国際交流事業 | 8.6 | 10.9 |
| わからない | 1.6 | 1.8 |
| 特にない | 0.9 | 1.4 |
| 無回答 | 5.8 | 4.9 |

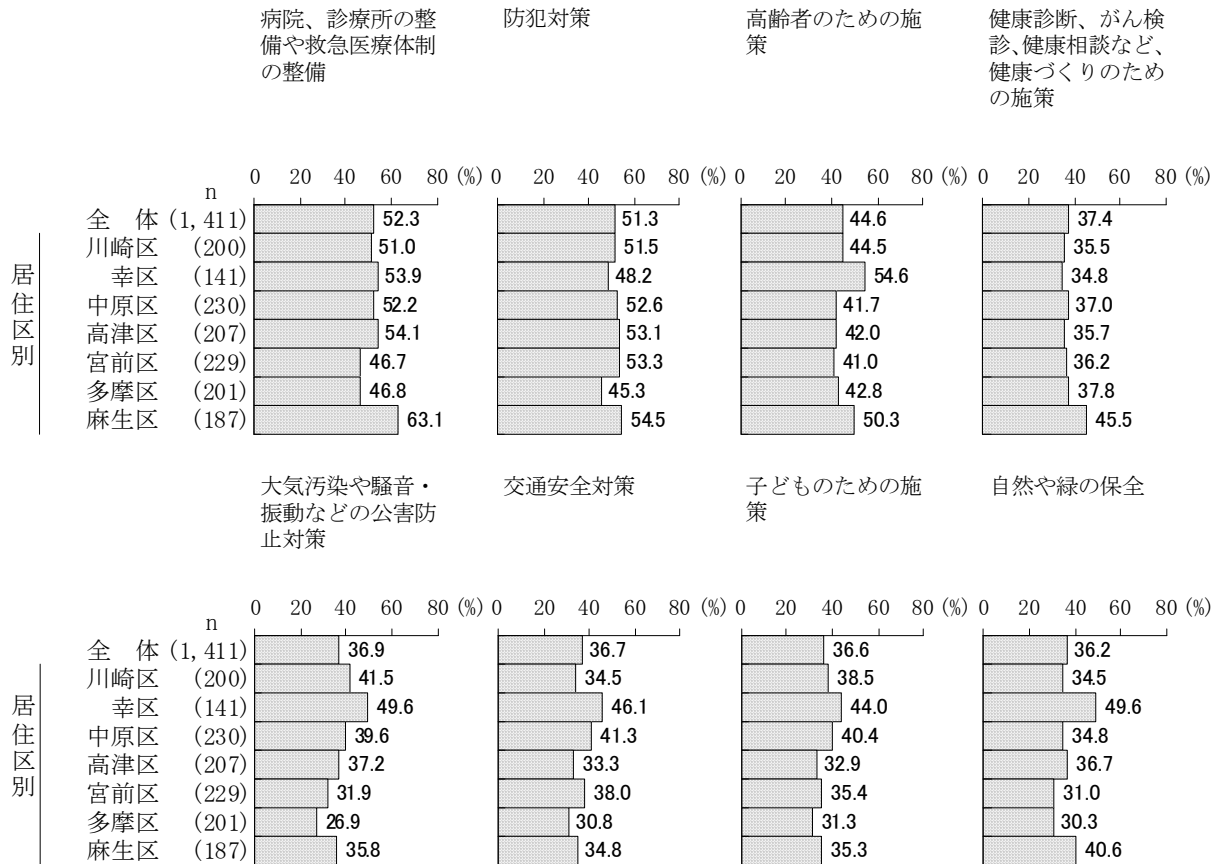
平成19年度と比較すると、「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」（52.3%）、「高齢者のための施策」（44.6%）、「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策」（37.4%）、「子どものための施策」（36.6%）、「障害者のための施策」（33.4%）の5項目で平成19年度を上回っているが、他の項目では減少している。特に「大気汚染や騒音・振動などの公害防止対策」（36.9%）、「道路、公園、広場の美化・清掃」（33.9%）、「女性の地位向上のための施策」（16.9%）では、6ポイント以上下回っている。（図表4-6）

図表4-7 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと（性／年齢別、上位8項目）



性／年齢別では、「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」は、女性の30歳代が6割前半で最も多くなっている。「防犯対策」は、女性の20歳代と30歳代が5割後半で多くなっている。「高齢者のための施策」は、男女ともに60歳代と70歳以上が約6割台と多くなっている。「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策」は、男性の70歳以上と女性の20歳代が5割台で多くなっている。「子どものための施策」は、女性の30歳代が6割前半で最も多くなっている。(図表4-7)

図表4-8 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと（居住区別、上位8項目）



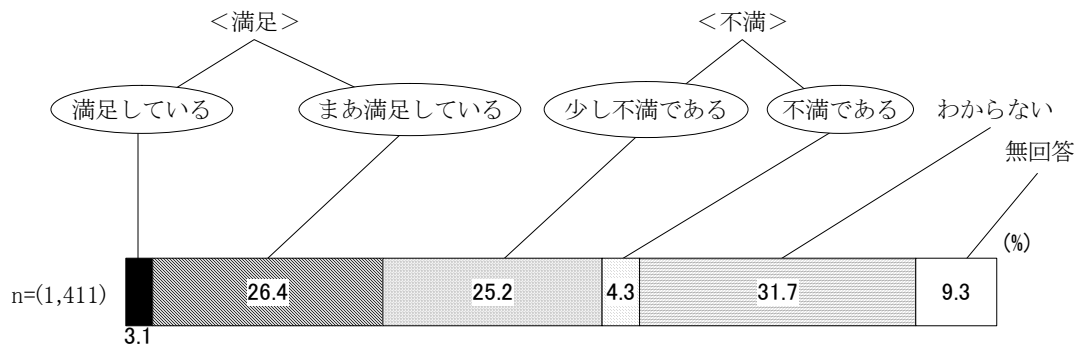
居住区別では、「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」は、麻生区が6割台前半で最も多くなっている。「防犯対策」は、いずれの居住区においても4割台半ばから5割台前半となっている。「高齢者のための施策」は、幸区と麻生区が5割台となっている。「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策」は、麻生区が4割台半ばで最も多くなっている。「大気汚染や騒音・振動などの公害防止対策」は、幸区が約5割、川崎区が4割台前半となっている。(図表4-8)

4-3 施策や事業の総合的な満足度

◎ <満足>と<不満>は29.5%で同率

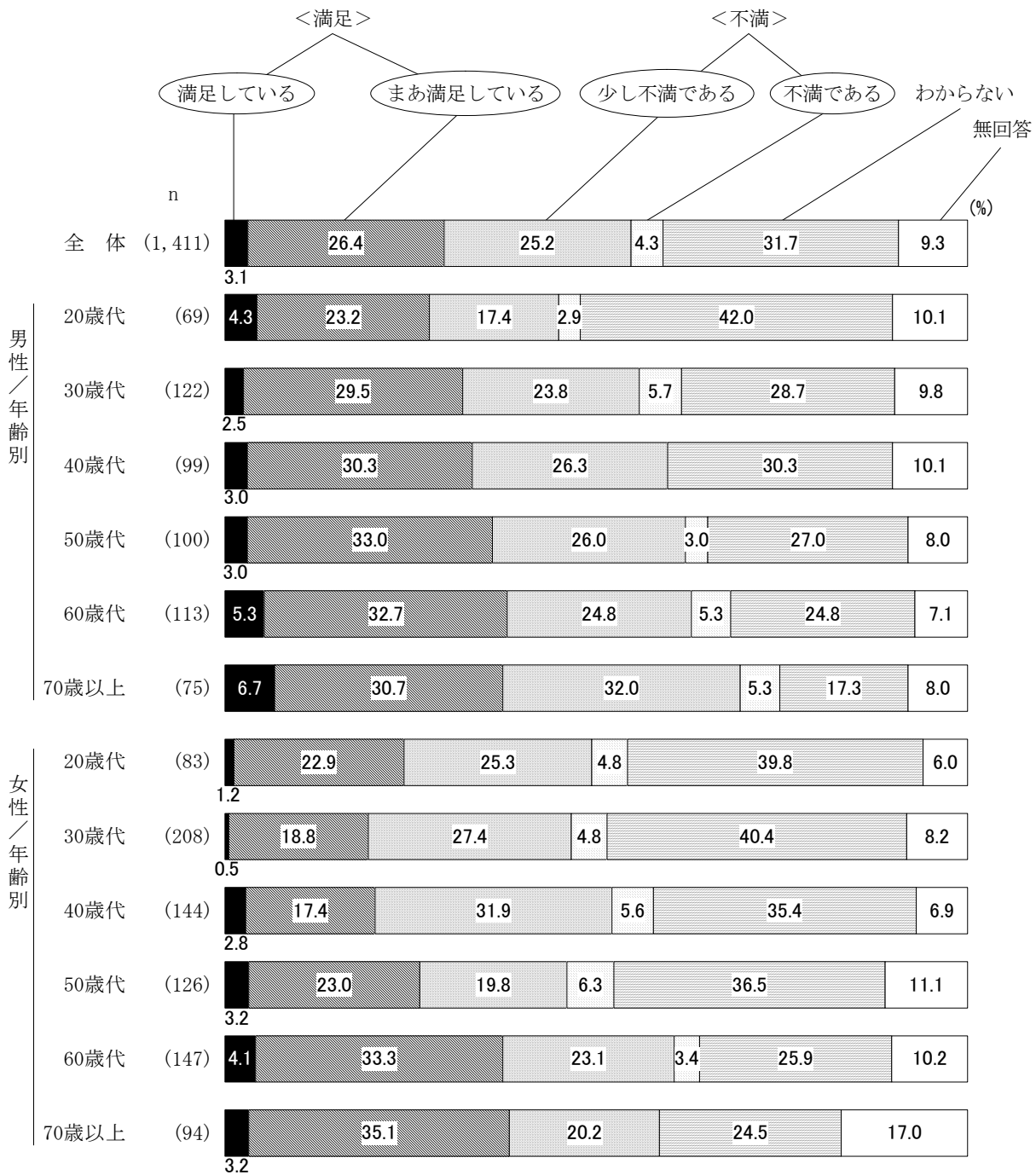
問9 川崎市が進めている施策や事業を総合的に見た場合、どの程度満足していますか。(○は1つ)

図表4-9 施策や事業の総合的な満足度



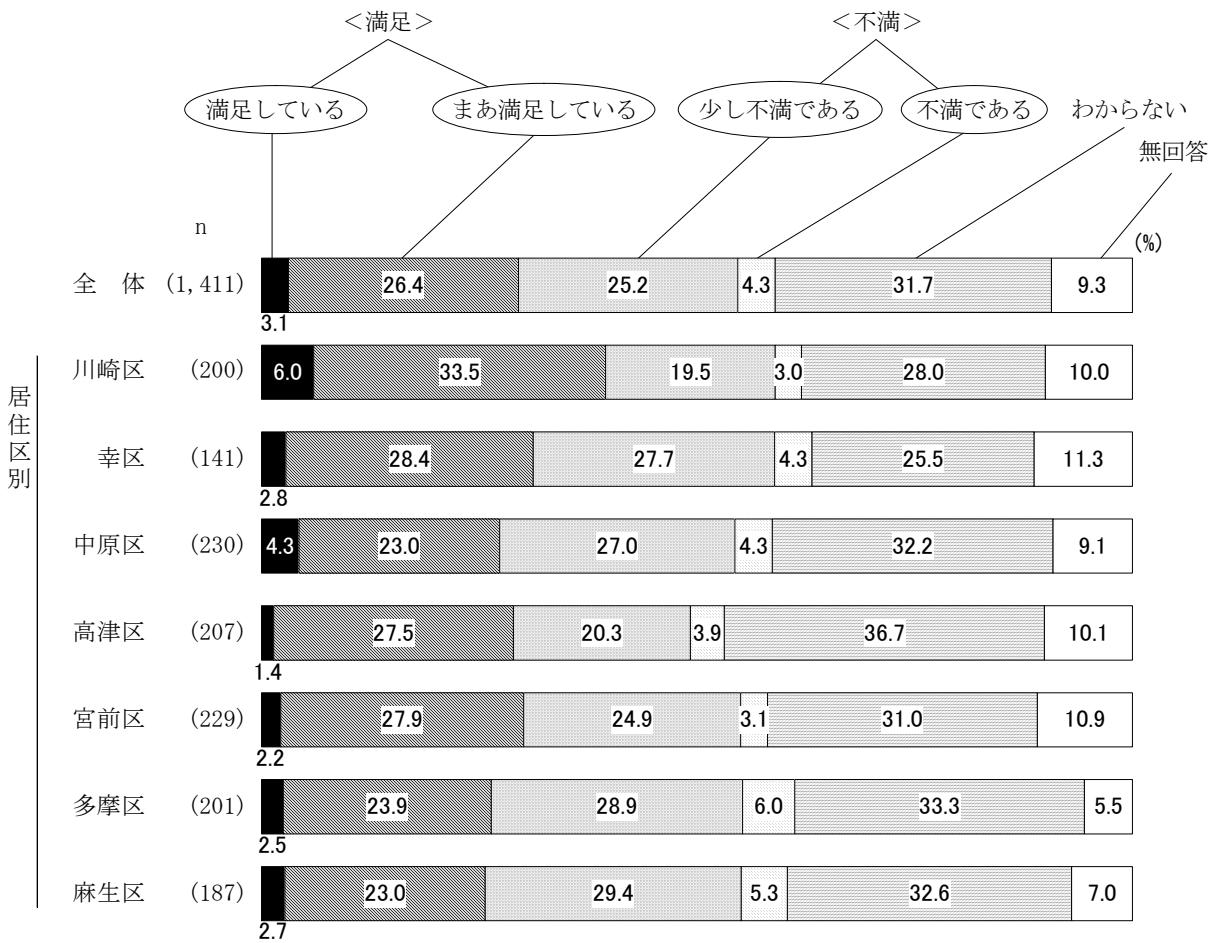
施策や事業の総合的な満足度は、「満足している」(3.1%)と「まあ満足している」(26.4%)をあわせた<満足>は29.5%となっている。一方、「少し不満である」(25.2%)と「不満である」(4.3%)をあわせた<不満>は29.5%となっており、<満足>と<不満>は、同じ割合となっている。(図表4-9)

図表4-10 施策や事業の総合的な満足度（性／年齢別）



性／年齢別では、＜満足＞は、男性の50歳代から70歳以上、女性の60歳代と70歳以上が3割台後半で多くなっている。一方、＜不満＞は、男性の70歳以上、女性の40歳代が3割台後半で多くなっている。（図表4-10）

図表4-11 施策や事業の総合的な満足度(居住区別)



居住区別では、<満足>は、川崎区が約4割で最も多く、幸区が3割台前半となっている。一方、<不満>は、多摩区、麻生区が3割台半ばと多くなっている。(図表4-11)

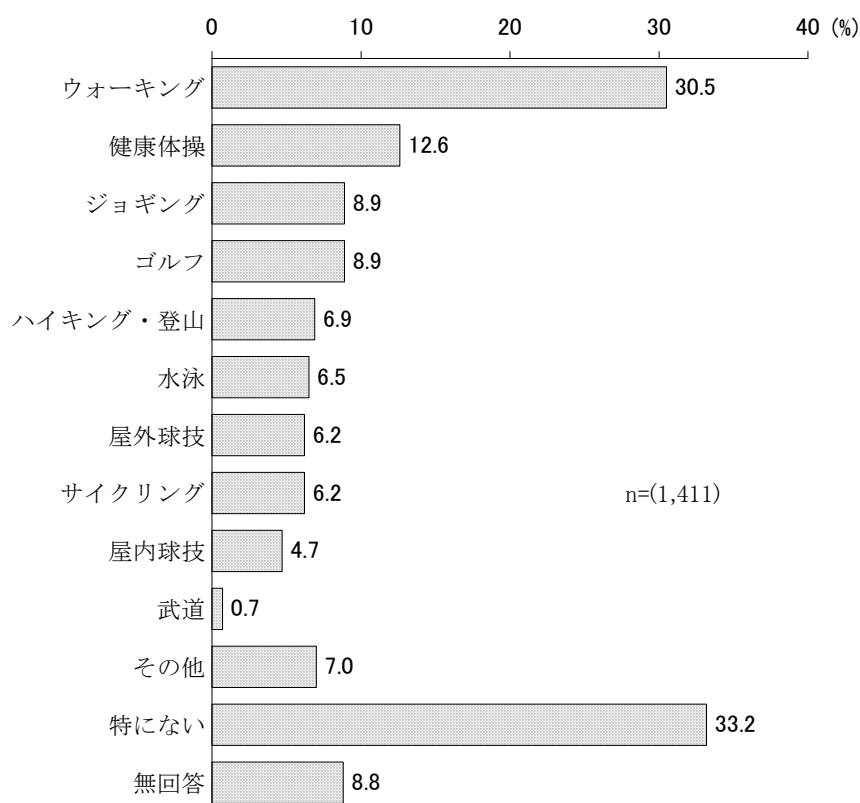
5 スポーツに関する意識・体験について

5-1 現在取り組んでいるスポーツ

◎ 「特にない」が33.2%、「ウォーキング」が30.5%

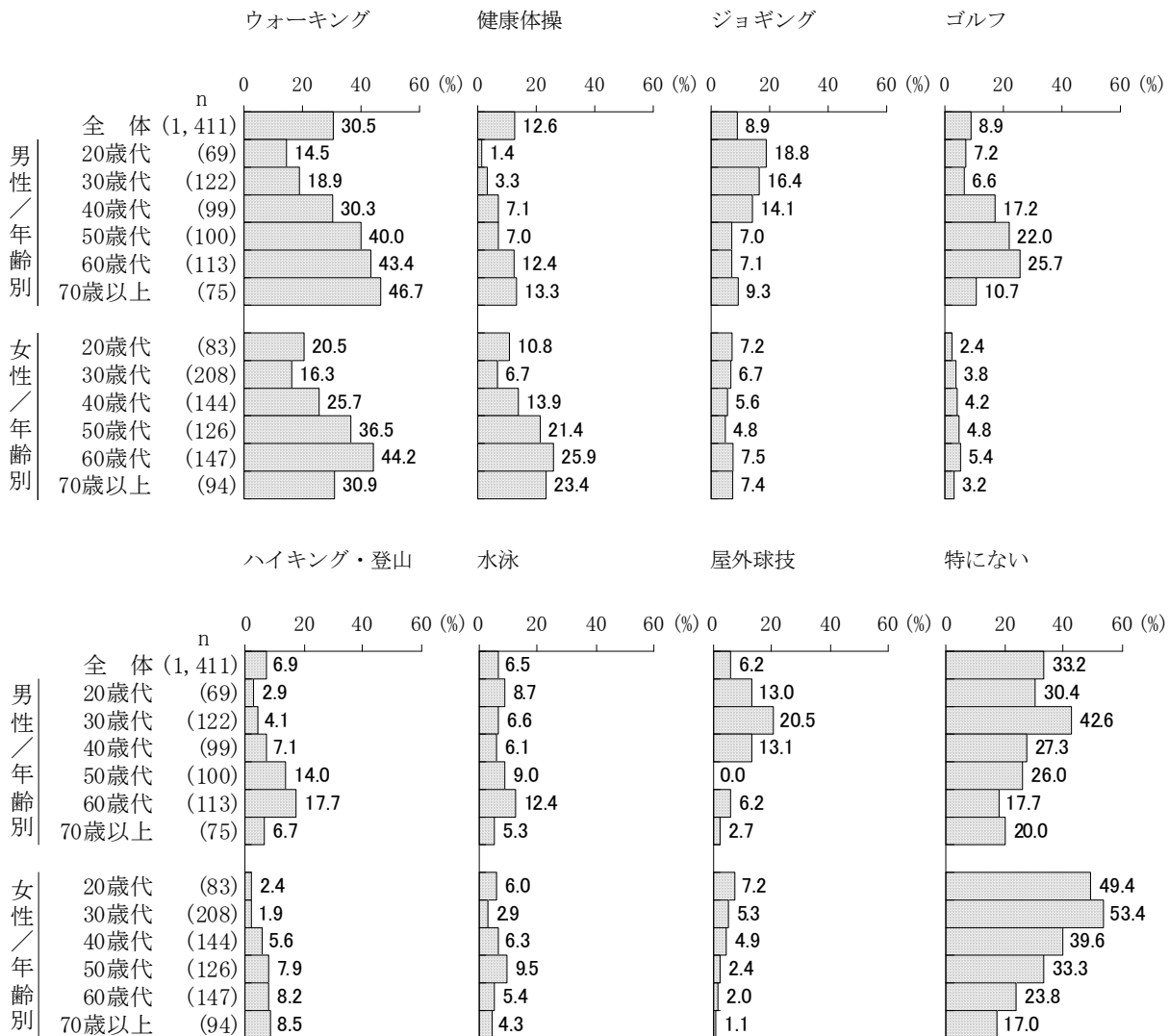
問10 あなたは現在、どのようなスポーツに取り組んでいますか。(〇は3つまで)

図表5-1 現在取り組んでいるスポーツ



現在取り組んでいるスポーツは、「特にない」が33.2%で最も多くなっている。スポーツの中では、「ウォーキング」(30.5%)が最も多い。以下「健康体操」(12.6%)、「ジョギング」(8.9%)、「ゴルフ」(8.9%)と続いている。(図表5-1)

図表5-2 現在取り組んでいるスポーツ（性／年齢別、上位7項目、「特にない」）



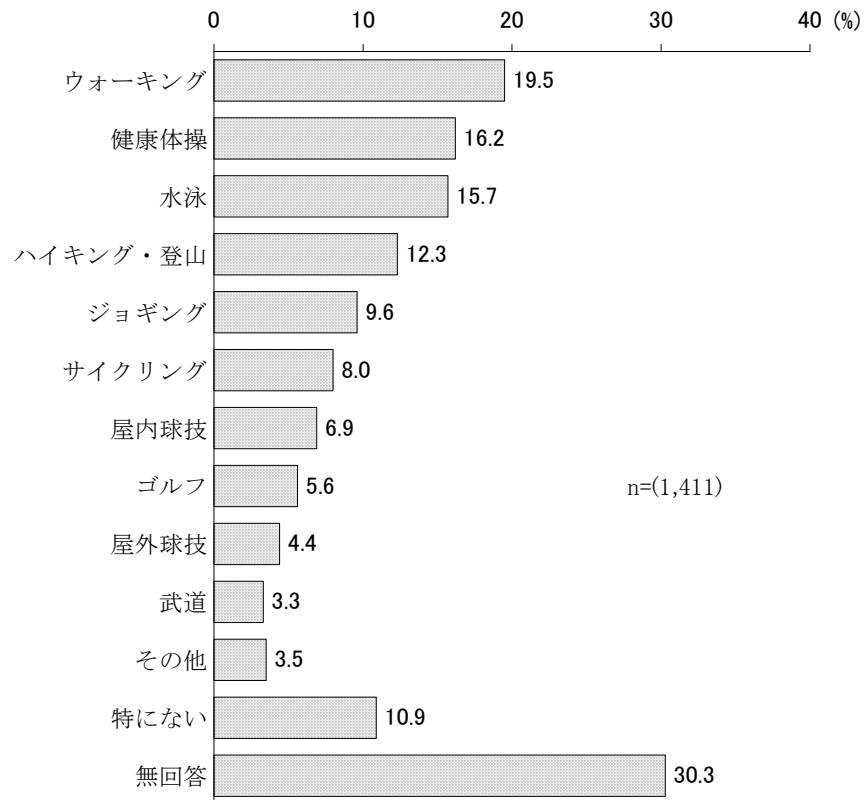
性／年齢別では、「ウォーキング」は、男女ともに年齢が高くなるにつれ、割合が多くなる傾向となっており、特に男性の70歳以上が4割台後半となっている。「健康体操」についても、男女ともに年齢が高くなるにつれ、割合が多くなる傾向となっており、特に女性の60歳代が2割台半ばとなっている。「ジョギング」は、男性の20歳代と30歳代が1割台後半と多くなっている。「ゴルフ」は、男性の40歳代から60歳代が多く、特に60歳代が2割台半ばである。「ハイキング・登山」は、男性の60歳代が1割台後半、男性の50歳代が1割台前半となっている。「屋外球技」は、男性の30歳代が約2割で最も多くなっている。一方、「特にない」は、男女ともに30歳代が最も多く、女性は5割台前半、男性は4割台前半となっている。(図表5-2)

5-2 今後取り組みたいスポーツ

◎ 「ウォーキング」が19.5%

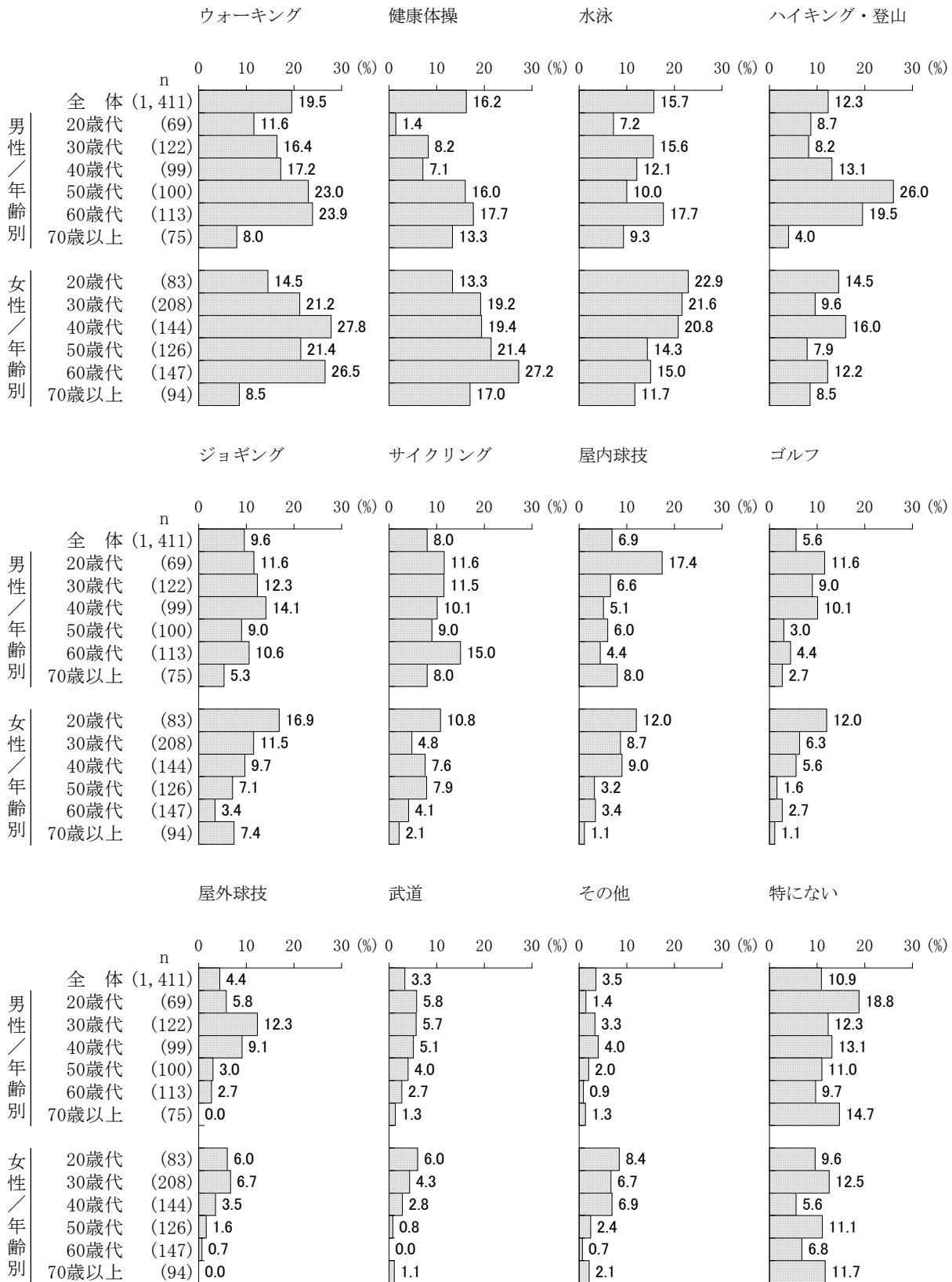
問11 また、今後どのようなスポーツに取り組みたいと思いますか。(〇は3つまで)

図表5-3 今後取り組みたいスポーツ



今後取り組みたいスポーツは、「ウォーキング」(19.5%)が最も多くなっている。以下「健康体操」(16.2%)、「水泳」(15.7%)、「ハイキング・登山」(12.3%)と続いている。一方、「特にない」が10.9%となっている。(図表5-3)

図表5-4 今後取り組みたいスポーツ（性／年齢別）



性／年齢別では、「ウォーキング」は男性の50歳代と60歳代、女性の40歳代と60歳代で2割台半ば以上となっている。「健康体操」は、女性の60歳代が2割台後半で最も多くなっている。「水泳」は、女性の20歳代から40歳代が2割台と多くなっている。「ハイキング・登山」は、男性の50歳代が2割台後半で多くなっている。(図表5-4)

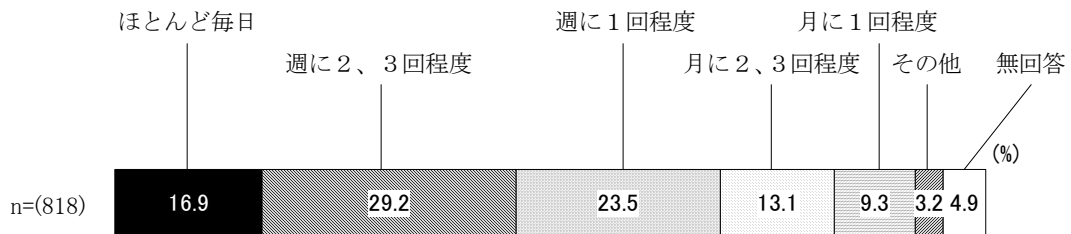
5-3 スポーツに取り組んでいる頻度

◎ 「週に2、3回程度」が29.2%

(問10で「1」～「11」のいずれかに答えた方にうかがいます。)

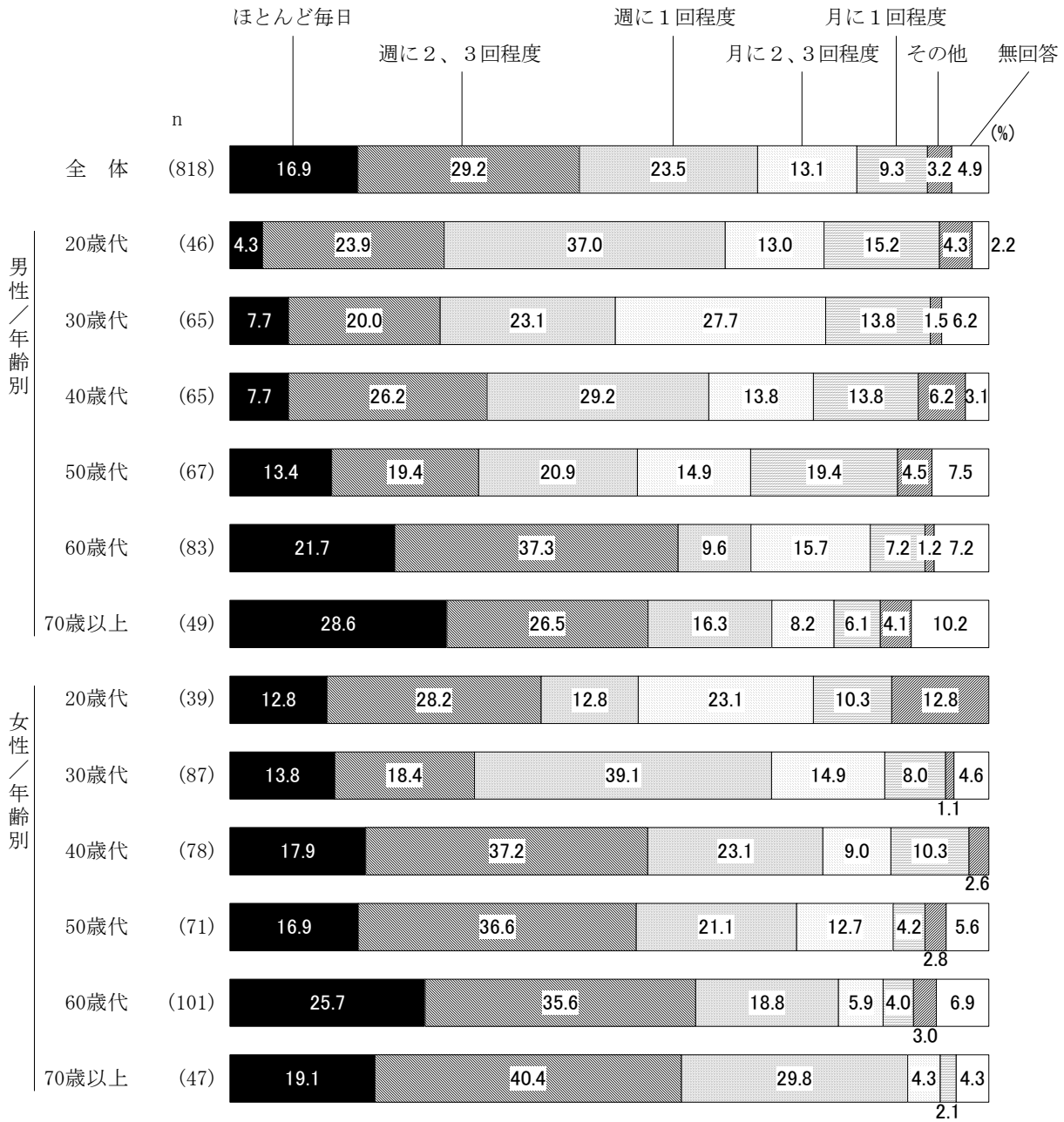
問12 あなたはスポーツをどのくらいの頻度で取り組んでいますか。(○は1つ)

図表5-5 スポーツに取り組んでいる頻度



スポーツに取り組んでいる頻度は、「週に2、3回程度」(29.2%)が最も高くなっている。以下「週に1回程度」(23.5%)、「ほとんど毎日」(16.9%)、「月に2、3回程度」(13.1%)と続いている。(図表5-5)

図表5-6 スポーツに取り組んでいる頻度(性/年齢別)



性/年齢別では、「ほとんど毎日」「週に2、3回程度」をあわせると、男女ともに60歳代の割合が最も多くなっている。「ほとんど毎日」は、男性の60歳代と70歳以上、女性の60歳代が2割台となっている。(図表5-6)

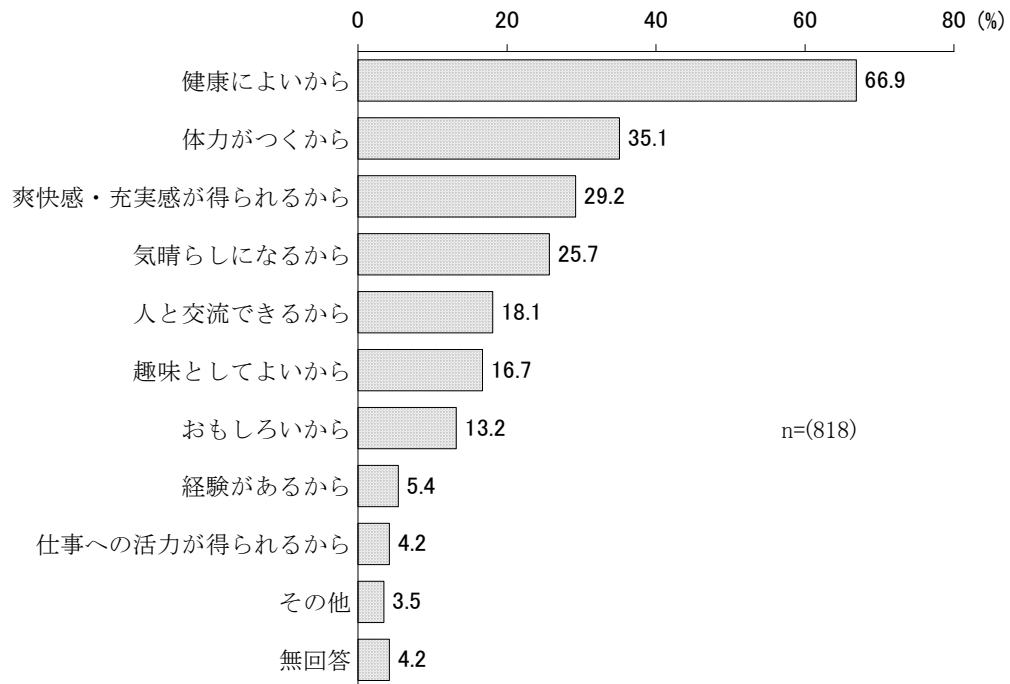
5-4 スポーツをする理由

◎ 「健康によいから」が66.9%

(問10で「1」～「11」のいずれかに答えた方にうかがいます。)

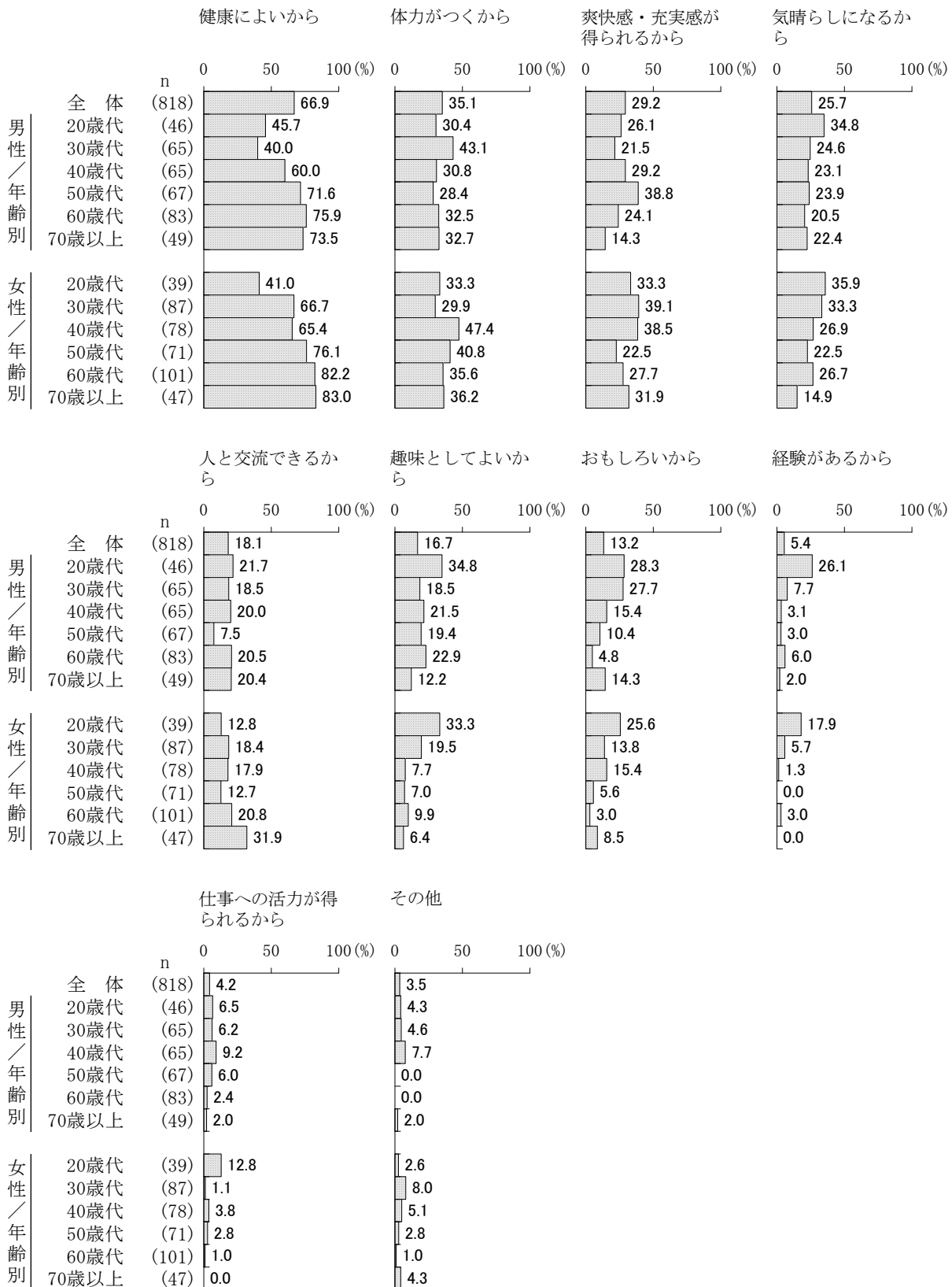
問12-(1) スポーツをする理由は何ですか。(○は3つまで)

図表5-7 スポーツをする理由



スポーツをする理由は、「健康によいから」(66.9%)が最も多くなっている。以下「体力がつくから」(35.1%)、「爽快感・充実感が得られるから」(29.2%)、「気晴らしになるから」(25.7%)、「人と交流できるから」(18.1%)、「趣味としてよいから」(16.7%)と続いている。(図表5-7)

図表5-8 スポーツをする理由(性/年齢別)



性/年齢別では、「健康によいから」は、男女ともに年齢が高くなるにつれ、割合が多くなる傾向となっており、女性の60歳代と70歳以上は8割台と最も多くなっている。「体力がつくから」は、女性の40歳代が4割台後半で多くなっている。「気晴らしになるから」、「趣味としてよいから」は、男女ともに20歳代で割合が最も多くなっている。(図表5-8)

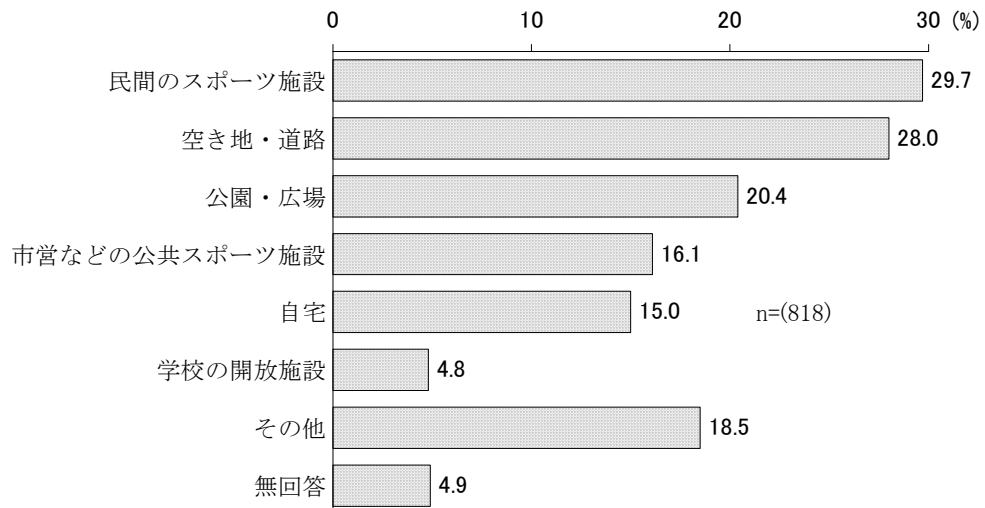
5-5 スポーツを行っている場所

◎ 「民間のスポーツ施設」が29.7%、「空き地・道路」が28.0%

(問10で「1」～「11」のいずれかに答えた方にうかがいます。)

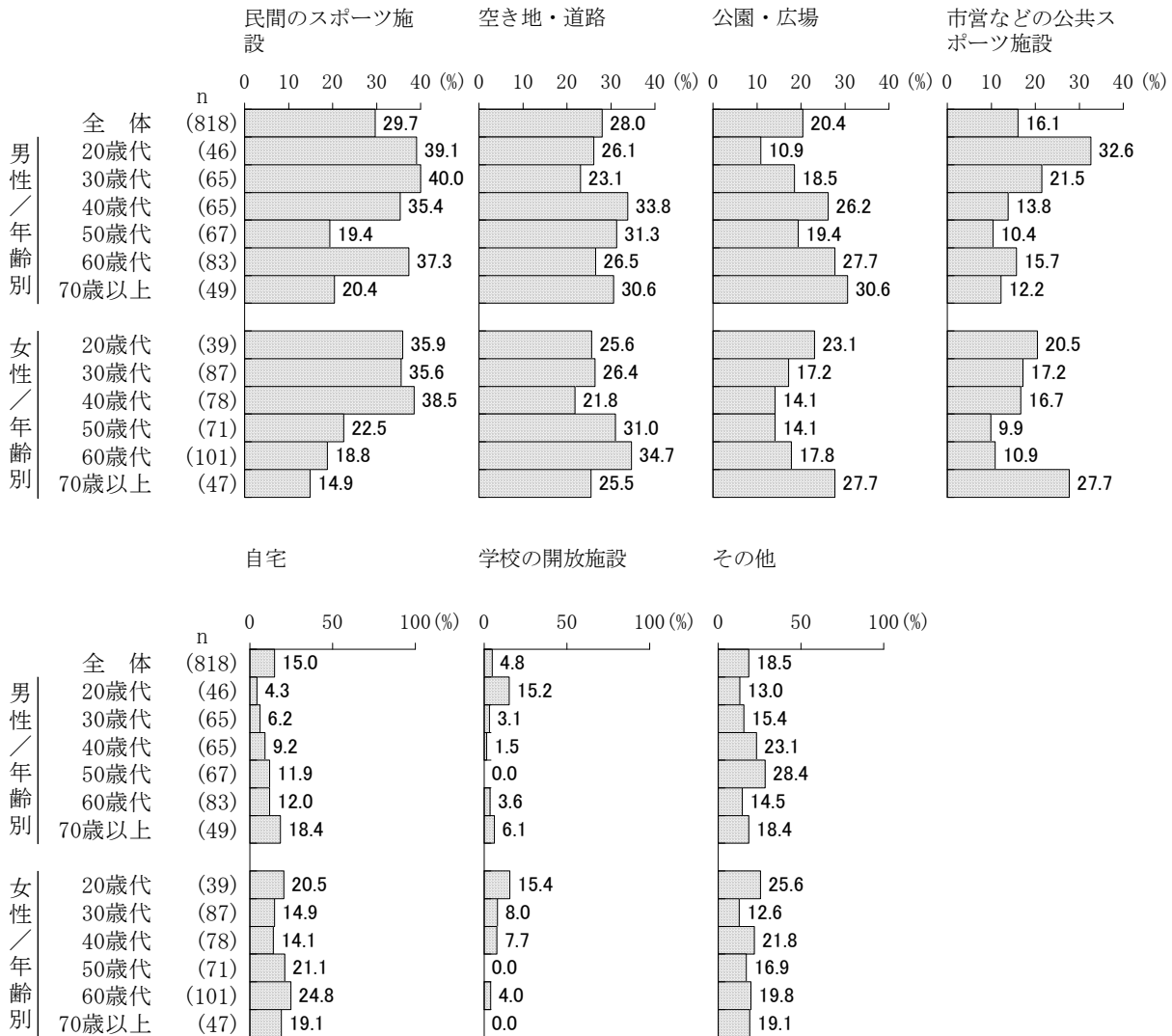
問12-(2) スポーツを主にどこで行っていますか。(あてはまるものすべてに○)

図表5-9 スポーツを行っている場所



スポーツを行っている場所は、「民間のスポーツ施設」(29.7%)、「空き地・道路」(28.0%)が多くなっている。以下「公園・広場」(20.4%)、「市営などの公共スポーツ施設」(16.1%)、「自宅」(15.0%)と続いている。(図表5-9)

図表5-10 スポーツを行っている場所（性／年齢別）



性／年齢別では、「民間のスポーツ施設」は、男女ともに20歳代から40歳代が3割台半ばから4割で多くなっている。「空き地・道路」は、女性の60歳代が3割台半ばで多くなっている。「公園・広場」は、男性の70歳以上が約3割で多くなっている。(図表5-10)

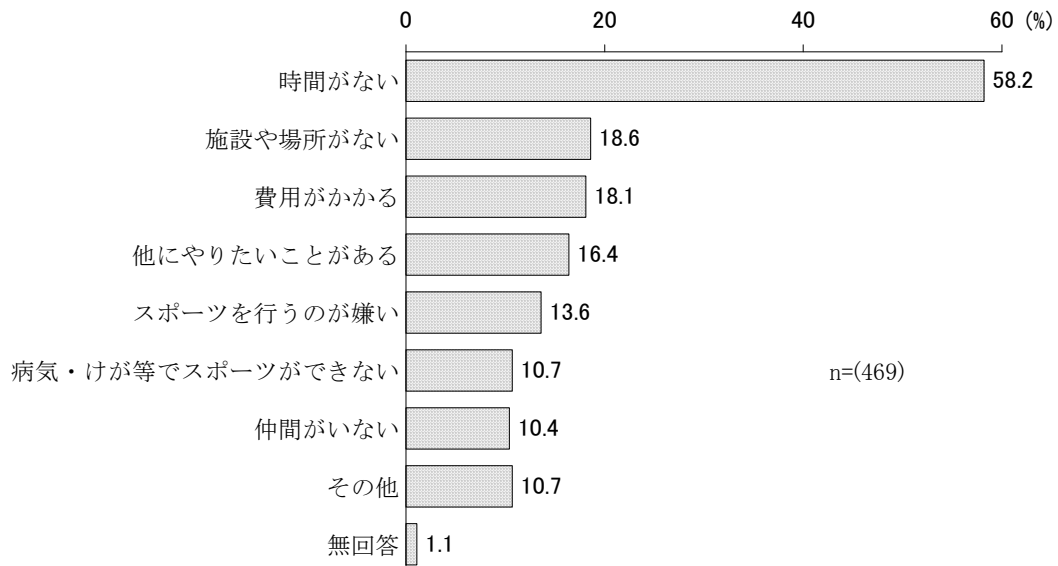
5-6 スポーツを行っていない理由

◎ 「時間がない」が58.2%

(問10で「12. 特にない」と答えた方にうかがいます。)

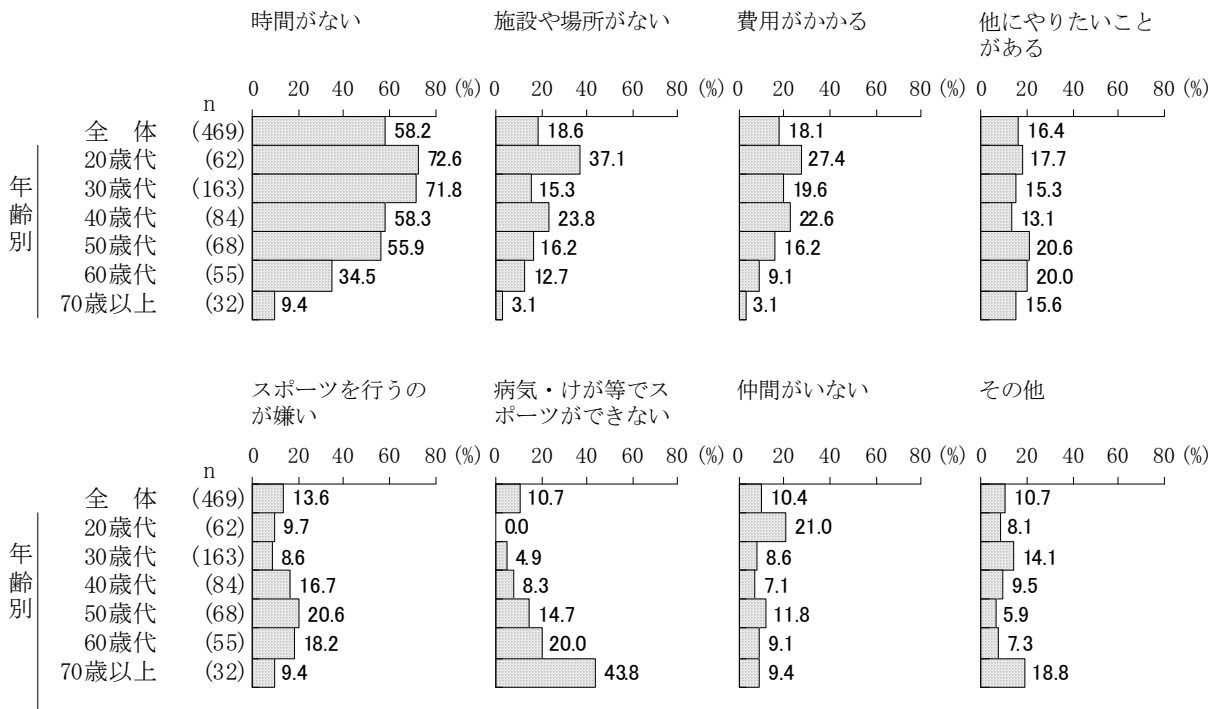
問13 スポーツを行っていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表5-11 スポーツを行っていない理由



スポーツを行っていない理由は、「時間がない」(58.2%)が最も多くなっている。以下「施設や場所がない」(18.6%)、「費用がかかる」(18.1%)、「他にやりたいことがある」(16.4%)、「スポーツを行うのが嫌い」(13.6%)と続いている。(図表5-11)

図表5-12 スポーツを行っていない理由(年齢別)



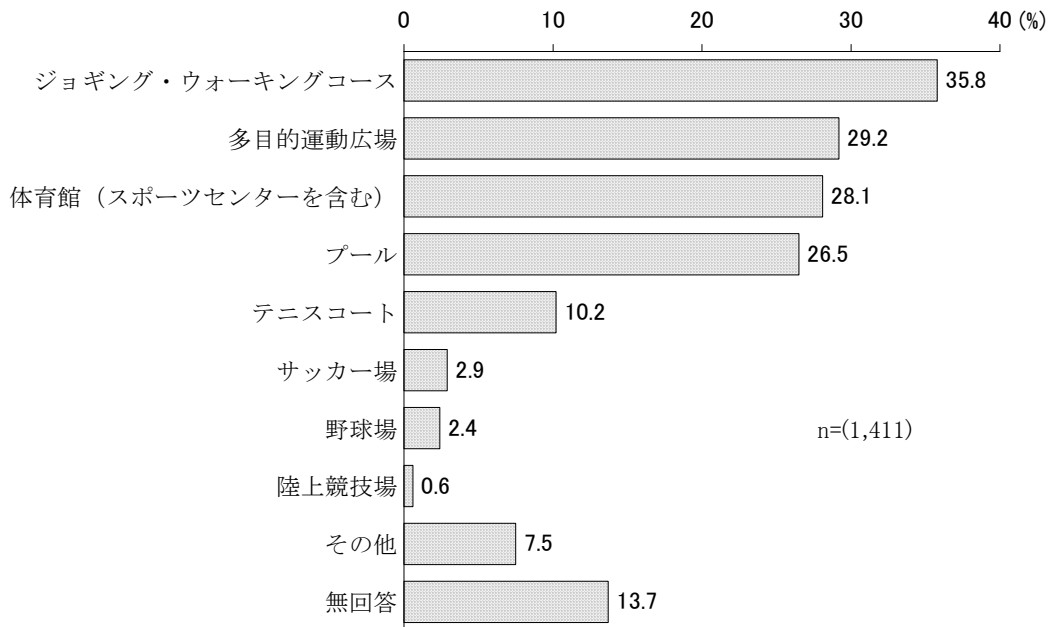
年齢別では、「時間がない」は、20歳代と30歳代が7割台前半で多くなっている。「施設や場所がない」は、20歳代が3割台後半で多くなっている。「費用がかかる」は、20歳代が2割台後半で多くなっている。「病気・けが等でスポーツができない」は、70歳以上が4割台で最も多くなっている。(図表5-12)

5-7 今後増やしてほしいスポーツ施設

◎ 「ジョギング・ウォーキングコース」が35.8%

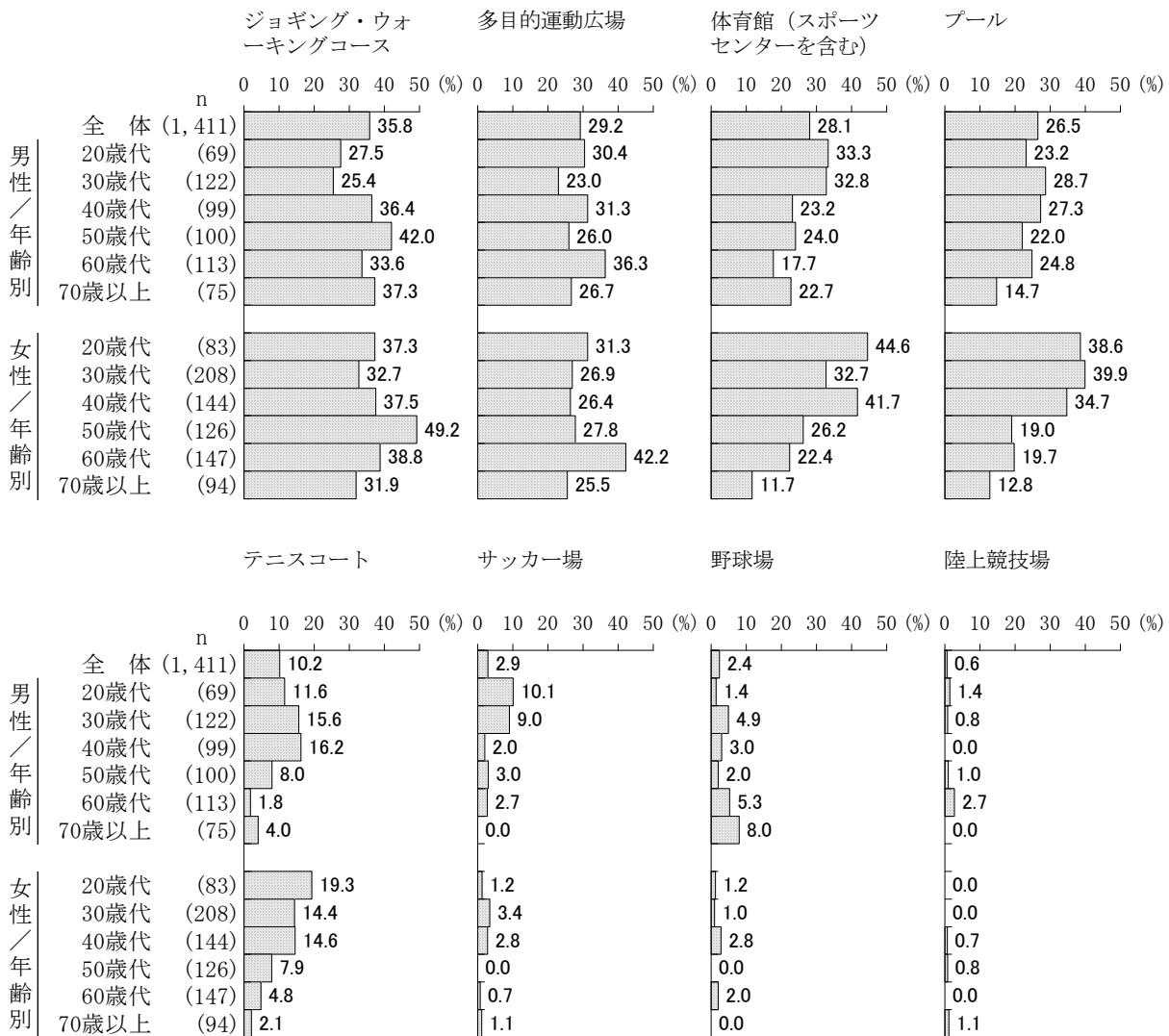
問14 今後、あなたがお住まいの区内で増やしてほしいスポーツ施設は何ですか。(〇は3つまで)

図表5-13 今後増やしてほしいスポーツ施設



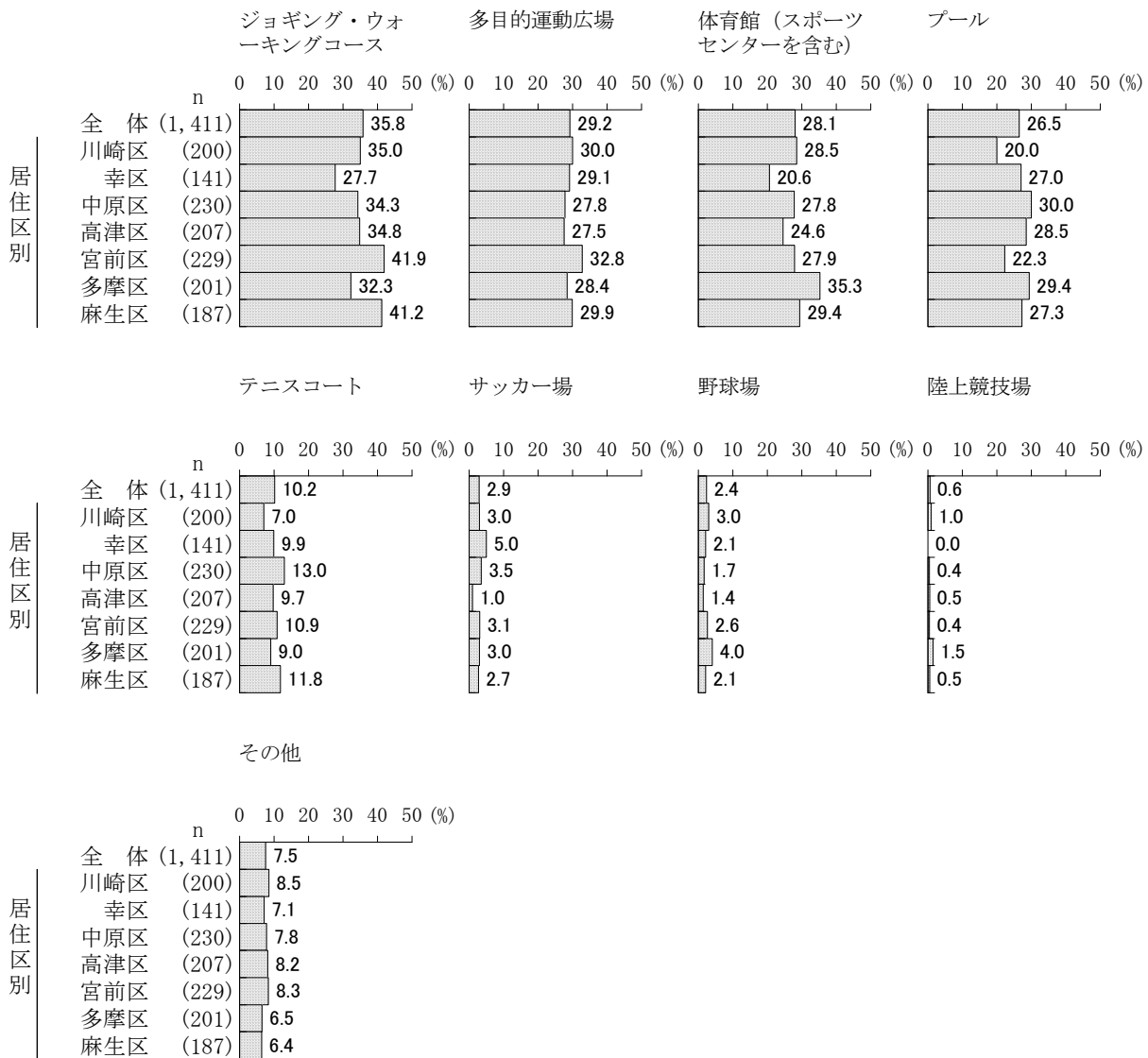
今後増やしてほしいスポーツ施設は、「ジョギング・ウォーキングコース」(35.8%)が最も多くなっている。以下「多目的運動広場」(29.2%)、「体育館 (スポーツセンターを含む)」(28.1%)、「プール」(26.5%)と続いている。(図表5-13)

図表5-14 今後増やしてほしいスポーツ施設（性／年齢別）



性／年齢別では、「ジョギング・ウォーキングコース」は、男女ともに50歳代が最も多く、女性で約5割、男性で4割台前半となっている。「多目的運動広場」は、男女ともに60歳代が最も多く、女性で4割台前半、男性で3割台後半となっている。「体育館 (スポーツセンターを含む)」は、女性の20歳代と40歳代が4割台で多くなっている。「プール」は、女性の20歳代から40歳代で3割台半ば以上となっている。(図表5-14)

図表5-15 今後増やしてほしいスポーツ施設（居住区別）



居住区別では、「ジョギング・ウォーキングコース」は、宮前区と麻生区が4割台前半で多くなっている。「多目的運動広場」は、いずれの居住区においても2割台後半から3割台前半となっている。「体育館 (スポーツセンターを含む)」は、多摩区が3割台半ばで最も多くなっている。(図表5-15)